

# トヨタの概況 2007

データで見る世界の中のトヨタ



**TOYOTA**

## はじめに

本年も広報資料「トヨタの概況 2007」をお届けいたします。

トヨタは2006年を「成長を続けながら、足元を固めていく1年」と位置付け、各種プロジェクトに取り組んでまいりました。

商品面では、レクサスブランドの旗艦車種となるLS、世界戦略車であるカムリといったグローバルモデルの新型を、日本を皮切りに世界で発売いたしました。日本においても、最量販車種であるカローラをモデルチェンジするなど、積極的な商品投入を行いました。

生産面では、世界で各種プロジェクトが順調に立ち上がりました。5月に中国・広州でカムリの生産を開始しました。米国においては10月に設立20周年を迎えたケンタッキー工場が、北米初のHV車生産となるカムリHVの生産をスタートし、11月にはテキサス工場が新型タンドラの生産を開始しています。また、日本においても、トヨタ自動車九州(株)のエンジン工場が本格稼動するとともに、トヨタ自動車東北(株)も生産能力を増強いたしました。

人材育成の面では、2005年8月にタイに設立したアジア・パシフィック・グローバル生産推進センターに続いて、2006年2月に米国に北米生産サポートセンター、同3月には英国に欧州グローバル生産推進センターを設立しました。これらは急速に進む海外生産拡大に伴い、トヨタのモノづくりの考えやベストな技能をスピーディに海外製造事業体に展開することが必要との考えから、2003年に日本に設立したグローバル生産推進センターのブランチとして設立したものです。海外ブランチは、各地域にある現地製造事業体の現場のトレーナーの育成を目的とするもので、研修生はここで学んだノウハウを各工場に持ちかえり、チームメンバーの育成に努めることとなります。

研究開発の面では、社会の要請である「環境・安全・エネルギー」をキーワードに力を注いでまいりました。特に環境面ではハイブリッド車のラインアップを一層充実させるとともに、プラグインハイブリッドの研究開発にも積極的に取り組んでおります。また、エネルギー多様化への対応としては、ブラジル市場にバイオエタノール100%燃料にも対応可能なFFV(\*)を2007年に導入する予定です。今後も、地域ごとのインフラの状況やお客様のニーズに沿い、「適地・適時・適車」の考えのもと、環境対応技術の開発とエコカーの展開を強力に推進してまいります。

当資料は、会社の概況、研究・開発、生産・販売・輸出、環境・安全への取り組み、社会貢献活動などのトヨタの取り組みを幅広く紹介しています。当社の企業活動をご理解いただく一助として、当資料をご活用いただければ幸いです。

\* FFV = FLEX FUEL VEHICLE  
(ガソリンとエタノールなどを任意の比率で混合した燃料が使用可能な自動車)

2007年4月  
トヨタ自動車株式会社 広報部

当資料は当社のホームページ「トヨタ自動車グローバルサイト」にもPDF形式で掲載しています。  
頁イメージのままダウンロードしてご覧いただけます。

[http://www.toyota.co.jp/jp/about\\_toyota/](http://www.toyota.co.jp/jp/about_toyota/)

# トヨタの概況 2007・総目次

会社概要 ●	
企業理念 ●	2
2010年グローバルビジョン Innovation into the Future ●	4
トヨタウェイ ●	6
アウトライン ●	7
研究・開発 ●	8
技術開発の歴史 ●	10
海外における活動 ●	
海外の製造事業体一覧 ●	12
北米での活動 ●	14
中南米での活動 ●	15
ヨーロッパでの活動／アフリカでの活動 ●	16
アジアでの活動 ●	17
オセアニア・中近東での活動 ●	20
地域別生産・販売・輸出台数 ●	21
国・地域別販売車種 ●	22
日本における活動 ●	
トヨタグループとサプライヤー ●	23
国内の生産・販売体制 ●	24
販売体制 ●	25
車名別国内生産台数 ●	26
車名別国内登録台数 ●	27
国内販売車両一覧 ●	28
LEXUS ●	29
環境への取り組み ●	30
安全への取り組み ●	33
社会貢献活動 ●	35
ITS ●	40
ウェルキャブ ●	42
モータースポーツ ●	43
GAZOO／自動車部品 ●	44
トヨタレンタリース／U-Car(中古車) ●	45
住宅事業 ●	46
金融事業 ●	47
新規事業 ●	48
国内文化施設等 ●	50
沿 革 ●	51
<b>データ編</b> 世 界 ●	54
自動車生産	
日 本 ●	56
自動車生産 56／自動車登録・届出台数 57	
自動車輸出・輸入 58	
自動車関係税制 59／自動車リサイクル法 60	

## 人・社会・地球環境と調和し、モノづくりを通して持続可能な社会の発展を目指します。

トヨタは創業以来、時代をリードする製品とサービスの提供に努めることによって、社会の発展に貢献してきました。その基本は、「トヨタ基本理念」とその解説書の「社会・地球の持続可能な発展への貢献」にあります。2002年には「2010年グローバルビジョン」を策定し、人・社会・地球環境のために目指すべき理想の姿を示しました。これからも、モノづくりを通じて持続可能な社会の実現に努めます。

### ■トヨタ基本理念

「トヨタ基本理念」(1992年制定、1997年改正)は、創業以来確立されたトヨタ独自の経営上の考え方・価値観・手法を踏まえ、「どのような会社でありたいか」をまとめたものです。その内容を理解・共有し、企業活動を通じ、社会に貢献することを目指しています。

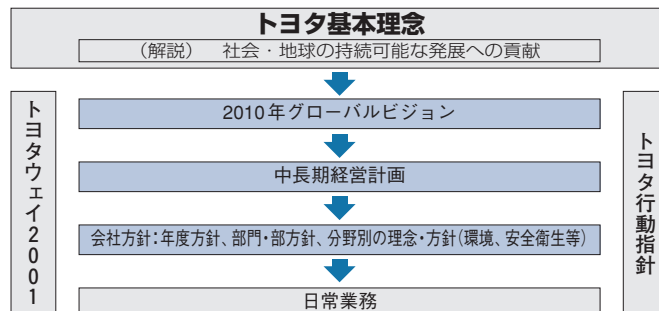
## トヨタ基本理念

< 1992年1月制定、1997年4月改正 >

1. 内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
2. 各国、各地域の文化・慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
3. クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む
4. 様々な分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する
5. 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
6. グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす
7. 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

### ■トヨタ基本理念と各規定類との関係

「トヨタ基本理念」のもと、2002年に「2010年グローバルビジョン」を策定。その実現に向けた中長期経営計画等を立案し、達成すべき目標を定め、実現に努めています。また従業員は、「トヨタ基本理念」を実践する上で、共有すべき価値観や手法がまとめられた「トヨタウェイ2001」、「トヨタ行動指針」を行動原則とし、日常業務にあたっています。



■社会・地球の持続可能な発展への貢献

「トヨタ基本理念」の解説書として、2005年1月に「社会・地球の持続可能な発展への貢献」を策定、すべてのステークホルダーを重視し、社会・地球の調和のとれた持続可能な発展に貢献することを明記しました。また2007年1月に、CSR諸活動の更なる強化・対外的な情報発信の充実を狙いとし、CSR企画機能を環境部内に設置し、CSR・環境部に改組しました。

〈お客様〉

- 私たちは、「お客様第一主義」という信念に基づき、世界中の人々の生活を豊かにするために、お客様の様々な期待に応える革新的・安全かつ卓越した高品質な製品とサービスを開発・提供します。(基本理念3, 4)
- 私たちは各国の法およびその精神を遵守し、お客様の個人情報保護の徹底に努めます。(基本理念1)

〈従業員〉

- 私たちは、「事業活動の成功は従業員一人一人の創造力と優れたチームワークによってこそ達成される」との信念のもと、従業員を尊重し、個々人の成長を支援します。(基本理念5)
- 私たちは、均等な雇用機会を提供するとともに、従業員の多様性・一体感の確保に努力します。また、従業員に対する差別を行いません。(基本理念5)
- 私たちは、全従業員に対し公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。(基本理念5)
- 私たちは、事業活動に関わる全ての人々の人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。(基本理念5)
- 私たちは、従業員との誠実な対話と協議を通じ、「相互信頼・相互責任」の価値観を構築し共に分かち合います。そして、従業員と会社がお互いに繁栄するよう共に努力します。(基本理念5)
- 私たちは、経営トップの率先垂範のもと、倫理的な行動を促す企業文化を育て、それを実践していきます。(基本理念1, 5)

〈取引先〉

- 私たちは、サプライヤー・販売店などの取引先を尊重し、長期的な視野に立って相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。(基本理念7)

- 私たちは、取引先の決定にあたっては、全ての候補に対しその国籍または規模に関わらず門戸を開き、その総合的な強みに基づき判断します。(基本理念7)
- 私たちは、各国の競争法の規定と精神を遵守し、公正かつ自由な取引を維持します。(基本理念1, 7)

〈株主〉

- 私たちは、株主の利益のために、長期安定的な成長を通じ企業価値の向上を目指します。(基本理念6)
- 私たちは、株主および投資家に対して、事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。(基本理念1, 6)

〈地域社会・グローバル社会〉

環境

- 私たちは、あらゆる事業活動を通じ環境保全に努め、環境と経済を両立する技術の開発と普及に取り組むとともに、社会の幅広い層との連携を図り、環境との調和ある成長を目指します。(基本理念3)

社会

- 私たちは、各国の文化・慣習・歴史および法令を尊重し、「人間性尊重」の経営を実践します。(基本理念2)
- 私たちは、社会が求めるサステイナブル・モビリティの実現に向けて、安全でクリーンかつ社会のニーズを満たす優れた技術を常に追求し、製品の開発を行います。(基本理念3, 4)
- 私たちは、政府や取引先による贈収賄を許さず、行政府諸機関と誠実かつ公正な関係を維持します。(基本理念1)

社会貢献

- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、独自にまたはパートナーと協力して、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。(基本理念2)

「2010年グローバルビジョン」は、2010年代におけるトヨタの将来の目指すべき企業像です。「Innovation into the Future ～豊かな社会創りに情熱をかけて～」をスローガンに掲げ、「豊かな新世紀社会の実現」に向け、強い情熱と高い志を持って4つのテーマを軸にグローバルビジョンを展開していきます。

■2010年グローバルビジョン

2010年グローバルビジョン

Innovation into the Future

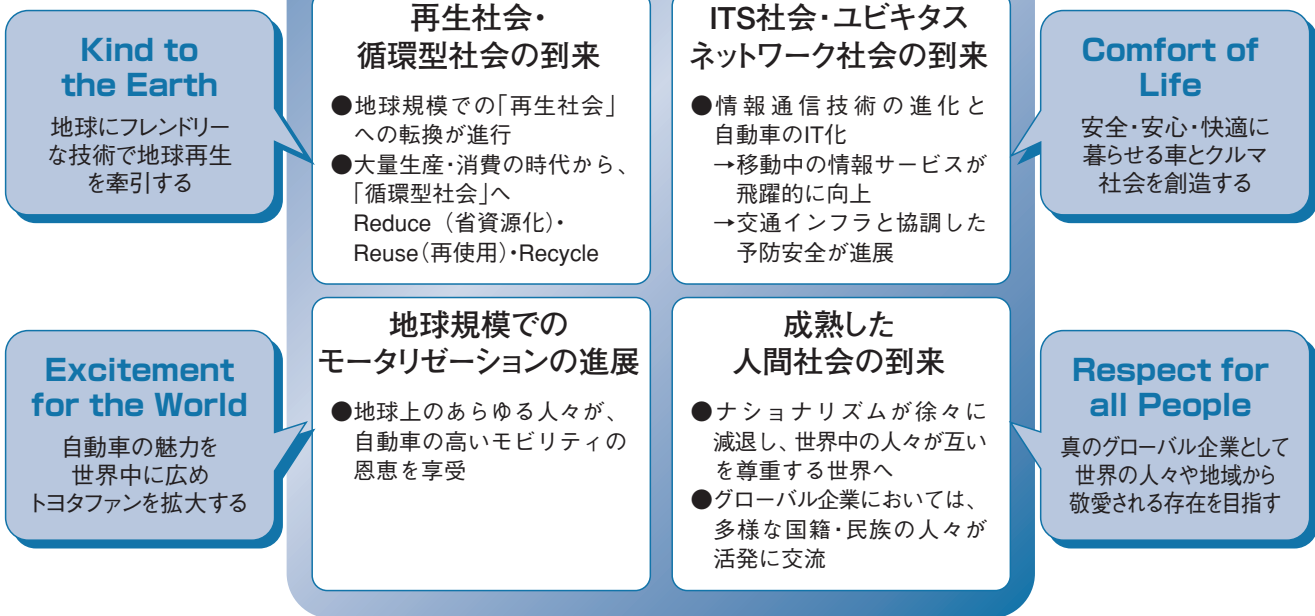
～豊かな社会創りに情熱をかけて～

創業以来の精神である『モノづくり、車づくりを通して社会に貢献する』  
ということの意味を今一度かみしめ、強い情熱と高い志を持って、  
『豊かな新世紀社会を実現する』ために邁進する。



トヨタが目指すべき企業像

2020～30年頃に期待する社会





## 目指すべき企業像を実現するための パラダイムチェンジ

### 1. 技術開発・ 商品開発

- (1) R&D体制の刷新と革新的な生産技術開発
- (2) 商品づくりの体制刷新

### パラダイムチェンジ

将来目指すべき企業像を実現するため、  
従来の構造や体質、手法を大胆に見直す  
パラダイムチェンジに、果敢に取り組む

### 2. マネジメント

- (1) グローバル経営体制の刷新
- (2) グループ体制の刷新
- (3) 多様な人材のチームワーク

### 3. 収益構造

- (1) グローバルにリスクヘッジの効いたバランスある構造へ刷新
- (2) あらゆるステークホルダーを重視した経営および資本効率重視経営

トヨタウェイによる価値観の共有

トヨタが「どのような会社でありたいか」という企業理念を表したものが「トヨタ基本理念」です。これを実践する上で、全世界のトヨタで働く人々が共有すべき価値観や手法を示したものが「トヨタウェイ 2001」です。

事業の広がりにより多様な価値観をもつ人がトヨタの業務にかかわるようになり、暗黙知としてそれまで伝えられてきた価値観、手法を2001年に明文化しました。これにより、全世界の事業体で同じ価値観の共有が可能になりました。

また、トヨタウェイは環境変化の中で進化し、トヨタの強みでありつづけなければなりません。これからも、時代に応じトヨタウェイ自体を変革していきます。

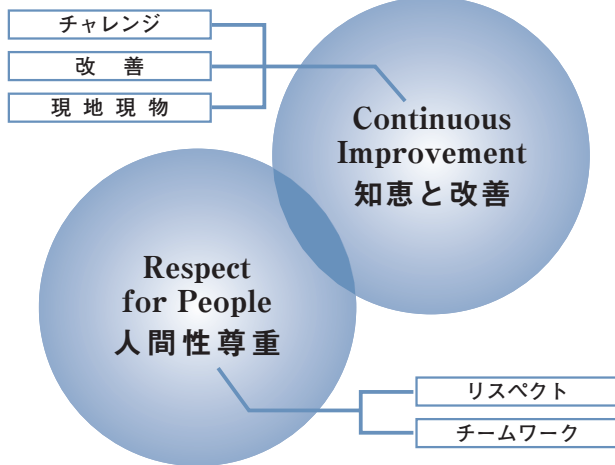
トヨタウェイの2つの柱は、「知恵と改善」と「人間性尊重」です。「知恵と改善」は、常に現状に満足することなく、より高い付加価値を求めて知恵を絞り続けること。そして「人間性尊重」は、あらゆるステークホルダーを尊重し、従業員の成長を会社の成果に結びつけることを意味しています。

トヨタインスティテュートによる人材育成

トヨタウェイを共有するため、2002年1月に社内人材養成組織のトヨタインスティテュートを設立。

2003年以降は北米に加え、欧州、アジア、アフリカの海外事業体がトヨタインスティテュートになって人材育成の専門組織を設立しました。

●トヨタウェイ



トヨタ行動指針



「トヨタ行動指針」

「トヨタ基本理念」を実践し、社会的責任を果たすため、トヨタで働く人々の基本的な心構えをまとめ、具体的な留意点を示したものが「トヨタ行動指針(1998年策定)」です。

2006年3月には、新たな法規制や社会の変化を踏まえ改訂しました。この改訂では、グローバルに通用するエッセンスを、世界のトヨタで働く人々が共有できるよう内容を見直すとともに、「会社からの指示・命令」ではなく、「トヨタで働く人々の自発的な宣言」にスタイルを改めました。また、子会社も含めてグローバルに共有すべき「行動指針」と、当社で働く人々に向けて具体的な留意点を示す「ハンドブック」の二段構成とし、前者の「行動指針」については、当社内のみならず、内外の子会社のトップにも配布し、子会社との意識の共有を図りました。



## ■会社概要

会社名	トヨタ自動車株式会社 (TOYOTA MOTOR CORPORATION)
創立	1937年(昭和12年)8月28日

注)2006年3月末現在、従業員数は就業人数(受入出向者を含む)を記載。

従業員数	65,798人 (連結会社合計 285,977人)
資本金	3,970億円

## 連結ベース(米国基準)

### ■経営状況

(1億円未満切捨)

	平成17年3月期 (16.4~17.3)	平成18年3月期 (17.4~18.3)	平成18年9月中間期 (18.4~18.9)
売上高	185,515億円	210,369億円	114,718億円
営業利益	16,721億円	18,783億円	10,934億円
当期純利益	11,712億円	13,721億円	7,772億円
設備投資 <sup>※1</sup>	10,872億円	15,288億円	6,718億円
研究開発	7,551億円	8,126億円	3,932億円
連結子会社数	524社	523社	528社
持分法適用会社数	56社	56社	56社

注)※1 リース用資産除く。

## 単独ベース(日本基準)

### ■経営状況

(1億円未満切捨)

	第101期 (16.4~17.3)	第102期 (17.4~18.3)	第103期前半期 (18.4~18.9)
売上高	92,183億円	101,918億円	54,703億円
経常利益	8,562億円	11,047億円	7,782億円
当期純利益	5,293億円	7,659億円	5,258億円

## ■車両生産・販売・輸出台数(2006年 年間実績)

(単位:千台)

	トヨタ	ダイハツ	日野	合計
グローバル生産	8,093	825	100	9,018
国内生産	4,194	791	100	5,086
海外生産	3,899	33	—	3,932
グローバル販売	7,922	784	103	8,808
国内販売	1,692	623	54	2,369
海外販売	6,229	161	49	6,440
輸出	2,529	134	49	2,713

注)国内生産:ラインオフベース、CBU+KD(含む国内向けOEM)  
 海外生産:現地ラインオフベース、含む日本向け車両(除く海外向けOEM、KD)  
 国内販売:登録十届出、含む海外生産車  
 海外販売:トヨタ・ダイハツ・日野調べ(除くOEM)  
 輸 出:船積ベース、CBU+KD(含む海外向けOEM)

### ■生産実績

		平成17年3月期 (16.4~17.3)	平成18年3月期 (17.4~18.3)	平成18年9月中間期 (18.4~18.9)
車 両 ( 新 車)	国 内	4,534千台	4,684千台	2,450千台
	海 外	2,697千台	3,027千台	1,507千台
	合 計	7,232千台	7,711千台	3,957千台
住 宅		5,115戸	5,269戸	2,571戸

### ■販売実績

		平成17年3月期 (16.4~17.3)	平成18年3月期 (17.4~18.3)	平成18年9月中間期 (18.4~18.9)
車 両 ( 新 車)	国 内	2,381千台	2,364千台	1,073千台
	海 外	5,027千台	5,610千台	3,072千台
	合 計	7,408千台	7,974千台	4,145千台
住 宅		5,283戸	5,525戸	2,593戸

### ■生産実績

	第101期 (16.4~17.3)	第102期 (17.4~18.3)	第103期前半期 (18.4~18.9)
国内生産台数	3,749千台	3,863千台	2,004千台
海外生産台数	3,127千台	3,731千台	1,933千台

### ■販売実績

	第101期 (16.4~17.3)	第102期 (17.4~18.3)	第103期前半期 (18.4~18.9)
国内販売台数(出荷)	1,805千台	1,769千台	781千台
輸出台数	1,982千台	2,126千台	1,267千台
住宅販売戸数	4,392戸	4,693戸	2,219戸



**トヨタモーターヨーロッパ  
R&D/マニファクチャリング**

設立：1987年(昭和62年)  
所在地：ベルギー(ブラッセル)、イギリス(ダービー)  
業務：車両開発、試験・評価、認証、  
技術調査

**Toyota Motor Europe R&D/Manufacturing**

Establishment : 1987  
Location : Brussels (Belgium) Derby (U.K.)  
Activities : Vehicle development & evaluation,  
certification, collection of technical  
information



**トヨタモータースポーツ(TMG)**

設立：1993年(平成5年)  
所在地：ドイツ(ケルン)  
業務：F1カーの開発、F1レースへの参加

**Toyota Motorsport GmbH**

Establishment : 1993  
Location : Cologne (Germany)  
Activities : Development of Formula One race  
cars; Participation in F1 races



**トヨタヨーロッパデザイン開発**

設立：2000年(平成12年)  
所在地：フランス(ニース)  
業務：外形・室内・カラーデザイン

**Toyota Europe  
Design Development**

Establishment : 2000  
Location : Nice (France)  
Activities : Exterior/Interior/Color design



**トヨタ・モーター・アジア・パシフィック・  
エンジニアリング&マニファクチャリング(株)**

設立：2003年(平成15年)  
所在地：タイ(サムットプラカン県)  
業務：アジア地域の現地生産車の開発、評価、  
同地域の生産事業会社への業務支援

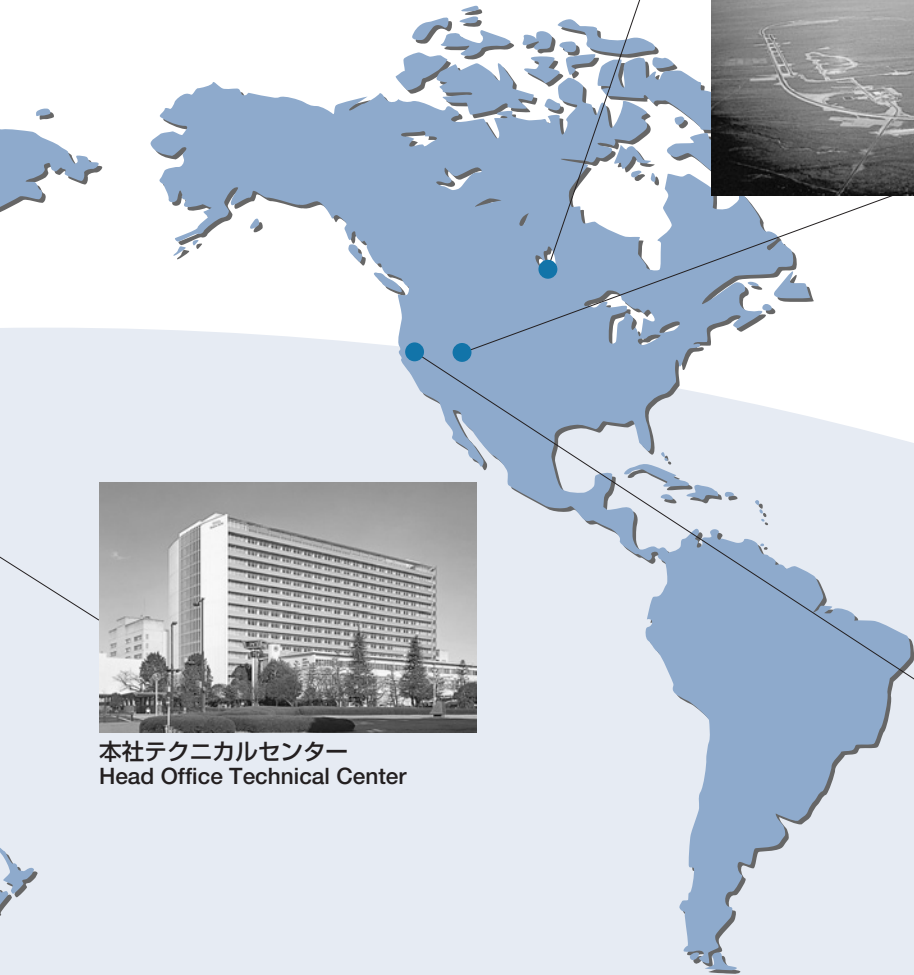
**Toyota Motor Asia Pacific  
Engineering and Manufacturing Co., Ltd.**

Establishment : 2003  
Location : Samutprakarn Province (Thailand)  
Activities : Development and evaluation of locally  
produced vehicles in the Asia region,  
Operational support to Toyota production  
affiliates in the Asia region

※TTCAP-タイとTMAPタイを2007年4月に統合し、  
TMAP-EMとして社名を変更



本社  
Head Office



**トヨタモーターエンジニアリング&  
マニュファクチャリングノースアメリカ(株)**

設立: 1977年(昭和52年)  
所在地: ミシガン州、カリフォルニア州、  
アリゾナ州、ワシントンD.C.  
業務: 車両開発、試験・評価、認証、  
技術調査



**Toyota Motor Engineering and  
Manufacturing North America, Inc.**

Establishment : 1977  
Location : Ann Arbor, Plymouth (Mich.),  
Torrance, Gardena (Calif.),  
Wittman (Ariz.), Washington, D.C.  
Activities : Vehicle development & evaluation,  
certification, collection of technical  
information



本社テクニカルセンター  
Head Office Technical Center



**キャルティ デザインリサーチ(株)**

設立: 1973年(昭和48年)  
所在地: カリフォルニア州(ニューポートビーチ)  
業務: 外形・室内・カラーデザイン

**Calty Design Research, Inc.**

Establishment : 1973  
Location : Newport Beach (Calif.)  
Activities : Exterior/Interior/Color design



**トヨタ テクニカルセンター  
アジア・パシフィック オーストラリア(株)**

設立: 2003年(平成15年)  
所在地: オーストラリア (メルボルン)  
業務: 車両開発、ソフト開発、試験・評価、  
技術調査

**Toyota Technical Center  
Asia Pacific Australia Pty.Ltd.**

Establishment : 2003  
Location : Melbourne, (Australia)  
Activities : Vehicle development, Software  
development, Evaluation,  
Collection of technical information

# 技術開発の歴史

トヨタは、お客様のニーズにお応えしながら環境にやさしく、安全性、走行性、快適性、信頼性などの要素を高度にバランスさせた自動車の開発に努めています。

■トヨタの技術開発の歴史（1990～，凡例：▲……環境対策関連技術 ●……安全対策関連技術）

年	1990～1999
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲スモークレスディーゼルエンジン</li> <li>●電子制御スロットル</li> <li>▲ディーゼルスモークコントロールシステム (DSCS)</li> <li>▲VVTL-i (連続可変バルブタイミング&amp;可変リフト機構)</li> <li>▲コモンレール式直噴ディーゼルトーボエンジン (D-4D)</li> <li>●アルミクランクダンパープーリ</li> <li>▲連続可変バルブタイミング機構 (VVT-i)</li> <li>▲4弁直噴ディーゼル</li> <li>▲高効率直噴ガソリンエンジン (D-4)</li> <li>●窒化チタンコートシム</li> <li>●レーザークラッドシリンダーヘッド</li> <li>▲燃料電池電気自動車 (FCEV)</li> <li>▲トヨタハイブリッドシステム (THS)</li> <li>●5バルブエンジン</li> <li>▲新世代希薄燃焼エンジン</li> </ul>
駆動・制動 足廻り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アクティブ4WS</li> <li>●フレックスロックアップシステム</li> <li>●スーパーストラットサスペンション</li> <li>●車両安定性制御システム (VSC)</li> <li>●ロータリートリブレッドカップリング</li> <li>●ブレーキアシスト</li> <li>●EBD付ABS</li> <li>●5速A/T</li> <li>●車両総合制御システム (i-Four)</li> <li>●ARS</li> <li>▲Super CVT</li> <li>●ナビ協調シフト制御</li> </ul>
ボディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●UVカットドアガラス</li> <li>●はっ水ドアガラス</li> <li>●新衝突安全ボディ (GOA)</li> <li>●SRSカーテンシールドエアバッグ</li> <li>●SRSサイドエアバッグ</li> <li>●フォースリミッター付きシートベルト</li> <li>▲塗装補修バンパーリサイクル</li> <li>▲トヨタスーパーオレフィンポリマー (TSOP)バンパー</li> <li>●助手席エアバッグ</li> </ul>
電子・電気	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マルチゾーンオートエアコン</li> <li>●タイヤ空気圧警報システム</li> <li>●ブラインドコーナーモニター</li> <li>●レーダークルーズコントロール</li> <li>●GPSナビゲーション</li> <li>●ヘッドアップディスプレイ</li> <li>●CCD式バックモニター</li> <li>●GPSボイスナビゲーション</li> <li>▲燃焼圧センサー</li> <li>▲電動パワーステアリング</li> </ul>
材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ディーゼル酸化触媒</li> <li>▲内装用高性能樹脂 (TSOP-5)</li> <li>●樹脂製燃料タンク</li> <li>●マグネシウムシリンダーヘッドカバー</li> <li>▲パラジウム三元触媒</li> <li>▲新冷媒エアコン</li> <li>●デオドラント機能付きファブリック</li> <li>▲リーンバーン用新三元触媒</li> <li>▲ディーゼル酸化触媒</li> </ul>

■ 2006年に発表した主な新技術(発表時期)

VVT-iE(電動連続可変バルブタイミング機構)、8Super ECT(8速A/T)(2006/1)、プリクラッシュセーフティシステム(前方対応・後方対応)(2006/8)

2000～

▲VVT-iE(電動連続可変バルブタイミング機構)

- ▲Dual VVT-i
- ▲ストイキD-4
- ▲コモンレール式ピエゾインジェクション直噴ディーゼルトーボエンジン(D-4D Clean Power)
- ▲D-4S

▲TOYOTA STOP AND GO SYSTEM

▲燃料電池ハイブリッド車(FCHV-4、FCHV-5)

▲燃料電池ハイブリッド車(トヨタFCHV)

▲トヨタハイブリッドシステム(THS-C、THS-M、THSII) ▲リダクション機構付のTHSII

▲トヨタインテリジェントアイドリングストップシステム

▲2段変速式リダクション機構付のTHSII

▲ディーゼルハイブリッドシステム

▲AWD化した2段変速式リダクション機構付のTHSII

・ランフラットタイヤ

・新工法タイヤ

●電子制御ブレーキシステム(ESB)

●プリクラッシュセーフティシステム

▲電気式4輪駆動システム(E-Four)

●VDIM

●VDIM(アクティブステアリング統合制御)

●S-VSC+アクティブトルクコントロール4WD協調制御

▲6Super ECT(6速A/T)

▲8Super ECT(8速A/T)

●アクティブスタビライザーサスペンションシステム

●プリクラッシュセーフティシステム

〈前方対応:歩行者検知・操舵回避支援〉

(ミリ波レーダー・ステレオカメラフュージョン方式)

●ドライバーモニター付プリクラッシュセーフティシステム(ミリ波レーダー方式)

●プリクラッシュセーフティシステム

〈後方対応:後方車両の注意喚起・

プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト)

・パワーバックドア

●助手席デュアルステージSRSエアバッグ

●運転席デュアルステージSRSエアバッグ

●プリクラッシュシートベルト

・電動開閉式メタルトップシステム

●SRSツインチャンバーエアバッグ

●SRSシートクッションエアバッグ

●運転席SRSニーエアバッグ

●歩行者傷害軽減ボディ

・スマートキーシステム

●ナイトビュー

・ステアリング感応式クリアランスソナー

●インテリジェントAFS

・G-BOOK ALPHA

・音声ガイダンス機能付バックガイドモニター

●ヘルプネット

・G-BOOK

・レーンモニタリングシステム

・レーンキーピングアシスト

・地図差分配信技術「マップオンデマンド」(カーナビゲーション用)

・レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)

・フロント&サイドモニター

・レーダークルーズコントロール(低速追従モード付)

・マイナスイオン発生装置

・インテリジェントパーキングアシスト(IPA)

・インテリジェントパーキングアシスト(IPA)(超音波センサー付)

・AC100Vコンセント

・スマートエントリー&スタートシステム

・酸素濃度コンディショナー

・プラスマクラスター

・花粉除去フィルター

▲エコドライブインジケーター

▲ディーゼル車用高性能触媒システム(DPNR)

▲トヨタエコプラスチック

▲ケナフ材パッケージトレイトリム、ドアトリム

▲植物系生分解樹脂(バイオプラスチック)

▲CO<sub>2</sub>冷媒電動ヒートポンプ式エアコン

2007年4月末現在、トヨタには26カ国／地域に52の海外の製造事業体があり、グローバルに事業展開しています。



海外の製造事業体一覧

■ 海外製造事業体一覧(生産会社52社、26カ国/地域) 2007年4月末時点 (単位:千台)

国/地域	会社名 ( )内は略称	主な生産品目*1	従業員数*1	2006年トヨタ車両生産実績*1	
北米	カナダ	① Canadian Autoparts Toyota Inc. (CAPTIN)	アルミホイール	288	—
		② Toyota Motor Manufacturing Canada Inc. (TMMC)	カローラ、マトリックス、RX エンジン	4,574	317
	アメリカ	③ TABC, Inc.	触媒、ボデー部品	836	—
		④ New United Motor Manufacturing, Inc. (NUMMI)	カローラ、タコマ	4,924	370
		⑤ Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc. (TMMK)	カムリ、カムリハイブリッド、ソラーラ、アパロン エンジン	7,725	504
		⑥ Bodine Aluminum, Inc.	エンジンブラケット、エンジンブロック、ヘッド	1,138	—
		⑦ Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc. (TMMWV)	エンジン、トランスミッション	1,140	—
		⑧ Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc. (TMMI)	タンドラ、セコイア、シエナ	4,660	324
		⑨ Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc. (TMMAL)	エンジン	949	—
		⑩ Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc. (TMMTX)	タンドラ	2,017	3
		⑪ Subaru of Indiana Automotive, Inc. (SIA)	カムリ	—	— <sup>※2</sup>
中南米	アルゼンチン	⑫ Toyota Argentina S.A. (TASA)	ハイラックス、フォーチュナー	2,543	65
	ブラジル	⑬ Toyota do Brasil Ltda.	カローラ、フィールダー、ハイラックス足廻り部品	2,488	61
	コロンビア	⑭ Sociedad de Fabricacion de Automotores S.A.	ランドクルーザープラド	1,288	7
	メキシコ	⑮ Toyota Motor Manufacturing de Baja California S.de R.L.de C.V.(TMMBC)	荷台 タコマ	792	— 35
		ベネズエラ	⑯ Toyota de Venezuela Compania Anonima (TDV)	カローラ、フォーチュナー、ハイラックス、ダイナ、ランドクルーザー	1,708
ヨーロッパ	チェコ	⑰ Toyota Peugeot Citroën Automobiles Czech, s.r.o. (TPCA)	アイゴ	3,504	100
	フランス	⑱ Toyota Motor Manufacturing France S.A.S. (TMMF)	ヤリス エンジン(組付)	3,936	250 —
	ポーランド	⑲ Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o.(TMMPL)	エンジン、トランスミッション	1,989	—
	ポーランド	⑳ Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o.(TMIP)	エンジン	1,030	—
	ポルトガル	㉑ Toyota Caetano Portugal, S.A. (TCAP)	オブティモ、ダイナ、ハイエース	341	4
	トルコ	㉒ Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc. (TMMT)	カローラ	3,625	177
イギリス	㉓ Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd. (TMUK)	アベンシス、カローラ エンジン	4,800	282 —	
アフリカ	ケニア	㉔ Associated Vehicle Assemblers Ltd. (AVA)	ハイエース、ランドクルーザー	328	1
	南アフリカ共和国	㉕ Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd. (TSAM)	カローラ、ハイエース、ハイラックス、フォーチュナー、ダイナ エンジン(組付)	9,789	147 —
アジア	中国	㉖ 天津津豊汽車底盤部件有限公司(Tianjin Jinfeng Auto Parts Co.,Ltd.(TJAC))	ステアリング、プロペラシャフト	—	—
		㉗ 天津豊津汽車伝動部件有限公司(Tianjin Fengjin Auto Parts Co.,Ltd.(TFAP))	等速ジョイント、アクスル	721	—
		㉘ 天津一汽豊田発動機有限公司(Tianjin FAW Toyota Engine Co., Ltd.(TFTE))	エンジン	1,202	—
		㉙ 天津豊田汽車鍛造部件有限公司(Tianjin Toyota Forging Co.,Ltd.(TTFC))	鍛造部品	211	—

注) ※1 生産品目、従業員数、トヨタ車両生産実績は2006年12月時点。車両生産実績は千台以上の場合のみ記載。 ※2 SIAは2007年4月よりカムリの生産開始。



また、トヨタ車は、海外の170カ国/地域以上で販売されています。



地域	製造事業体	ディストリビューター数
北米	11	3
中南米	5	44
ヨーロッパ	7	29
アフリカ	2	47
アジア(日本を除く)	25	15
オセアニア	1	15
中近東	1	17
海外合計	52	170

(単位:千台)

国/地域	会社名( )内は略称	主な生産品目 <sup>*1</sup>	従業員数 <sup>*1</sup>	2006年トヨタ車両生産実績 <sup>*1</sup>
中国	③① 天津一汽豊田汽车有限公司(Tianjin FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(TFTM))	ヴィオス、カローラ、クラウン、レイツ	9,543	209
	③② 一汽豊田(長春)発動機有限公司(FAW Toyota (Changchun) Engine Co.,Ltd.(FTCE))	エンジン	757	—
	③③ 豊田一汽(天津)模具有限有限公司(Toyota FAW (Tianjin) Dies Co.,Ltd.(TFTD))	金型	—	—
	③④ 广汽豊田発動機有限公司(Guangqi Toyota Engine Co.,Ltd.(GTE))	エンジン、エンジン部品	1,118	—
	③⑤ 四川一汽豊田汽车有限公司(Sichuan FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(SFTM))	コースター、ランドクルーザー、ランドクルーザープラド、プリウス	1,803	16
台湾	③⑥ 廣州豊田汽车有限公司(Guangzhou Toyota Motor Co., Ltd.(GTMC))	カムリ	3,884	61
	③⑦ 國瑞汽車股份有限公司(Kuozui Motors,Ltd.)	カムリ、カローラ、ウィッシュ、ヴィオス、ヤリス、ハイエース、ゼイス、プレス部品	2,545	97
インド	③⑧ Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.(TKM)	エンジン	—	—
	③⑨ Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd.(TKAP)	カローラ、イノーバ	3,174	44
インドネシア	④① アクスル、プロペラシャフト、マニュアルトランスミッション	781	—	
	④② PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia	キジャンピックアップ、イノーバ、フォーチュナー、ダイナ	5,143	60
マレーシア	④③ P.T. Astra Daihatsu Motor(ADM)	エンジン	—	—
	④④ Assemlby Services Sdn. Bhd.(ASSB)	アバンザ	—	63
パキスタン	④⑤ Perodua Manufacturing Sdn. Bhd.(PMSB)	カムリ、カローラ、ヴィオス、ハイラックス、イノーバ、フォーチュナー、ハイエース	2,992	54
	④⑥ Indus Motor Company Ltd.(IMC)	エンジン	—	—
フィリピン	④⑦ Toyota Motor Philippines Corp.(TMP)	アバンザ	—	28
	④⑧ Toyota Autoparts Philippines Inc.(TAP)	カムリ、カローラ、ハイラックス	1,695	35
タイ	④⑨ Toyota Motor Philippines Corp.(TMP)	カムリ、カローラ、イノーバ	1,606	14
	④⑩ Toyota Motor Thailand Co., Ltd.(TMT)	マニュアルトランスミッション、等速ジョイント	718	—
	④⑪ Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd.(TABT)	ハイラックス、フォーチュナー、カムリ、カローラ、ソルナーヴィオス、ヤリス、ウィッシュ	11,928	469
	④⑫ Thai Auto Works Co., Ltd.(TAW)	プレス部品	—	—
ベトナム	④⑬ Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd.(STM)	フォーチュナー、ハイラックスヴィーゴ	—	60
	④⑭ Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.(TMV)	エンジン、エンジン部品	2,155	—
オセアニア	④⑮ Toyota Motor Corporation Australia Ltd.(TMCA)	カムリ、カローラ、ヴィオス、ランドクルーザー、イノーバ、ハイエース	1,029	14
中近東	④⑯ Toyota Motor Corporation Australia Ltd.(TMCA)	カムリ	4,610	112
	④⑰ Aftab Automobiles Ltd.	エンジン	—	—
		ランドクルーザー	110	—

■ 今後稼働予定の製造事業体

国/地域	会社名( )内は略称	所在地	生産品目	生産開始時期	
北米	アメリカ	Toyota Motor Manufacturing, Mississippi, Inc.(TMMMS)	ミシシッピ州ユニオン郡ブルー・スプリングス	ハイランダー	2010年頃
ヨーロッパ	ロシア	Toyota Motor Manufacturing Russia LLC.(TMMR)	サンクトペテルブルグ市シュジャリ地区	カムリ	2007年12月

また、トヨタ車は、海外の170カ国/地域以上で販売されています。



地域	製造事業体	ディストリビューター数
北米	11	3
中南米	5	44
ヨーロッパ	7	29
アフリカ	2	47
アジア(日本を除く)	25	15
オセアニア	1	15
中近東	1	17
海外合計	52	170

(単位:千台)

国/地域	会社名( )内は略称	主な生産品目 <sup>*1</sup>	従業員数 <sup>*1</sup>	2006年トヨタ車両生産実績 <sup>*1</sup>
中国	③① 天津一汽豊田汽车有限公司(Tianjin FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(TFTM))	ヴィオス、カローラ、クラウン、レイツ	9,543	209
	③② 一汽豊田(長春)発動機有限公司(FAW Toyota (Changchun) Engine Co.,Ltd.(FTCE))	エンジン	757	—
	③③ 豊田一汽(天津)模具有限有限公司(Toyota FAW (Tianjin) Dies Co.,Ltd.(TFTD))	金型	—	—
	③④ 广汽豊田汽車発動機有限公司(Guangqi Toyota Engine Co.,Ltd.(GTE))	エンジン、エンジン部品	1,118	—
	③⑤ 四川一汽豊田汽车有限公司(Sichuan FAW Toyota Motor Co.,Ltd.(SFTM))	コースター、ランドクルーザー、ランドクルーザープラド、プリウス	1,803	16
台湾	③⑥ 廣州豊田汽车有限公司(Guangzhou Toyota Motor Co., Ltd.(GTMC))	カムリ	3,884	61
	③⑦ 國瑞汽車股份有限公司(Kuozui Motors,Ltd.)	カムリ、カローラ、ウィッシュ、ヴィオス、ヤリス、ハイエース、ゼイス、プレス部品	2,545	97
インド	③⑧ Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.(TKM)	エンジン	—	—
	③⑨ Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd.(TKAP)	カムリ、カローラ、イノーバ	3,174	44
インドネシア	④① アクスル、プロペラシャフト、マニュアルトランスミッション	781	—	
	④② PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia	キジャンピックアップ、イノーバ、フォーチュナー、ダイナ	5,143	60
マレーシア	④③ P.T. Astra Daihatsu Motor(ADM)	エンジン	—	—
	④④ Assemlby Services Sdn. Bhd.(ASSB)	アバンザ	—	63
パキスタン	④⑤ Kamri, Corolla, Vios, Hilux, Innova, Fortuner, Hiace	2,992	54	
	④⑥ Perodua Manufacturing Sdn. Bhd.(PMSB)	エンジン	—	—
フィリピン	④⑦ アバンザ	—	28	
	④⑧ Indus Motor Company Ltd.(IMC)	カムリ、カローラ、ハイラックス	1,695	35
タイ	④⑨ Toyota Motor Philippines Corp.(TMP)	カムリ、カローラ、イノーバ	1,606	14
	④⑩ Toyota Autoparts Philippines Inc.(TAP)	マニュアルトランスミッション、等速ジョイント	718	—
	④⑪ Toyota Motor Thailand Co., Ltd.(TMT)	マニュアルトランスミッション、等速ジョイント	11,928	469
	④⑫ Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd.(TABT)	ハイラックス、フォーチュナー、カムリ、カローラ、ソルナーヴィオス、ヤリス、ウィッシュ	—	—
ベトナム	④⑬ Thai Auto Works Co., Ltd.(TAW)	プレス部品	—	—
	④⑭ Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd.(STM)	フォーチュナー、ハイラックスヴィーゴ	—	60
	④⑮ Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.(TMV)	エンジン、エンジン部品	2,155	—
オセアニア	④⑯ Kamri, Corolla, Vios, Land Cruiser, Innova, Hiace	1,029	14	
	④⑰ Toyota Motor Corporation Australia Ltd.(TMCA)	カムリ	4,610	112
中近東	④⑱ Toyota Motor Manufacturing Russia LLC.(TMMR)	エンジン	—	—
	④⑲ Aftab Automobiles Ltd.	ランドクルーザー	110	—

■ 今後稼働予定の製造事業体

国/地域	会社名( )内は略称	所在地	生産品目	生産開始時期	
北米	アメリカ	Toyota Motor Manufacturing, Mississippi, Inc.(TMMMS)	ミシシッピ州ユニオン郡ブルー・スプリングス	ハイランダー	2010年頃
ヨーロッパ	ロシア	Toyota Motor Manufacturing Russia LLC.(TMMR)	サンクトペテルブルグ市シュジャリ地区	カムリ	2007年12月



### 統括管理会社等

国/地域	会社名	設立	主な活動
アメリカ	Toyota Motor North America, Inc. (TMA)	1996.3	北米全体の渉外・広報・調査活動
	Toyota Motor Engineering & Manufacturing North America, Inc. (TEMA)	2006.4	北米での研究開発と製造支援

### 生産体制

(単位:千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年トヨタ車両生産実績
カナダ	① Canadian Autoparts Toyota Inc.(CAPTIN)	1985.2	288	アルミホイール	—
	② Toyota Motor Manufacturing Canada Inc.(TMMC)	1988.11	4,574	カローラ、マトリックス、L4エンジン	317
アメリカ	③ TABC, Inc.	1971.11	836	触媒、ボデー部品	—
	④ New United Motor Manufacturing, Inc. (NUMMI)	1984.12	4,924	カローラ、タコマ	370
	⑤ Toyota Motor Manufacturing, Kentucky, Inc. (TMMK)	1988.5	7,725	カムリ、カムリハイブリッド	504
				ソラーラ、アパロン	—
	⑥ Bodine Aluminum, Inc.	1993.1	1,138	エンジンブラケット、エンジンブロック、ヘッド	—
	⑦ Toyota Motor Manufacturing, West Virginia, Inc. (TMMWV)	1998.11	1,140	エンジン、トランスミッション	—
	⑧ Toyota Motor Manufacturing, Indiana, Inc. (TMMI)	1999.2	4,660	タンドラ、セコイア、シエナ	324
	⑨ Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc. (TMMAL)	2003.4	949	エンジン	—
	⑩ Toyota Motor Manufacturing, Texas, Inc. (TMMTX)	2006.11	2,017	タンドラ	3
⑪ Subaru of Indiana Automotive, Inc. (SIA)	2007.4 <sup>*1</sup>	—	カムリ	—	

注) アメリカ(ミシシッピ州)では2010年頃よりハイランダーを生産開始予定。 ※1 委託生産開始年月。

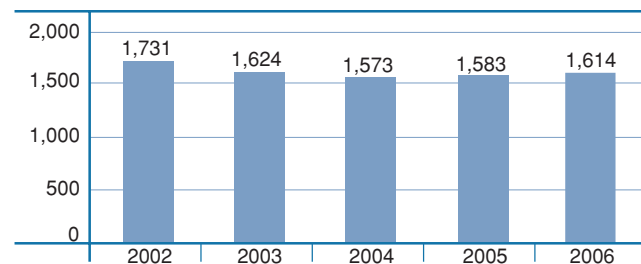
### ディストリビューター

ディストリビューター数*	北米での販売台数 (単位:千台)
3	2,738.3

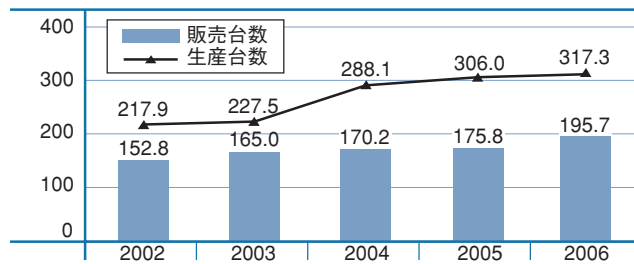
注) ※ 2006年5月現在。

### カナダ

#### ●自動車市場の推移 (単位:千台)

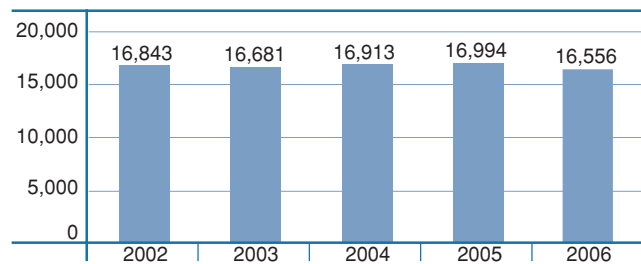


#### ●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位:千台)

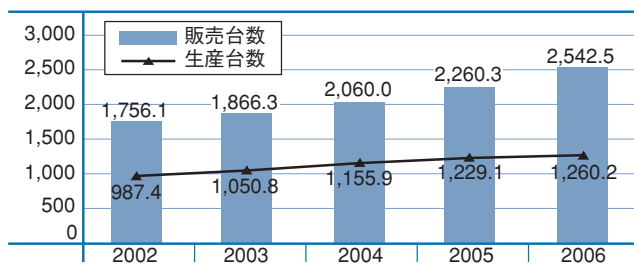


### アメリカ

#### ●自動車市場の推移 (単位:千台)



#### ●トヨタの生産・販売台数の推移 (単位:千台)



資料:トヨタ自動車



生産体制

(単位：千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年トヨタ車両生産実績
アルゼンチン ①	Toyota Argentina S.A. (TASA)	1997.3	2,543	ハイラックス、フォーチュナー	65
ブラジル ②	Toyota do Brasil Ltda.	1959.5	2,488	カローラ、フィールダー ハイラックス足廻り部品	61
コロンビア ③	Sociedad de Fabricacion de Automotores S.A.	1992.3	1,288	ランドクルーザーブロード	7
メキシコ ④	Toyota Motor Manufacturing de Baja California, S.de R. L. de C.V. (TMMBC)	2004.9	792	荷台	—
				タコマ	35
ベネズエラ ⑤	Toyota de Venezuela Compania Anonima (TDV)	1981.11	1,708	カローラ、フォーチュナー、ハイラックス、ダイナ、ランドクルーザー	23

ディストリビューター

ディストリビューター数*	中南米での販売台数 (単位：千台)
44	339.4

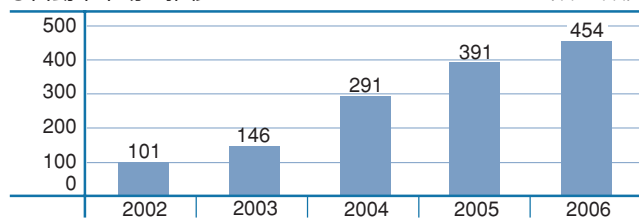
(注)※ 2006年5月現在。

海外における活動  
中南米での活動

アルゼンチン

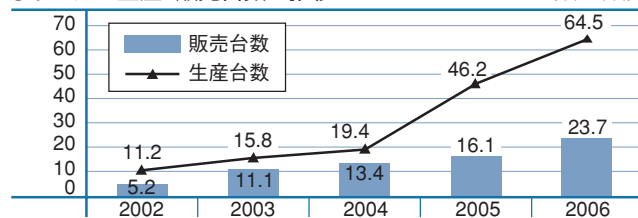
自動車市場の推移

(単位：千台)



トヨタの生産・販売台数の推移

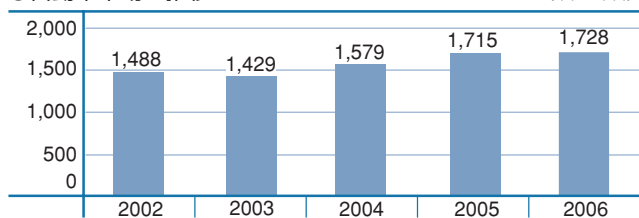
(単位：千台)



ブラジル

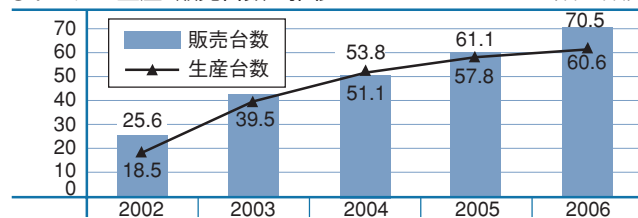
自動車市場の推移

(単位：千台)



トヨタの生産・販売台数の推移

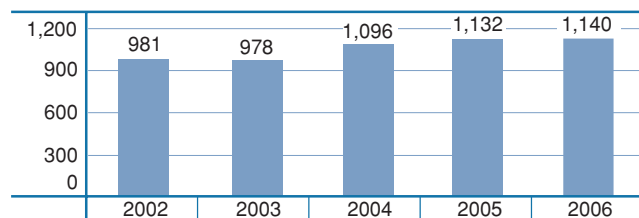
(単位：千台)



メキシコ

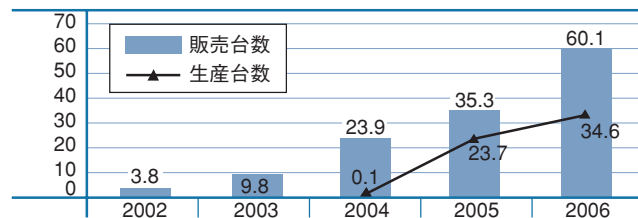
自動車市場の推移

(単位：千台)



トヨタの生産・販売台数の推移

(単位：千台)

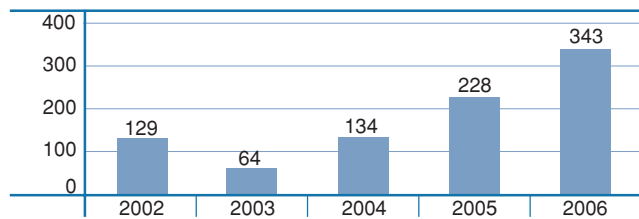


(注)トヨタのメキシコでの販売は2002年から、生産は2004年から開始。

ベネズエラ

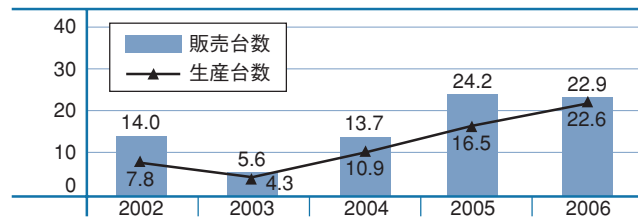
自動車市場の推移

(単位：千台)



トヨタの生産・販売台数の推移

(単位：千台)



資料：トヨタ自動車

# 海外における活動

## ヨーロッパでの活動

ヨーロッパでの活動／アフリカでの活動



### 生産体制

(単位：千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年トヨタ車両生産実績
チェコ	① Toyota Peugeot Citroën Automobiles Czech, s.r.o. (TPCA)	2005.2	3,504	アイゴ	100
フランス	② Toyota Motor Manufacturing France S.A.S.(TMMF)	2001.1	3,936	ヤリス エンジン(組付)	250 —
ポーランド	③ Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o.(TMMMP)	2002.4	1,989	エンジン、 トランスミッション	—
	④ Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o.(TMIP)	2005.3	1,030	エンジン	—
ポルトガル	⑤ Toyota Caetano Portugal, S.A.(TCAP)	1968.8	341	オブティモ、ダイナ、 ハイエース	4
トルコ	⑥ Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc.(TMMT)	1994.9	3,625	カローラ	177
イギリス	⑦ Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd. (TMUK)	1992.9	4,800	アベンシス、カローラ エンジン	282 —

注)ロシア(サンクトペテルブルク市)では2007年12月よりカムリを生産開始予定。

### ディストリビューター

ディストリビューター数*	ヨーロッパでの販売台数(単位：千台)
29	1,124.1

注)※ 2006年5月現在。

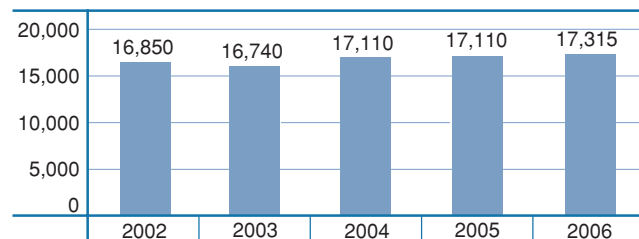
### 統括管理会社等

会社名	設立	主な活動
Toyota Motor Europe NV/SA	2005.10	トヨタの欧州事業の統括

### ヨーロッパ

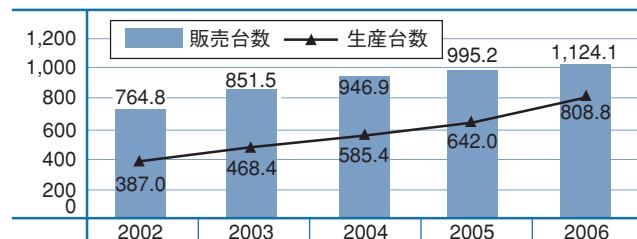
#### ●自動車市場の推移

(単位：千台)



#### ●トヨタの生産・販売台数の推移

(単位：千台)



資料：トヨタ自動車

# 海外における活動

## アフリカでの活動



### 生産体制

(単位：千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年トヨタ車両生産実績
ケニア	① Associated Vehicle Assemblers Ltd. (AVA)	1977.8	328	ハイエース、 ランドクルーザー	1
南アフリカ共和国	② Toyota South Africa Motors (Pty) Ltd. (TSAM)	1962.6	9,789	カローラ、ハイエース、 ハイラックス、 フォーチャナー、 ダイナ	147
				エンジン(組付)	—

### ディストリビューター

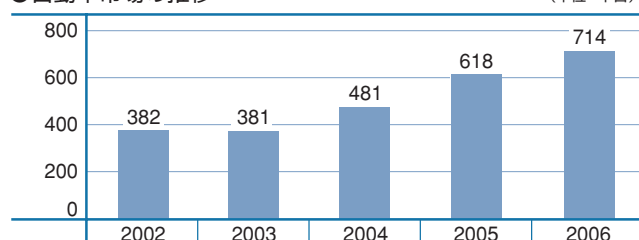
ディストリビューター数*	アフリカでの販売台数(単位：千台)
47	265.7

注)※ 2006年5月現在。

### 南アフリカ共和国

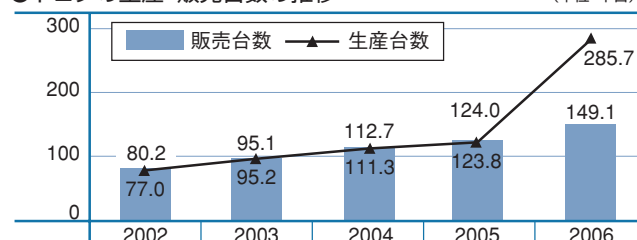
#### ●自動車市場の推移

(単位：千台)

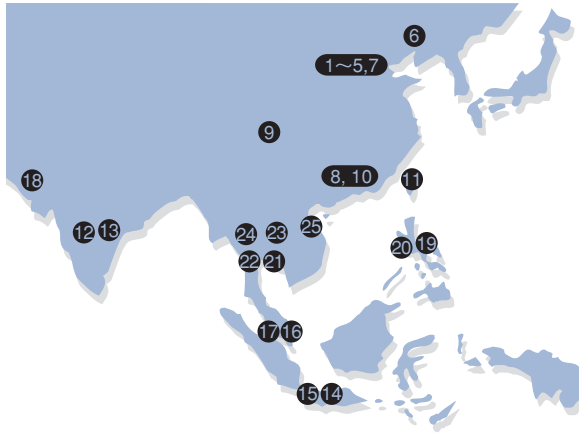


#### ●トヨタの生産・販売台数の推移

(単位：千台)



資料：トヨタ自動車



生産体制

(単位:千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年 トヨタ車両 生産実績
中国	1 天津豊田汽車 底盤部件有限公司(TJAC)	1997.10	—	ステアリング、 プロペラシャフト	—
	2 天津豊田汽車 伝動部件有限公司(TFAP)	1998.5	721	等速ジョイント、アクスル	—
	3 天津一汽豊田 発動機有限公司(TFTE)	1998.7	1,202	エンジン	—
	4 天津豊田汽車 鍛造部件有限公司(TTFC)	1999.1	211	鍛造部品	—
	5 天津一汽豊田汽車 有限公司(TFTM)	2002.10	9,543	ヴィオス、カローラ、 クラウン、レイツ	209
	6 一汽豊田(長春)発動機 有限公司(FTCE)	2004.12	757	エンジン	—
	7 豊田一汽(天津)模具 有限公司(TFTD)	2004.12	—	金型	—
	8 広汽豊田発動機 有限公司(GTE)	2005.1	1,118	エンジン、エンジン部品	—
	9 四川一汽豊田汽車 有限公司(SFTM)	2005.12	1,803	コースター、ランドクルーザー、 ランドクルーザープラド、 プリウス	16
	10 広州豊田汽車有限公司 (GTMC)	2006.5	3,884	カムリ	61
台湾	11 國瑞汽車股份有限公司	1986.1	2,545	カムリ、カローラ、ウィッシュ、 ヴィオス、ヤリス、ハイエース、 ゼイス、プレス部品 エンジン	97 —
インド	12 Toyota Kirloskar Motor Private Ltd. (TKM)	1999.12	3,174	カローラ、イノーバ	44
	13 Toyota Kirloskar Auto Parts Private Ltd. (TKAP)	2002.7	781	アクスル、プロペラシャフト、 マニュアルトランスミッション	—
インドネシア	14 PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia	1970.5	5,143	キジャンピックアップ、 イノーバ、フォーチュナー、 ダイナ エンジン	60 —
	15 P.T. Astra Daihatsu Motor (ADM)	2004*1	—	アバンザ	63
マレーシア	16 Assembly Services Sdn. Bhd. (ASSB)	1968.2	2,992	カムリ、カローラ、ヴィオス、 ハイラックス、イノーバ、 フォーチュナー、ハイエース エンジン	54 —
	17 Perodua Manufacturing Sdn. Bhd. (PMSB)	2005*1	—	アバンザ	28
パキスタン	18 Indus Motor Company Ltd. (IMC)	1993.3	1,695	カローラ、ハイラックス	35
フィリピン	19 Toyota Motor Philippines Corp. (TMP)	1989.2	1,606	カムリ、カローラ、イノーバ	14
	20 Toyota Autoparts Philippines Inc. (TAP)	1992.9	718	マニュアルトランスミッション、 等速ジョイント	—
タイ	21 Toyota Motor Thailand Co., Ltd. (TMT)	1964.12	11,928	ハイラックス、フォーチュナー、 カムリ、カローラ、 ソルナーヴィオス、ヤリス、 ウィッシュ	469
	22 Toyota Auto Body Thailand Co., Ltd. (TABT)	1979.5	—	プレス部品	—
	23 Thai Auto Works Co., Ltd. (TAW)	1988.5	—	フォーチュナー、 ハイラックスヴィーゴ	60
	24 Siam Toyota Manufacturing Co., Ltd. (STM)	1989.7	2,155	エンジン、エンジン部品	—
ベトナム	25 Toyota Motor Vietnam Co., Ltd. (TMV)	1996.8	1,029	カムリ、カローラ、ヴィオス、 ランドクルーザー、イノーバ、 ハイエース	14

注)※1 委託生産開始年。

資料:トヨタ自動車

統括管理会社等

国/地域	会社名	設立	主な活動
シンガポール	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd.	1990.7	アセアン各国への部品供給と アジアでのマーケティング販売 サポート
タイ	Toyota Motor Asia Pacific Engineering and Manufacturing Co.,Ltd.*	2003.9	アジア地域の現地生産車の 開発、評価、同地域の生産事業 会社への業務支援

注)※ TTCAP-タイとTMAPタイを2007年4月に統合し、TMAP-EMとして社名を変更。

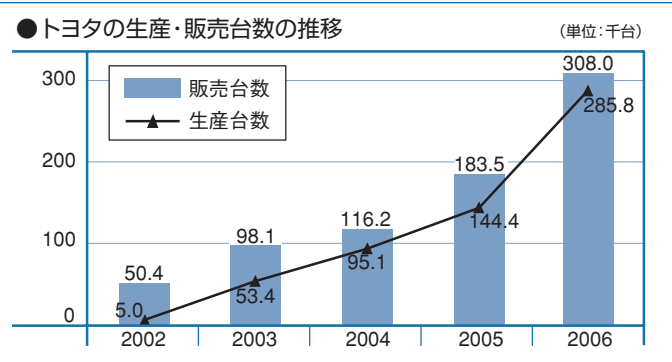
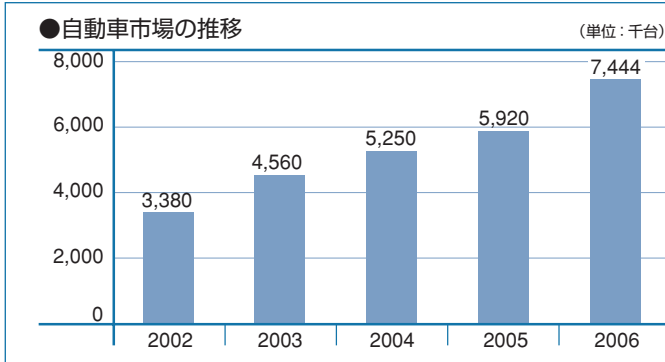
ディストリビューター

ディストリビューター数*	アジアでの販売台数(単位:千台)
15	1,106.7

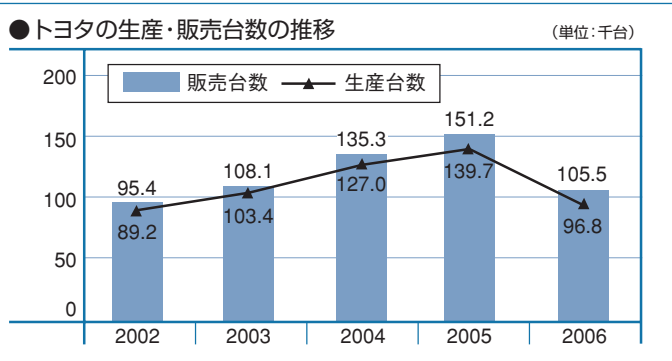
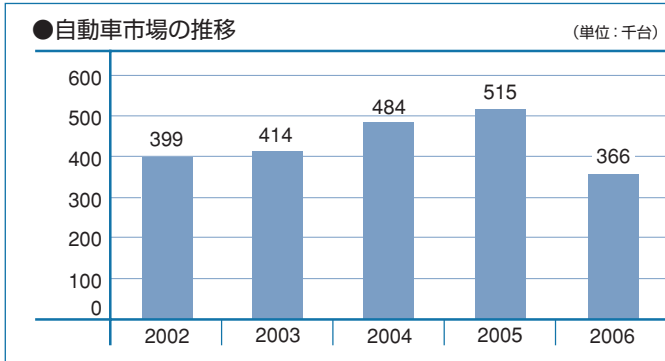
注)※ 2006年5月現在。



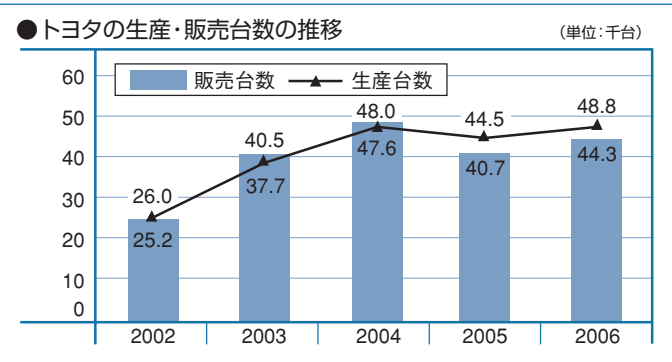
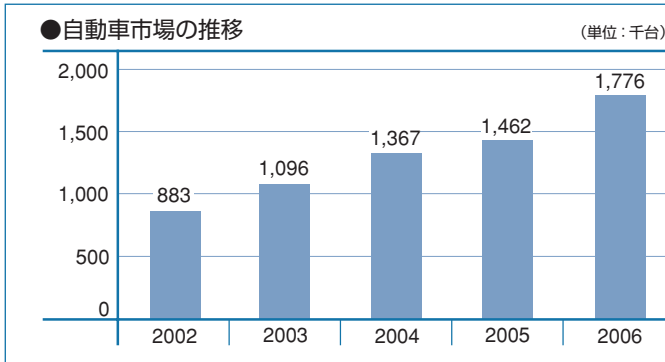
## 中国



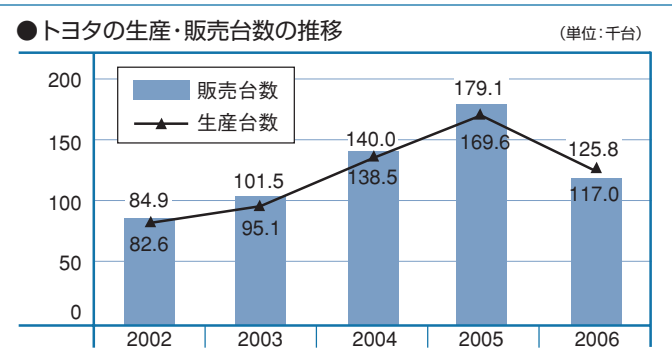
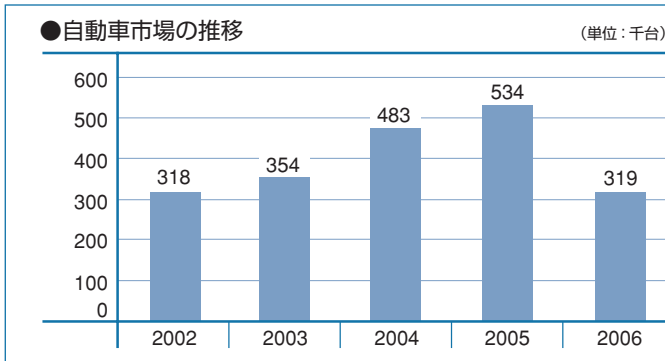
## 台湾



## インド

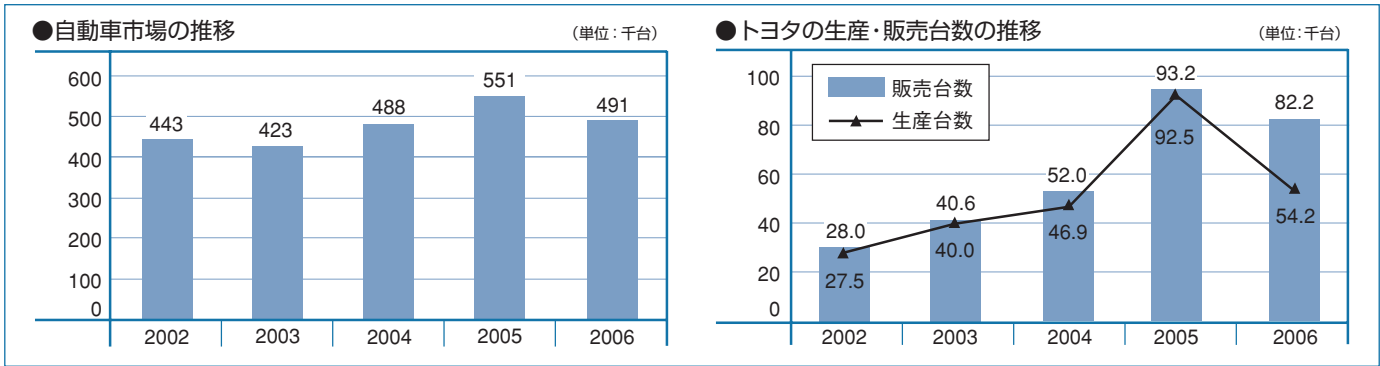


## インドネシア

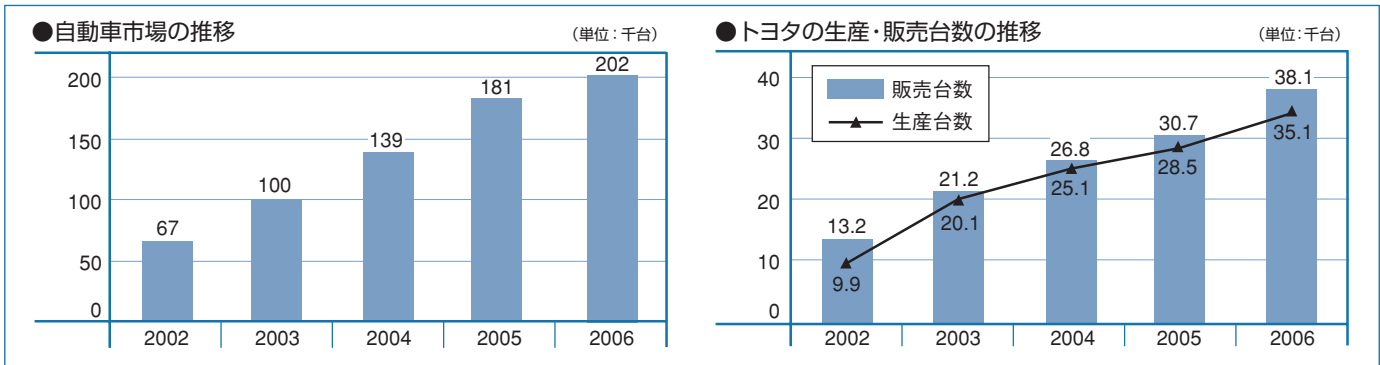


資料:トヨタ自動車

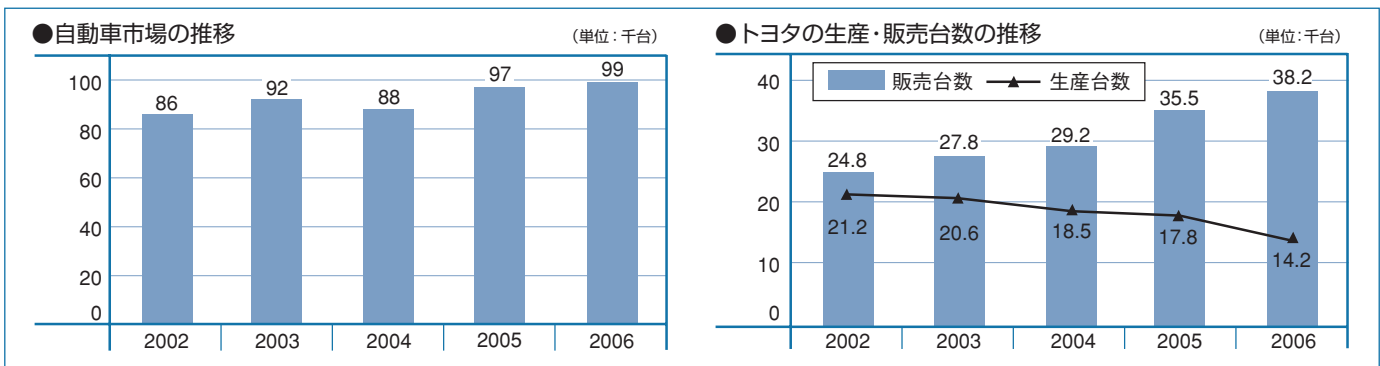
■マレーシア



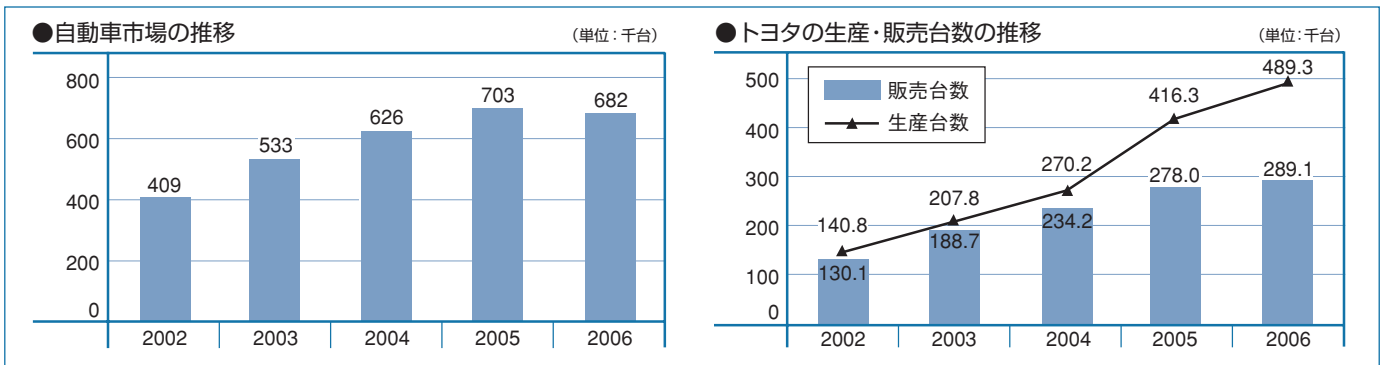
■パキスタン



■フィリピン



■タイ



資料: トヨタ自動車



### 生産体制

(単位:千台)

国/地域	会社名	生産開始	従業員数	主な生産品目	2006年 トヨタ車両 生産実績*
オーストラリア ①	Toyota Motor Corporation Australia Ltd.(TMCA)	1963.4	4,610	カムリ エンジン	112 —
バングラデシュ ②	Aftab Automobiles Ltd.	1982.6	110	ランドクルーザー	—

注)※ 車両生産実績が千台以上の場合のみ記載。

### ディストリビューター

#### <オセアニア>

ディストリビューター数*	オセアニアでの販売台数 (単位:千台)
15	250.3

#### <中近東>

ディストリビューター数*	中近東での販売台数 (単位:千台)
17	404.8

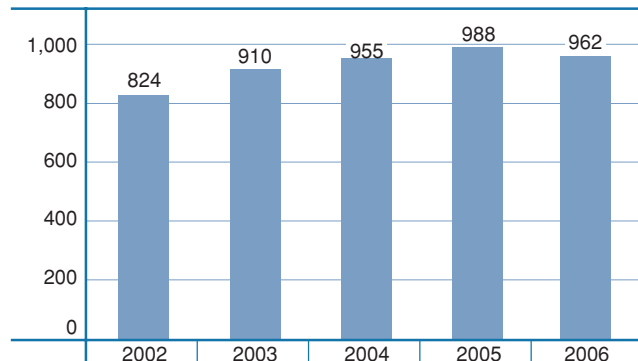
注)※ 2006年5月現在。

オセアニア・中近東での活動  
海外における活動

### オーストラリア

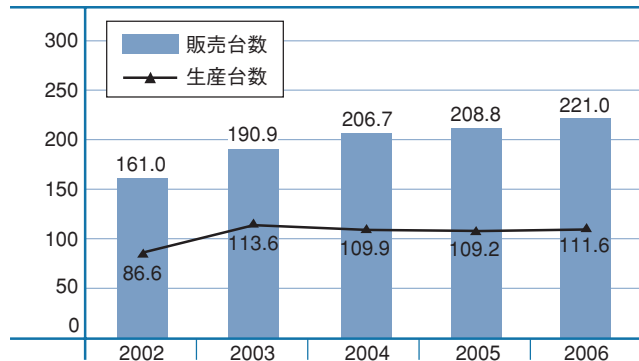
#### ●自動車市場の推移

(単位:千台)



#### ●トヨタの生産・販売台数の推移

(単位:千台)



資料:トヨタ自動車

## トヨタの地域別海外生産台数の推移

(単位：千台)

地域	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
北米	838.3	962.8	1,061.9	1,104.0	1,088.5	1,205.3	1,278.4	1,444.0	1,535.1	1,519.3
中南米	3.8	15.3	16.8	19.6	17.5	27.8	58.1	80.4	138.5	177.9
ヨーロッパ	132.5	190.0	190.5	188.1	219.5	383.6	466.1	582.5	638.1	808.8
アフリカ	91.2	74.1	68.4	77.5	77.5	75.5	93.3	108.8	121.1	143.8
アジア	244.4	125.5	182.8	269.8	282.7	371.8	548.4	717.0	1,029.2	1,137.7
オセアニア	77.6	100.4	91.0	92.4	94.6	86.6	113.6	109.9	109.2	111.6
海外生産合計	1,387.9	1,468.1	1,611.5	1,751.3	1,780.3	2,150.5	2,558.0	3,042.7	3,571.2	3,899.0
国内生産合計	3,502.0	3,165.8	3,118.2	3,429.2	3,354.4	3,485.2	3,520.3	3,680.9	3,789.6	4,194.2
グローバル生産合計	4,890.0	4,634.0	4,729.7	5,180.5	5,134.7	5,635.7	6,078.3	6,723.7	7,360.9	8,093.2

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車

## トヨタの地域別海外販売台数の推移

(単位：千台)

地域	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
北米	1,336.4	1,489.4	1,605.3	1,742.8	1,869.0	1,908.9	2,031.3	2,230.3	2,436.1	2,738.3
中南米	135.4	151.6	125.9	129.1	132.0	128.8	162.1	214.9	270.5	339.4
ヨーロッパ	501.8	560.5	606.8	671.9	672.3	764.8	851.5	946.9	995.2	1,124.1
アフリカ	143.6	129.7	123.2	121.8	126.5	139.8	160.6	206.7	227.2	265.7
アジア	425.7	240.1	263.6	371.7	380.3	493.4	682.4	846.3	1,062.9	1,106.7
オセアニア	148.2	176.5	171.8	176.7	162.2	182.2	215.1	232.8	236.9	250.3
中近東	146.7	182.3	161.4	168.7	204.3	220.3	251.4	270.9	325.3	404.8
海外販売合計	2,837.6	2,930.0	3,058.1	3,382.6	3,546.7	3,838.3	4,354.5	4,948.8	5,554.1	6,229.3
国内販売合計	2,005.9	1,711.0	1,664.4	1,771.7	1,715.2	1,680.5	1,715.9	1,758.8	1,713.1	1,692.3
グローバル販売合計	4,843.6	4,641.0	4,722.5	5,154.3	5,261.9	5,518.8	6,070.4	6,707.6	7,267.3	7,921.6

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車

## トヨタ車の地域別輸出台数

(単位：千台)

地域	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
北米	510.8	569.5	650.1	717.7	720.8	852.1	782.8	813.5	939.6	1,344.7
中南米	135.3	125.1	89.0	93.9	97.4	75.2	71.5	95.6	120.2	148.9
ヨーロッパ	404.1	372.5	447.9	491.1	433.1	392.7	424.6	419.0	360.7	375.1
アフリカ	47.3	49.2	42.3	37.4	38.2	53.6	58.2	92.0	107.2	130.0
アジア	161.6	79.3	93.4	117.5	99.0	147.2	154.7	156.2	129.8	112.3
オセアニア	93.6	104.2	102.3	115.0	113.1	128.1	154.1	164.6	159.2	171.6
中近東	133.7	155.7	114.5	126.3	158.5	160.4	182.6	202.1	226.5	246.7
合計	1,494.3	1,462.8	1,548.0	1,706.2	1,665.7	1,816.8	1,836.0	1,951.7	2,043.2	2,529.3

注) 地域区分は日本自動車工業会区分。台数はトヨタとレクサスブランド。「KD セット」(「KD セット」とは、1台当りの構成部品価格が60%未満のもので、部品扱い)を除く。合計にはその他の地域を含む。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：トヨタ自動車



## トヨタグループ

会社名	設立	事業内容	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	売上高 (百万円)	トヨタ 出資比率 (%)
(株)豊田自動織機 Toyota Industries Corporation	1926.11 (大正15年)	繊維機械、産業車両の製造・販売 乗用車のボディー及び部品の製造	80,462	10,584	950,746	23.51
愛知製鋼(株) Aichi Steel Corporation	1940.3 (昭和15年)	特殊鋼、鍛造品の製造・販売	25,016	2,341	178,621	23.71
(株)ジェイテクト JTEKT Corporation	1921.1 (大正10年)	工作機械、自動車用部品、 住宅設備品の製造・販売	35,877	9,873	427,254	22.68
トヨタ車体(株) Toyota Auto Body Co.,Ltd.	1945.8 (昭和20年)	乗用車、商用車、特殊車のボディー 及び部品の製造	10,371	10,628	1,258,004	56.03
豊田通商(株) Toyota Tsusho Corporation	1948.7 (昭和23年)	各種原材料、製品の売買・輸出入	26,748	1,727	3,036,562	22.99
アイシン精機(株) Aisin Seiki Co.,Ltd.	1949.6 (昭和24年)	自動車部品、住生活関連機器の製造・販売	45,049	10,837	720,542	22.25
(株)デンソー DENSO CORPORATION	1949.12 (昭和24年)	各種自動車用及びその他電装用品、 空調設備並びに一般機械器具、 電気機械器具の製造・販売	187,456	38,371	2,057,045	22.98
トヨタ紡織(株) Toyota Boshoku Corporation	1950.5 (昭和25年)	自動車用内装製品、フィルター及び パワートレイン機器部品、繊維製品等の 製造・販売	8,400	6,860	567,399	39.36
東和不動産(株) Towa Real Estate Co.,Ltd.	1953.8 (昭和28年)	不動産の所有・管理・売買・貸借	23,750	79	5,268	45.00
(株)豊田中央研究所 Toyota Central Research and Development Laboratories, Incorporated	1960.11 (昭和35年)	総合技術の開発、利用に関する各種の 研究試験・調査	3,000	888	18,645	54.00
関東自動車工業(株) Kanto Auto Works, Ltd.	1946.4 (昭和21年)	乗用車、商用車のボディー及び部品、 住宅関連機器及び建築用部材の製造	6,850	5,528	661,134	50.08
豊田合成(株) Toyoda Gosei Co.,Ltd.	1949.6 (昭和24年)	ゴム・合成樹脂・ウレタン製品、半導体 関連製品、電気・電子製品、接着剤等の 製造・販売	28,027	5,390	319,779	42.66
日野自動車(株) Hino Motors, Ltd.	1942.5 (昭和17年)	トラック、バス、乗用車、商用車、特殊車 及び部品の製造・販売	72,717	9,507	919,946	50.11
ダイハツ工業(株) Daihatsu Motor Co.,Ltd.	1907.3 (明治40年)	乗用車、商用車、特装車及び部品の 製造・販売	28,404	11,209	1,021,182	51.19

注) 2006年3月現在 資本金、従業員数は各社決算期末の数値。売上高は2005年4月～2006年3月

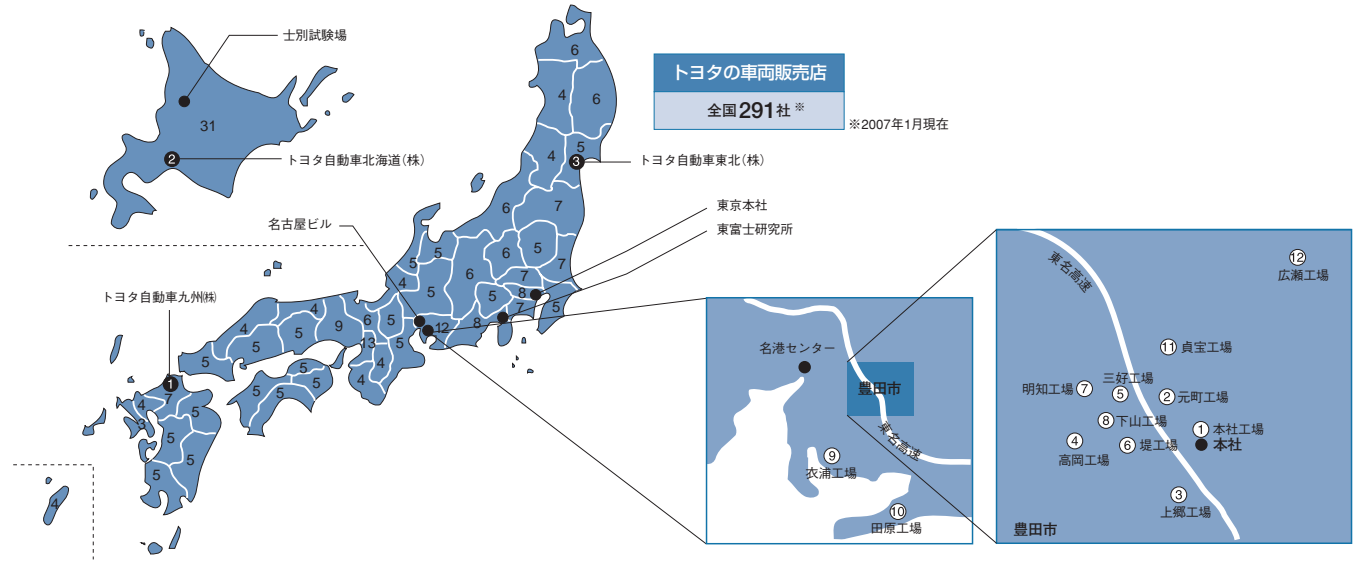
## サプライヤー

組織名	設立	会員	備考
協豊会	1943.12 (昭和18年)	204社	部品サプライヤー
栄豊会	1983.4 (昭和58年)	122社	設備・物流サプライヤー
合計		326社	(協豊会・栄豊会の重複加入を除くと310社)

注) 2006年6月現在



国内の主要事業所・販売・サービスの体制



国内の生産拠点

名称	事業内容・生産品目	完成年月	生産台数	従業員数
① 本社工場	ランドクルーザー 100 のシャシー、鍛造部品、足廻り機械部品	1938.11	110 千台	3,981 人
② 元町工場	クラウン、プレビス、プログレ、マークⅡプリット、マークⅩ、エステイマ	1959. 8	115	6,360
③ 上郷工場	エンジン	1965.11	—	3,378
④ 高岡工場	カローラ、ヴィッツ、イスト、ラクティス、オーリス	1966. 9	432	4,860
⑤ 三好工場	駆動関係部品、冷鍛・焼結部品	1968. 7	—	1,585
⑥ 堤工場	プリウス、カムリ、プレミオ、アリオン、カルディナ、ウィッシュ、サイオンtC	1970.12	471	4,904
⑦ 明知工場	足廻り鋳物部品、足廻り機械部品	1973. 6	—	1,628
⑧ 下山工場	エンジン、ターボチャージャー、VVT、触媒コンバーター	1975. 3	—	1,425
⑨ 衣浦工場	駆動関係部品	1978. 8	—	3,037
⑩ 田原工場	LS、GS、IS、RAV4、4ランナー、ランドクルーザープラド、エンジン	1979. 1	595	6,890
⑪ 貞宝工場	機械設備、鋳鍛造型及び樹脂成形型	1986. 2	—	1,479
⑫ 広瀬工場	電子制御装置、IC等の研究開発及び生産	1989. 3	—	1,380
① トヨタ自動車九州(株)	IS、ES、ハリアー、クルーガーV	1992.12	399	4,191
② トヨタ自動車北海道(株)	オートマチックトランスミッション、トランスファー、アルミホイールなど自動車部品	1992.10	—	1,702
③ トヨタ自動車東北(株)	メカトロ部品の生産	1998.10	—	237

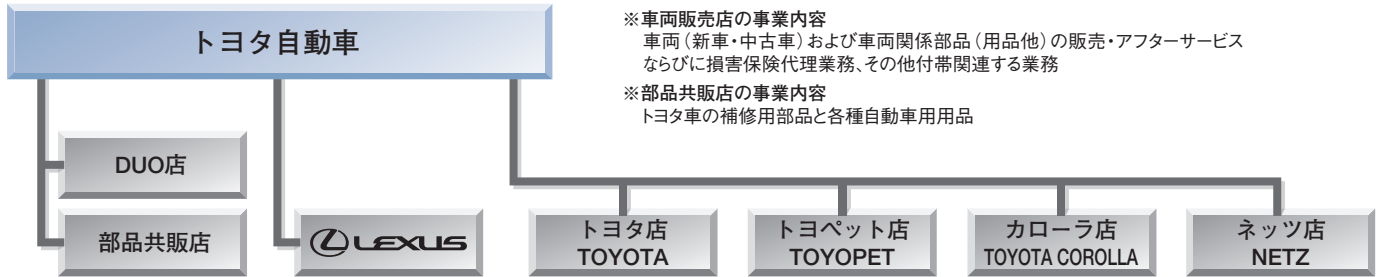
注) 1. 2006年3月現在 (事業内容・生産品目、生産台数は2006年12月現在)。  
 2. トヨタ自動車九州(株)、トヨタ自動車北海道(株)、トヨタ自動車東北(株)はトヨタ自動車の100%出資会社。

その他の拠点

名称	事業内容	完成年月	従業員数
名港センター	車両船積	1964. 5	5 人
春日部品センター	補給部品各センターの統括	1961. 9	56
稲沢部品センター	大物補給部品の入出荷	1978.10	73
大口部品センター	中・小物補給部品の入出荷	1978. 1	184
上郷物流センター	海外及び国内遠隔地生産用部品・内外装補給部品の入出荷、車両中継地	1968. 8	170
飛島物流センター	海外向けの生産用部品・補給部品の入出荷	1988.11	143

注) 2006年3月現在。

■販売・サービス網と事業内容



■取扱車(2007年3月現在)

店名	トヨタ店		トヨペット店		トヨタカローラ店	ネッツ店
	東京	大阪	東京	大阪		
●セダン						
センチュリー	●	●	●	●		
クラウン マジェスタ	●	●	●	●		
クラウン (“ロイヤル”シリーズ、アスリート)	●	●	●	●		
クラウンセダン	●	●	●	●		
プレビス	●	●	●	●		
プログレ			●	●	●	
マークX	●	●	●	●		
カムリ					●	
プレミオ			●	●	●	
アリオン	●	●	●	●		
アベンシス						●
プリウス	●	●	●	●	●	
カローラ アクシオ					●	
ベルタ			●	●	●	
●スポーツ&スペシャルティ						
MR-S						●
●2BOX系						
ブレイド	●	●	●	●	●	
カローラ スパシオ					●	
オーリス						●
ラウム						●
ポルテ	●	●	●	●	●	
ラクティス			●	●	●	
bB						●
イスト						●
ヴィッツ						●
パッソ					●	
●ステーションワゴン						
クラウンエステート	●	●	●	●		
マークIIブリット		●	●	●		
アベンシスワゴン						●
カルディナ	●	●	●	●	●	
サクシード	●	●	●	●	●	
カローラ フィールダー					●	
プロボックス					●	

店名	トヨタ店		トヨペット店		トヨタカローラ店	ネッツ店
	東京	大阪	東京	大阪		
●ミニバン・キャブワゴン						
エスティマ	●	●	●	●		●
エスティマハイブリッド	●	●	●	●		●
アイシス	●	●	●	●		
イプサム			●	●	●	●
ウィッシュ						●
シエンタ					●	
アルファードG			●	●	●	
アルファードV						●
アルファードハイブリッド			●	●	●	●
ハイエース	●	●	●	●		
ノア					●	
ヴォクシー						●
●スポーツユーティリティ系						
ランドクルーザー	●	●			●	
ランドクルーザープラド	●	●			●	
ハイラックスサーフ	●	●	●	●		
ハリアー			●	●	●	
ハリアーハイブリッド			●	●	●	
クルーガーL					●	
クルーガーハイブリッド					●	
RAV4						●
ラッシュ			●	●	●	
●バン・トラック・バス						
サクシード	●	●	●	●	●	
プロボックス					●	
ハイエース	●	●	●	●		
レジアスエース						●
タウンエース					●	
ライトエース						●
ダイナ(2t系/1t系)	●	●			●	
トイエース(2t系/1t系)			●	●	●	
コースター	●	●			●	

日本における活動  
販売体制

LEXUS LS460, GS450h/GS430/GS350, IS350/IS250, SC430

DUO店 < VW > Polo, Golf, Golf Plus, Golf Touran, Jetta, New Beetle, New Beetle Cabriolet, Passat, Passat Variant, Eos, Touareg

※トヨタ特装車は、ベース車と同じ販売店で扱っています。

トヨタブランド

車名	生産開始年	2006年 生産台数	2006年 までの累計
ランドクルーザー	1951	310,822	5,285,662
クラウン	1954	73,686	5,690,423
トヨエース・ダイナ	1954・56	49,396	3,515,656
コースター	1963	11,600	344,281
カローラ	1966	383,299	23,317,120
ハイエース	1967	159,522	4,956,410
ハイラックス	1967	117,268	10,760,431
センチュリー	1967	461	39,767
マークIIブリット	1968	2,641	6,528,706
ライトエース	1970	9,629	2,190,282
セリカ	1970	635	4,129,997
タウンエース	1976	15,120	2,449,371
カムリ	1980	146,648	3,931,897
(内カムリハイブリッド)	2006	35,316	35,316
セルシオ	1989	11,998	891,683
エスティマ	1990	114,152	1,868,179
(内エスティマハイブリッド)	2001	10,136	37,485
ウィンダム	1991	7,254	1,039,602
カルディア	1992	10,571	832,125
RAV4	1994	392,739	2,468,784
グランビア	1995	19,988	396,277
コンフォート	1995	8,831	142,642
イプサム	1996	10,594	690,430
プリウス	1997	208,287	680,023
ハリアー	1997	98,482	980,001
(内ハリアーハイブリッド)	2005	35,975	76,128
ラウム	1997	18,135	286,319
プログレ	1998	1,784	77,042
ヴィッツ	1999	273,890	2,027,693
MR-S	1999	1,328	76,684
クルーガー	2000	147,190	903,813
(内クルーガーハイブリッド)	2005	33,524	64,080

車名	生産開始年	2006年 生産台数	2006年 までの累計
bB	2000	133,305	577,264
ヴォクシー	2001	63,266	356,219
ノア	2001	53,660	396,052
プレミオ	2001	31,558	213,795
アリオン	2001	28,489	196,217
アレックス	2001	6,569	101,136
ブレビス	2001	1,436	32,898
アルファード	2002	63,829	379,465
(内アルファードハイブリッド)	2003	5,821	19,648
イスト	2002	55,502	477,953
プロボックス	2002	50,676	230,323
サクシード	2002	23,354	121,741
ウィッシュ	2003	85,840	493,329
シエンタ	2003	39,736	188,354
パッソ	2004	66,051	233,558
マークX	2004	46,078	126,006
アイシス	2004	44,343	135,497
ポルテ	2004	40,195	123,628
ベルタ	2005	202,835	214,274
ラクティス	2005	71,671	110,586
オーリス	2006	24,539	24,539
ブレイド	2006	3,305	3,305

レクサスブランド

車名	生産開始年	2006年 生産台数	2006年 までの累計
IS350/IS250	2005	109,720	144,197
GS430/GS350	2005	51,290	114,906
(内GS450h)	2006	8,468	8,468
SC430	2005	8,051	12,829
LS460	2006	30,908	30,908

資料：トヨタ自動車

注) ※ 完成車輸出・CKD分含む。

1. クラウンにはクラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。
2. トヨエース・ダイナにはクイックデリバリー、アーバンサポーターを含む。
3. コースターの累計生産台数は1965年以降の台数。それ以前はダイナに含まれる。
4. カローラにはカローラバシオ、カローラランクス、カローラフィールダー、カローラアクシオを含む。
5. ハイエースには救急車を含む。累計台数にはレジアスを含む。
6. ハイラックスの累計生産台数にはT100を含む。
7. マークIIブリットの累計生産台数にはマークIIシリーズを含む。

8. タウンエースの累計生産台数にはマスターエースを含む。
9. カムリにはアルティスを含む。累計にはカムリグラシアも含む。
10. RAV4はEVを除く。
11. グランビアにはグラランドハイエース、ハイメディック、救急車を含む。
12. コンフォートには教習車を含む。
13. bBの累計生産台数にはbBオープンデッキを含む。

トヨタブランド

車名	販売開始年	2006年登録台数	2006年までの累計
ランドクルーザー	1951	16,482	658,940
トヨエース	1954	11,341	1,316,650
クラウン	1955	70,840	4,941,578
ダイナ	1956	18,750	1,160,394
コースター	1963	1,923	137,077
カローラ	1966	143,178	11,564,673
ハイエース	1967	58,215	2,653,563
センチュリー	1967	452	39,699
ハイラックス	1968	7,709	1,150,346
マークII	1968	2,714	4,812,161
ライトエース	1970	9,628	1,730,063
セリカ	1970	672	864,797
タウンエース	1976	15,239	2,115,907
カムリ	1980	12,943	1,206,120
ソアラ	1981	2	343,061
セルシオ	1989	3,032	362,438
エスティマ	1990	95,640	1,373,690
ウインダム	1991	289	228,842
アリスト	1991	2	144,287
カルディナ	1992	10,899	794,579
RAV4	1994	22,527	378,342
コンフォート	1995	9,015	121,960
クイックデリバリー	1995	1,121	18,423
イブサム	1996	7,193	513,792
プリウス	1997	48,571	232,483
ハリアー	1997	33,134	252,191
レジアス	1997	24,536	213,192
ラウム	1997	18,860	285,188
ハイメディック	1997	206	2,490
プログレ	1998	1,790	76,877
アルテッツァ	1998	2	111,472
ヴィッツ	1999	117,635	942,175
MR-S	1999	1,324	19,835
ファンカーゴ	1999	51	359,653
ブラッツ	1999	51	181,581

注) 1. ランドクルーザーにはブラドを含む。  
 2. トヨエースの累計登録台数にはアーバンサポーターを含む。  
 3. クラウンにはクラウンマジェスタ、クラウンコンフォート、クラウンエステートを含む。  
 4. ダイナにはアーバンサポーターを含む。  
 5. カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダー、カローラアクシオを含む。  
 6. ハイエースにはグランドハイエース、グランビア、トヨタ救急車を含む。  
 ハイエースの累計登録台数には救急車、レジアスを含む。  
 7. ハイラックスにはサーフを含む。

車名	販売開始年	2006年登録台数	2006年までの累計
キャミ	1999	28	40,215
bB	2000	62,969	384,465
クルーガー	2000	6,979	77,809
ヴォクシー	2001	64,585	350,698
ノア	2001	53,249	390,774
プレミオ	2001	31,380	208,535
アリオン	2001	28,551	193,714
アレックス	2001	7,189	104,203
プレビス	2001	1,433	32,791
アルファード	2002	66,206	370,792
プロボックス	2002	49,459	246,769
サクシード	2002	23,549	120,402
イスト	2002	18,946	366,327
WILL サイファ	2002	2	31,835
ウィッシュ	2003	78,143	455,372
シエンタ	2003	38,977	184,281
アベンシス	2003	9,808	46,570
パッソ	2004	72,104	229,046
マークX	2004	46,298	123,127
アイシス	2004	45,200	132,988
ポルテ	2004	39,938	120,286
ラクティス	2005	74,982	105,233
ベルタ	2005	34,450	39,935
ラッシュ	2006	25,958	25,958
オーリス	2006	9,343	9,343
ブレイド	2006	1,218	1,218

レクサスブランド

車名	販売開始年	2006年登録台数	2006年までの累計
IS350/IS250	2005	10,727	14,638
GS430/GS350	2005	9,145	14,988
(内GS450h)	2006	2,236	2,236
SC430	2005	1,532	2,071
LS460	2006	9,694	9,694

資料：トヨタ自動車

8. マークIIにはマークIIプリットを含む。マークIIの累計登録台数にはマークIIシリーズを含む。  
 9. カムリの累計登録台数にはカムリグラフィアを含む。  
 10. コンフォートにはコンフォート教習車を含む。  
 11. レジアスの累計登録台数にはレジアスエースを含む。  
 12. アルテッツァの累計登録台数にはアルテッツァジータを含む。  
 13. bBにはbBオープンデッキを含む。  
 14. トヨタ教習車、TOYOTA-FCHV、大型バス、コミュニーターを除く。

国内販売車両一覧(2007年3月現在)

車名	車名の由来	初代モデル発表時期
1 ランドクルーザー <sup>1)</sup>	Land(陸)とCruiser(巡洋艦)を合成した名前で、「陸の巡洋艦」という意味	1951.8
2 ダイナトヨエース	ダイナはDynamic(活力ある、機動力ある)の短縮、トヨエースはTOYOTAとAce(第一人者、最も優れた者、切り札)からの合成語	1956.5(ダイナ) 1954.9(トヨエース)
3 クラウン <sup>2)</sup>	英語で「王冠」という意味	1955.1
4 コースター	「沿岸貿易船」「巡航船」という意味	1963.3
5 カローラ <sup>3)</sup>	英語で「花の冠」という意味	1966.10
6 センチュリー	英語で「1世紀=100年」という意味	1967.9
7 ハイエース	High(高級な、より優れた)とAceの合成語	1967.10
8 ハイラックス <sup>4)</sup>	High(高級な、より優れた)とLuxury(ぜいたくな、豪華な)の合成語	1968.3
9 ライトエース	Light(軽い、軽快な)とAceの合成語	1970.10
10 タウンエース	Town(町、都会)とAceの合成語	1976.10
11 カムリ	カムリは日本語の「冠」をもとにつくった言葉	1980.1
12 エスティマ <sup>5)</sup>	英語で「尊敬すべき」という意味のエスティマブル(estimable)からの造語	1990.5
13 ハイメディック	「高規格な医療設備を備えた車」という意味	1992.5
14 カルディナ	イタリア語のCARDINALE(「中心的な、主要な」の意)からの造語	1992.11
15 RAV4	Recreational Active Vehicle 4 wheel driveの略	1994.5
16 コンフォート <sup>6)</sup>	「安らぎ、快適」という意味	1995.12
17 イプサム	ラテン語IPSUM「本来の」の意味	1996.5
18 レジアスエース	レジアスとエースの合成語。レジアスはラテン語で「華麗な」「すばらしい」の意味	1997.4
19 ラウム	英語の「ROOM」に相当するドイツ語	1997.5
20 プリウス	ラテン語で「～に先立って」の意味	1997.10
21 ハリアー <sup>7)</sup>	英語で「小さな鷹の一種“チュウヒ”」の意味	1997.12
22 プログレ	フランス語で「進歩」「進取」の意味	1998.5
23 ヴィッツ	ドイツ語のWITZ(「才気、機知」の意)からの造語	1999.1
24 MR-S	Midship Runabout-Sportsの頭文字	1999.10
25 bB	未知の可能性を秘めた箱、「ブラックボックス」のイニシャル	2000.2
26 クルーガー <sup>8)</sup>	ドイツ語KLÜGER(賢い、聡明な)の意	2000.11

車名	車名の由来	初代モデル発表時期
27 プレビス	英語のbrave(勇敢な)に由来する造語	2001.6
28 ヴォクシー	英語のVOX(言葉・声)からの造語	2001.11
29 ノア	優しい語感の人名(英語)から命名	2001.11
30 プレミオ	英語の「PREMIER(第1位の)」からの造語	2001.12
31 アリオン	英語の「ALL IN ONE(すべてをひとつに)」からの造語	2001.12
32 イスト	stylist、artistなど、～の演出家、作家といった「～をする人」を表す接尾語	2002.5
33 アルファード <sup>9)</sup>	星座の中で最も明るい星を意味するギリシア語のα(alpha)に由来する造語	2002.5
34 プロボックス	英語の「professional(プロの)」と「box(箱)」を合わせた造語	2002.7
35 サクシード	英語で「成功する」の意味	2002.7
36 ウィッシュ	英語で「希望」「願い」の意味	2003.1
37 シエンタ	スペイン語の「siete(7)」と英語の「entertain(楽しませる)」からの造語	2003.9
38 アベンシス <sup>10)</sup>	フランス語で「前に進む」という意味のAvancerからの造語	2003.10
39 パッソ	イタリア語で「ステップ、足音」の意味	2004.6
40 ボルテ	フランス語で「扉、ドア」の意味	2004.7
41 アイシス	英語で「古代エジプト豊穡の神」の意味	2004.9
42 マークX	Mark(目標、成功)とX(次世代の)の造語	2004.11
43 ラクティス	「Runner with Activities」からの造語	2005.9
44 ベルタ	イタリア語の「美」の意味	2005.11
45 ラッシュ	英語で「勢いよく進む」の意味	2006.1
46 オーリス	ラテン語のAURUM「黄金」、英語のAURA「独特の雰囲気」からの造語	2006.10
47 ブレイド	英語で「刀、やいば」の意味	2006.12
48 <LEXUS>GS <sup>11)</sup>	「Grand Sedan」の略	2005.8
49 <LEXUS>IS	「Intelligent Sports Sedan」の略	2005.8
50 <LEXUS>SC	「Sports Coupe」の略	2005.8
51 <LEXUS>LS	「Luxury Sedan」の略	2006.9

注) 1)ランドクルーザープラドを含む。 2)クラウンコンフォート、エステートを含む。 3)カローラスパシオ、カローラアクシオ、カローラフィールダーを含む。 4)ハイラックスサーフを含む。  
5)エスティマハイブリッドを含む。 6)教習車を含む。 7)ハリアーハイブリッドを含む。 8)クルーガーハイブリッドを含む。 9)アルファードハイブリッドを含む。 10)アベンシスワゴンを含む。  
11)GS450hを含む。

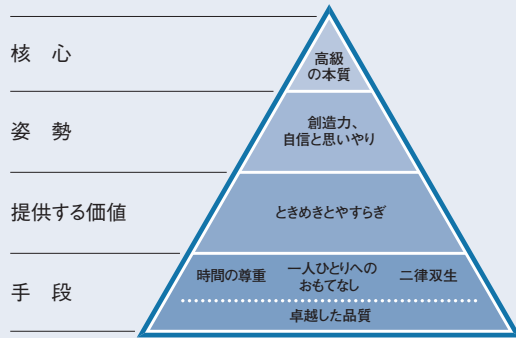


## ■ブランド

1989年に北米で創設、その後、欧州やアジアなど世界に展開してきたレクサスブランドが2005年8月、日本に導入されました。レクサスは、「高級の本質の追求」をブランドの理念として掲げ、「最高の商品」を「最高の販売・サービス」で提供、お客様がレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「ときめき」と「やすらぎ」に満ちた最高の時間」とするために開発・生産・販売の全ての面で妥協のない取り組みを続けています。

### ●レクサスピラミッド

レクサスピラミッドは、レクサスの思想を51文字で表現したものです。そして、その思想はグローバルに統一されています。



### ●レクサスブランドステートメント

レクサスブランドステートメントは、レクサスピラミッドの51文字を分かりやすい言葉で明文化し、お客さまとの約束として宣言したものです。

#### 【レクサスブランドステートメント】

- ◎私たちは、最高の商品を最高の販売、サービスでお届けし「高級の本質」を追求し続けます。
- ◎私たちは、「時間の尊重」「一人ひとりへのおもてなし」「二律双生」「卓越した品質」の4つの手段で最高を実現します。
- ◎私たちは、お客さまがレクサスとともに過ごすいかなる瞬間も、「ときめき」と「やすらぎ」で心満たされることを約束します。
- ◎私たちは、常に「創造力」を発揮し、「自信」と「思いやり」をもって行動します。

## ■販売・サービスの体制

### ●レクサス販売店



全国163店（2007年6月までの開業予定店を含む）

### ●主なサービス

オーナーズデスク	オーナーのご要望に、24時間365日対応。レクサスオーナー専用のコールセンターが、いつでも、どこでも、レクサスライフをサポート。
G-LINK [3年間無料]	いつでも、どこでも、オーナーの車をネットワークでサポートする最新のテレマティクスサービス。
●レクサス緊急サポート24	事故や故障など万一のトラブルにも、24時間365日体制でサポート。
●G-Security	大切な愛車を24時間見守る最先端のセキュリティサービス。
●リモートメンテナンスサービス	販売店からの定期点検・メンテナンス・イベント情報などを直接お車にメールでお知らせ。車両の異常を検知した場合にもその内容をお知らせ。
オーナーズカード	全国のレクサス販売店でのご提示により、最適なメンテナンスで対応。
新車保証 [5年間/10万km]	万一の不具合が生じた場合、新車登録日から5年間（ただし走行距離10万kmまで）、保証書の内容に基づき無料で修理。

## ■取り扱い車種（2007年3月現在）



LS460



GS450h / GS430 / GS350



IS350 / IS250



SC430



トヨタは1992年1月に「地球環境に関するトヨタの取り組み方針（通称：トヨタ地球環境憲章）」を制定し、1993年2月にはこれをより具体的に企業活動へ反映させるため「トヨタ環境取組プラン」を策定しました。2006年より2010年度目標を定めた第4次取組プランに基づく活動を開始し、目標達成に向け、取り組みを進めています。

■第4次「トヨタ環境取組プラン」(2006～2010年度)

取り組み項目		具体的な実施事項・目標等(抜粋)
エネルギー・温暖化	マネジメント	① グローバルな事業活動における一層のCO <sub>2</sub> 低減 ② 各国・各地域でトップクラスの燃費性能を目指す技術開発の推進
	開発・設計	③ クリーンエネルギー車の開発推進と効果的な導入・普及促進 ④ エネルギー・燃料多様化に向けた技術開発 ⑤ 各種ネットワーク技術等を活用した交通流改善への取り組み
	生産・物流	⑥ 各国・各地域の生産・物流活動における、CO <sub>2</sub> 低減
資源循環	生産・物流	⑦ 循環型社会に向けた資源有効利用の一層の推進 ⑧ 水使用量低減
	自動車リサイクル	⑨ 日欧のリサイクルシステムの定着 ⑩ リサイクル設計の一層の推進と展開
	環境負荷	⑪ 環境負荷物質の管理、低減の一層の推進 ⑫ PRTR <sup>※3</sup> 対象物質の排出量低減
大気環境	開発・設計	⑬ 各国・各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス低減
	生産・物流	⑭ VOC <sup>※4</sup> 排出量低減対策
環境経営	マネジメント	⑮ 連結環境マネジメント強化 ⑯ ビジネスパートナーにおける環境マネジメントの一層の推進 ⑰ 環境教育の充実 ⑱ 環境改善に寄与する新規事業の推進
		⑲ Eco-VAS <sup>※5</sup> の本格運用と定着化により、ライフサイクル環境負荷の着実な低減
		⑳ 循環型社会構築への寄与貢献
		㉑ 環境情報開示と双方向コミュニケーションの充実
	社会との連携	㉒ 持続可能な発展を踏まえた環境政策への積極的な貢献と提言

※1) Automobile Shredder Residue

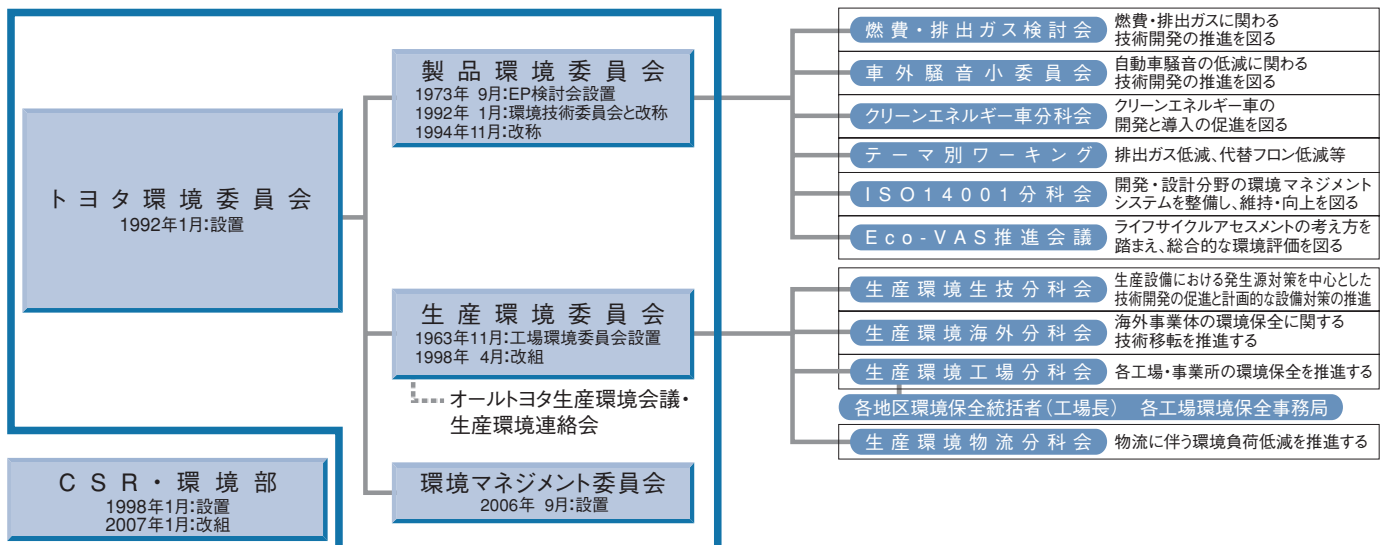
※2) 環境負荷物質4物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム)

※3) 環境汚染物質排出・移動登録

※4) Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

※5) Eco-Vehicle Assessment System

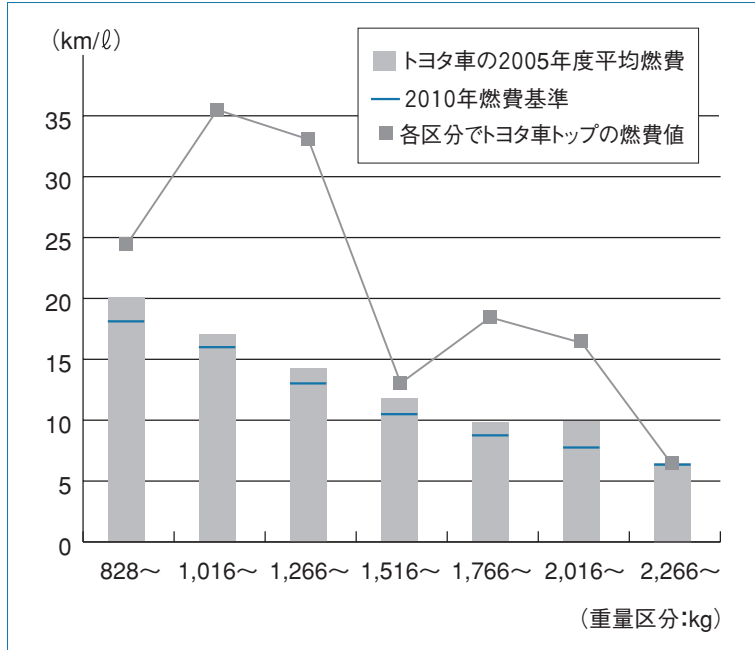
■環境問題への社内対応組織



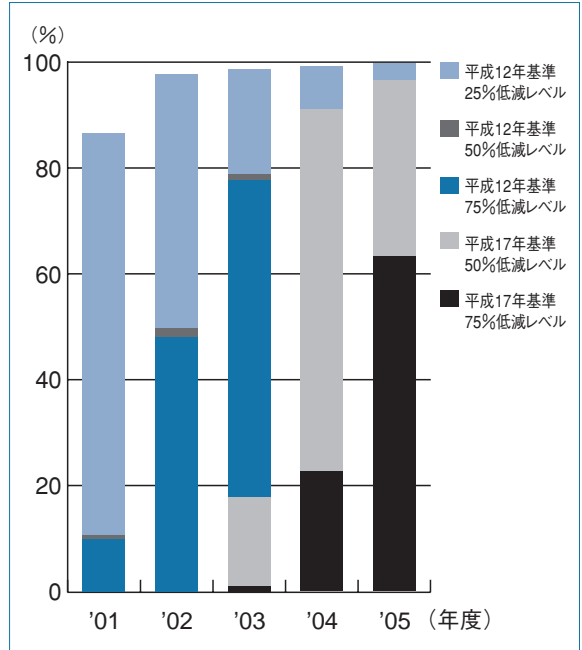
持続可能なモビリティ社会を実現するため、自動車は燃費向上と排出ガス低減に最大限に取り組むことが重要です。トヨタでは、新世代エンジンや新しい排出ガス低減システムの開発・導入などにより、2010年燃費基準の早期達成と超低排出ガスレベル達成車の拡大を進めています。

2005年度には、全重量クラス（7区分）の平均燃費で2010年燃費基準を上回り、総生産台数の87%に達しました。また、同基準をクリアし、かつ超低排出ガスレベル以上を達成した生産台数の比率は84.5%に拡大しました。

■ 2005年度のトヨタ車の燃費実績と2010年燃費基準



■ 低排出ガス車の生産台数比率の推移



1997年に世界初の量産ハイブリッド車プリウスを発売して以来、エスティマハイブリッド、ハリアーハイブリッドなどを国内市場に導入し、2006年12月末でハイブリッド車の累計販売台数は国内外合わせ86万台を突破しました。また、2002年12月に燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV」の限定発売を開始してから、日米で16台の車両を販売しました。さらに、2005年7月から改良型のリース販売（限定）を開始しました。また、FCバスは、東京都にて2003年8月～2004年12月に営業運転を実施し、2005年3月～9月には、愛・地球博の会場間の移動手段として運行しました。

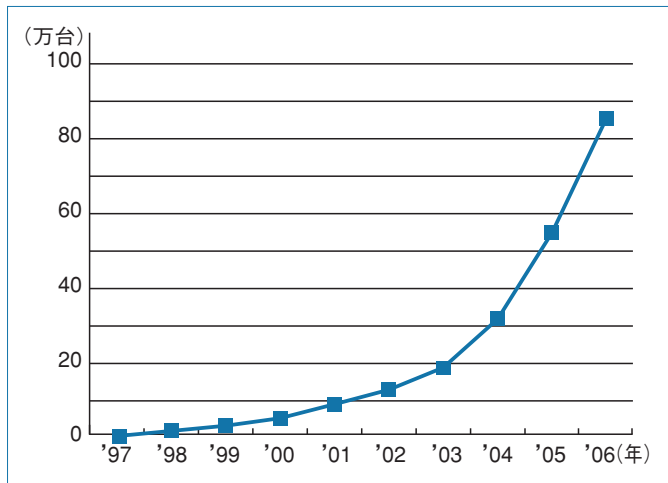
■ エネルギー多様化への対応

バイオエタノール燃料対応車の導入

- ・ 全てのガソリンエンジンにおいて、バイオエタノール混合率10%燃料に対する使用時の耐久性確保など、技術的対応を完了。
- ・ バイオエタノール燃料が普及しているブラジル市場に、エタノール100%燃料にも対応するFFV\*を、2007年導入予定。
- ・ 米国市場への対応については、バイオエタノール混合燃料の普及促進政策を踏まえて、FFVの導入を検討。

\* Flex Fuel Vehicle (ガソリンとエタノールなどを任意の比率で混合した燃料が使用可能な自動車)

■ ハイブリッド車の累計販売台数(全世界)



■ 燃料電池ハイブリッド車「トヨタFCHV」

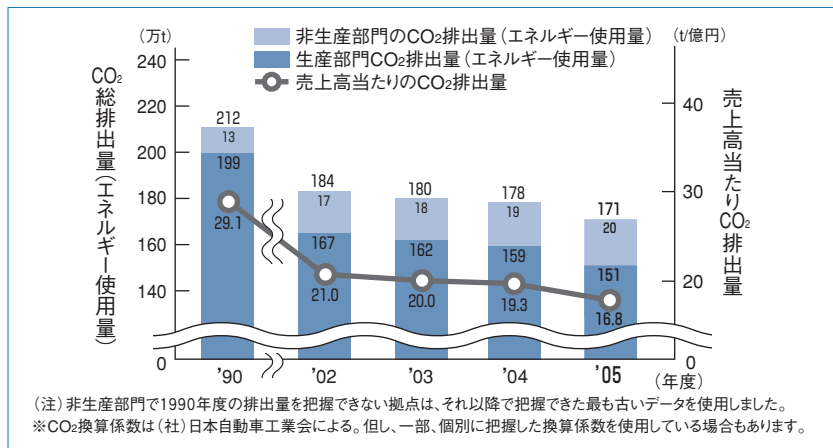
自社開発の高性能燃料電池「トヨタFCスタック」を搭載しているほか、プリウスで培ったハイブリッド技術に応用した高効率でクリーンなエコカーです。ルーフ・フェンダー等のアルミ化による軽量化、優れた空力性能、フロントフリーエアコンの採用など、多面的にエコを追求しています。

環境への取り組み  
燃費・排出ガス対策とクリーンエネルギー車の開発

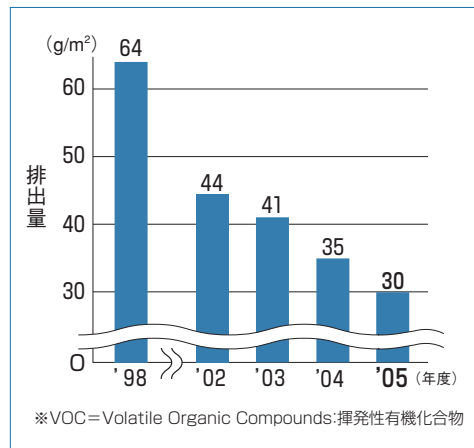
「トヨタ生産システムの追求」と「ゼロエMISSIONの挑戦」をリンクして進め、徹底したムダ・ムラ・ムリ排除による環境負荷の低減を目指すことが生産工程の環境取り組みの基本的考えです。2005年度より、目標範囲を従来の工場だけでなく、オフィス、研究所等を含め、省エネ活動を推進しています。この結果、会社のCO<sub>2</sub>年間総排出量が171万tとなり、目標180万tを達成しました。

また、VOC(揮発性有機化合物)についても、2006年1月までに全塗装9ラインへのボディー上塗り水性塗料の導入を完了、更に継続的なシンナー使用量の低減を実施し、排出量を前年より15%低減しました。

■ CO<sub>2</sub> 排出量(エネルギー使用量)と売上高当たりのCO<sub>2</sub>排出量の推移



■ ボディ塗装のVOC 排出量(全ライン平均)推移



使用済み自動車リサイクルへの取り組みは1970年シュレッダー会社の豊田メタル(株)を設立し、リサイクル技術開発を開始したことに始まります。1993年からはそれまでリサイクルが困難とされていたシュレッダーダストのリサイクルに取り組み、1998年には世界初の本格的な量産プラントを建設し、自動車部品などへの再利用を実践してきました。2002年からはサーマルリサイクル技術の実証に取り組み、幅広くリサイクル技術の蓄積を進めました。2003年にはトヨタリサイクルビジョンを公表するとともに、取り外し性を画期的に向上させた新たなリサイクル設計を開発し、新型プリウスなどへの採用を積極的に進めています。2005年には、日本の自動車リサイクル法施行に対応して、関係業界等と協力の上、自動車リサイクルシステムを構築・運営協力とともに、使用済み自動車から発生するフロン類、エアバッグ類、ASR\*の着実な引き取り、リサイクルを進めました。解体・リサイクル業者等と連携し、3物品の着実なリサイクル等により、2005年度ASR再資源化率57%、車両換算でリサイクル実効率93%を達成し、循環型社会の実現に貢献しています。

■ 特定3物品の再資源化等の実績

	2005年度実績		2005年度実績
ASR引取台数	806千台	払い渡しを受けた預託金	6,746百万円
エアバッグ引取台数	122千台	再資源化等に要した費用	7,115百万円
フロン引取台数	655千台	収支	△369百万円
再資源化率	ASR 57%		
	エアバッグ 93%		

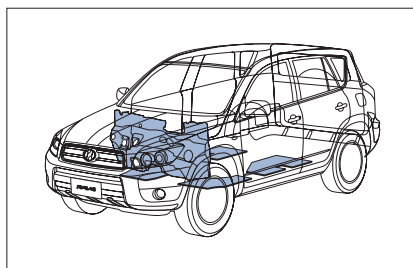
■ ASRシュレッダーダストリサイクルへの取り組み



ASRリサイクルプラント(愛知県半田市)

■ RSPSP 使用例「RAV4」

シュレッダーダスト中の発泡ウレタンや繊維類を再生素材として分別し、防音材(RSPSP)として自動車の各部位へ再利用。



RSPSP: Recycled Sound-Proofing Products

■ 新たなリサイクル設計を採用した新型プリウス

取り外し性に配慮した画期的なリサイクル設計や植物を原料としたトヨタエコプラスチックを採用。

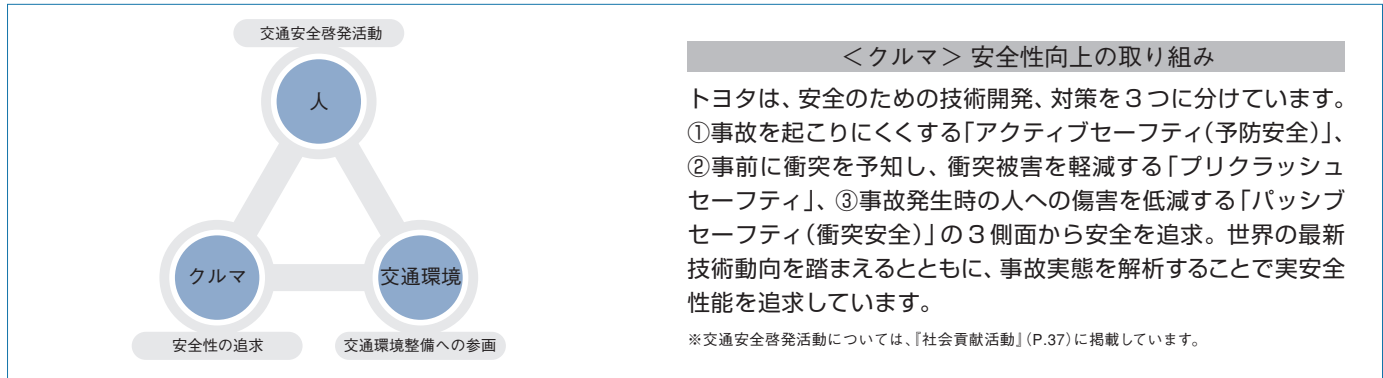


「交通事故死傷者ゼロ」を目指して

クルマが、移動の利便を提供する交通手段として発展するためには、環境への負荷、交通事故、渋滞といったネガティブ・インパクトの最小化が必要です。トヨタは、クルマの性能向上や環境負荷の削減同様、健康で豊かなモビリティ社会の実現に向け、社会的課題への対応を最重要項目に位置付け、積極的に取り組んでいます。

安全に関しては、「交通事故死傷者ゼロ」を目指し、「人・クルマ・交通環境」が一体となった活動を推進しており、安全な「クルマ」づくりに加え、ドライバーや歩行者など「人」への啓発や「交通環境」整備への提言など、総合的にアプローチしています。

交通安全総合対策



安全な車づくりの具体的な取り組み

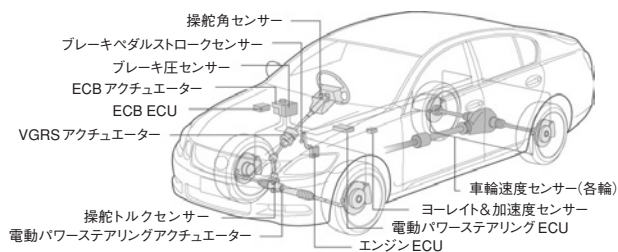
アクティブセーフティ(予防安全)		パッシブセーフティ(衝突安全)	
車両運動性能の確保 ◆基本性能 ◆事故回避性能 ◆事故回避性能向上技術	VDIM	客室空間の確保	衝撃吸収ボディ
	EBD付 ABS		高強度キャビン
	ブレーキアシスト	乗員拘束(保護)	シートベルト
	VSC		SRSエアバッグ
	TRC		シート
	ARS		室内衝撃吸収機構
タイヤ空気圧警報システム	突起物の排除・可倒化	内部突起	
人間工学的運転ポジション		外部突起	
操作機器配置への配慮		ドア	
カーナビゲーションシステム	脱出・救出の容易性	シートベルトの解除	
直接視界の確保		火災防止	
間接視界の確保		様々な性能確保	衝突実験と性能確認
メーターの視認性	傷害メカニズムの解明 (ダミー、人体FEMモデル)		
分かりやすい自車の大きさ	ITS関連先進安全技術		レーンキーピングアシスト
被視認性の向上			レーダークルーズコントロール
高齢者への配慮		AHS(Advanced Cruise-Assist Highway System: 走行支援道路システム)	
プリクラッシュセーフティ		車のインテリジェント化 (カーインテリジェンス)	バックガイドモニター
衝突不可避判断	ミリ波レーダー		ブラインドコーナーモニター
	プリクラッシュセーフティ コンピューター		ナビ協調シフト制御
	ドライバーモニターカメラ	フロント&サイドモニター	
乗員拘束	プリクラッシュ シートベルト	車と社会のコミュニケーション (カーマルチメディア)	カーナビゲーションシステム
	衝突速度低減		プリクラッシュ ブレーキアシスト
プリクラッシュ ブレーキ			緊急通報システム

安全への取り組み  
取り組み姿勢



車両に搭載された個々の安全技術・システムを連携させていくとともに、将来的には、道路インフラとの協調(路車間)、自車以外の車両から得た情報の活用(車車間)を図り、運転状況に応じた最適な運転支援を行うことにより、「事故を起こさないクルマ」の実現を目指した、今後のトヨタの安全技術・車両開発の考え方です。車両の個々の安全技術・システムを連携、さらには、「路車間」・「車車間」でも協調し、相乗効果を高めることにより、運転状況を事故に至る危険の大きさを分類した「パーキング、予防安全(アクティブセーフティ)、プリクラッシュセーフティ、衝突安全(パッシブセーフティ)、救助」の全ての運転ステージにおいて、高い安全性を追求。今後、各システムの連携をさらに進めることにより、クルマを「より危険が少ない状態」に近づけていき、「事故を起こさないクルマ」を目指します。

#### ■ 予防安全(アクティブセーフティ)関連技術の例: VDIM (Vehicle Dynamics Integrated Management)

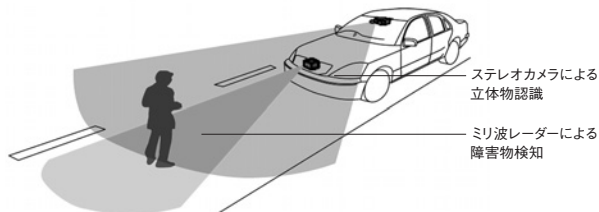


VDIM は、アクセル、ステアリング、ブレーキの操作量から求めたドライバーのイメージする車両挙動と、各種センサーから求めた情報による車両挙動とのギャップを算出。そのギャップを埋めるように、ABS<sup>※1</sup>、TRC<sup>※2</sup>、VSC<sup>※3</sup>、電動パワーステアリングなどを統合・マネジメントし、車両限界前から車両の前後左右方向の運動状態をシームレスに制御することにより高い予防安全性を実現する世界最先端の技術です。

- ※1 ABS : Anti-lock Brake System
- ※2 TRC : Traction Control
- ※3 VSC : Vehicle Stability Control

#### ■ プリクラッシュセーフティシステム: 「歩行者」検知と操舵回避支援機能を追加した前方対応・後方対応

ミリ波レーダーとステレオカメラによる「歩行者」の検知イメージ



ミリ波レーダーで進路上の車両や障害物を検知して衝突被害軽減に寄与する「プリクラッシュセーフティシステム」は、2003年2月に世界で初めて商品化した後も、着実に進化を続けています。最新のシステムでは、新型ミリ波レーダーと新開発のステレオカメラの採用で「歩行者」の検知を実現するとともに、ドライバーの危険回避操作を支援します。さらに、後方専用ミリ波レーダーで車両を検知、その車両に注意を喚起する後方対応機能を追加し、事故をできる限り未然に防ぐことを目指しています。

#### ■ 衝突安全(パッシブセーフティ)関連技術の例: 「GOA」ボディ (GOA: Global Outstanding Assessment 世界トップレベルの安全性能)

カーツーカー 前面衝突試験



GOAは、「衝撃吸収ボディ」と「高強度キャビン」があいまって乗員の生存空間を確保し、同一排気量クラスで世界トップレベルの乗員保護性能を追求した衝突安全ボディです。

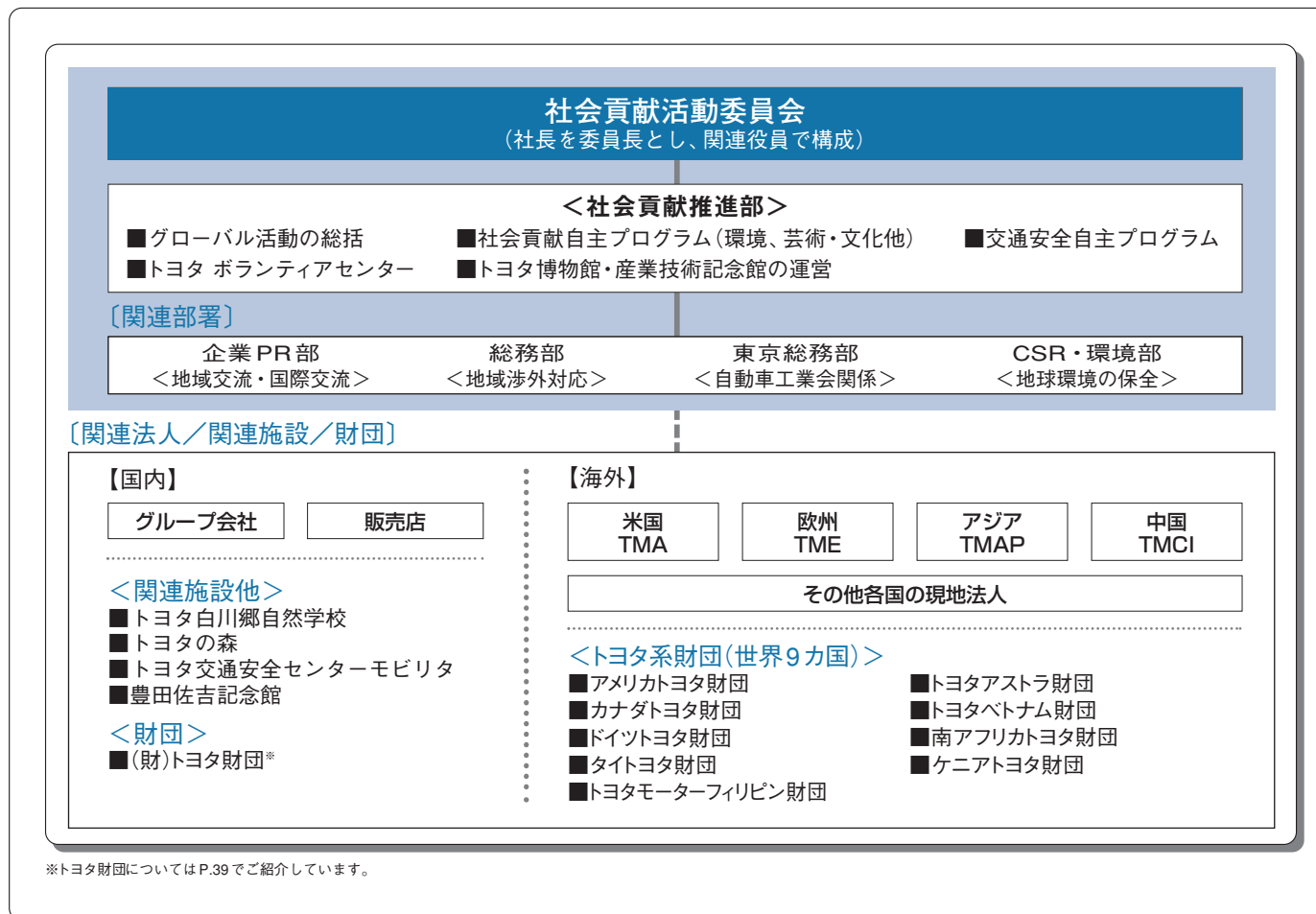
このGOAは1995年12月、当時トヨタのラインアップでは最も小さなスターレットから採用を開始し、現在までにほぼ全ての乗用車(含むSUV)に展開を済ませました。そして、クラス世界トップレベルを維持するために試験条件・性能目標を常に進化させています。現在は、車対車の衝突速度を55km/hに設定した、車両全方位のカーツーカー衝突試験に対応したボディを展開しています。

トヨタは、「社会から信頼される良き企業市民」を目指し、豊かな社会づくりとその持続的な発展のため、グローバルに社会貢献活動を推進しています。1989年に、社長を委員長とし、関係役員により構成する「社会貢献活動委員会」を活動の最高意思決定機関として設置し、2006年1月には、活動の一層の強化を目的に、これまで社内に分散していた機能を集約し、全社の社会貢献活動を統括する「社会貢献推進部」を発足しました。「環境」「交通安全」「人材育成」の3分野をグローバル重点3分野として、社員のボランティア活動支援にも力を注ぎながら、社会ニーズに応じ、トヨタの持つ技術やノウハウ・リソースを活用し、積極的に活動を進めています。

## ■基本的な考え方

社会貢献活動理念	
目的	トヨタ自動車株式会社と関連子会社(以下トヨタ)は、豊かな社会の実現と、その持続的な発展のため、積極的に社会貢献活動を推進します。
取り組み姿勢	トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、持てる資源を有効に活用しながら、次の世代を担う人材の育成と社会的課題の解決に向けた社会貢献活動に取り組みます。
社員のインボルブメント	トヨタは、社員が一市民として主体的に行う社会貢献活動を支援します。
情報開示	トヨタは、社会貢献活動の成果を開示し、広く社会と共有し、社会の発展に寄与することを目指します。
グローバル展開	トヨタは、社会貢献活動基本方針をグローバルに共有し、各国・各地域の実状に合わせた社会貢献活動を展開します。

## ■推進体制



【環境】

地球と社会の持続可能な発展に向けて、環境教育、環境活動助成、環境緑化等を積極的に推進。

<国内>

■トヨタの森

1996年より、緑による環境の改善を狙いとする「トヨタの森」計画に取り組んでいます。具体的には、愛知県豊田市郊外のフォレスタヒルズに里山活性化のための実験フィールドとしてモデル林を開設、ここで得られた緑化ノウハウを積極的に公開すると共に、回復した自然環境を活用した、学童向け自然ふれあい体験学習への協力など、様々な環境教育・学習の取り組みを進めています。2006年度末の累計で、約48,000人が来場・視察。



■トヨタ白川郷自然学校

2005年4月、岐阜県白川村に約100名の宿泊研修施設「トヨタ白川郷自然学校」を設立。白川郷の豊かな自然と文化のもと、子供から大人まで多くの方が自然体験型環境教育を通じ、自然環境の保全に取り組んでいます。



<海外>

■中国「砂漠化防止」

深刻な砂漠化が見られる北京近郊の河北省豊寧回族自治区で、植樹造林だけでなく、土地の再砂漠化防止や、間接的緑化の取り組みを行っています。



■マレーシア「トヨタエコユース」

マレーシアのUMWトヨタ自動車が、2001年、本社周辺の高等学校を対象にスタート、節電や排水処理など環境改善プロジェクトの企画・推進のお手伝いを行っています。

■ポーランド「トヨタ・スクールズ・フォー・サステイナブル・デベロップメント」

2003年より、「持続的発展可能なコミュニティ活動プログラム」を現地事業者と連携し、NGOの協力のもと、イギリス、ポーランド、チェコの3カ国で実施しています。小中学校や地域のNGOに呼びかけ、地域の環境問題への理解促進と実体験を通じた環境改善プロジェクトの立案・実行を資金面・ノウハウ面でサポートしています。



【人材育成】

トヨタのモノづくり・人づくりのノウハウを活かし、次世代を担う人材育成をグローバルに支援。

<国内>

■科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー

青少年の理科離れという社会的課題に対して、次代を担う子どもたちを対象に、社員であるトヨタ技術会の有志メンバーが講師を務め、全国の科学館・博物館と連携して開催する科学工作教室です。「電力回生自動車」「二足歩行型ロボット」などのオリジナル工作を通して科学・モノづくりへの興味や夢を育みます。1996年に開始以来、2006年度末で累計223回、約18,500人の児童が受講。



■トヨタ・子どもとアーティストの出会い

子供がアーティストとの出会いを通じて豊かな感性や価値観を育むことを目的に、NPO法人「芸術家と子どもたち」ならびに各地のNPOと連携し、2004年より展開している次世代育成プログラムです。アーティストが学校や児童館、病院を訪れ、総合学習等の時間を活用した子どもたち対象のワークショップを実施しています。2006年度末までに、全国4地域で17回実施、約1900人の児童が参加。



<海外>

■米国「親子教育プログラムへの支援」

トヨタは1991年より、全米教育センター(National Center for Family Literacy)がアメリカ各地で展開しているPACE(Parent and Child Education)プログラムを支援しています。同プログラムでは、識字率の向上に貢献すべく、読み書きができない親と子どもが共に勉強する機会を提供します。開始当時は、就学前児童の親子教育でしたが、1998年からは対象を小学校低学年レベルまで拡大したプログラムを実施。また2002年より、対象を拡大したヒスパニック系の親子への教育も展開しています。



■英国「トヨタ・テクノロジー・チャレンジ」

英国トヨタ(TMUK)は2003年より、同国における科学技術教育を支援するため、11～16歳の生徒を対象に、「トヨタ・テクノロジー・チャレンジ」と名づけたコンテストを開催しています。同コンテストは、「環境に配慮したクルマ作りを楽しもう」趣旨で、英国内において極めて重要な技術教育の分野に若い人々の意識を向かわせることを目的としています。英国中の中・高等学校から注目されてきており、コンテストへの参加校は年々増加しています。





【交通安全啓発活動】

「交通事故死傷者ゼロ」に向けて、人・クルマ・交通環境の三位一体となった総合的な取り組みを推進。中でも人に対する交通安全啓発活動は、1960年代から幅広い層に向けた様々な活動を継続的に実施。

<国内>

■トヨタ ドライバーコミュニケーション

1987年より実施している一般ドライバー向けの安全運転プログラムで、2006年度までに累計約20,500人が受講しています。このプログラムは、運転テクニックの向上を狙うのではなく、「安全運転のレベルアップ」を念頭に、実技形式でクルマの基本操作や車両の挙動、安全装備の効果・正しい使い方を学んでいただく内容です。2005年4月には、本プログラムを定款的に開催する「トヨタ交通安全センターモビリティ」を富士スピードウェイ内に開設し、1年間で約5,500人が受講しました。



■トヨタ交通安全キャンペーン

1969年より、全国交通安全運動に呼応し、全国の車両販売店、L&F店、部品共販店、レンタリース店と共同で「トヨタ交通安全キャンペーン」を毎年春と秋に実施しています。

- 幼児向け交通安全教材の贈呈
- 交通安全チラシの配布、ポスターの掲出



■幼児向け交通安全教材の贈呈

全国の幼稚園・保育園の新入園児と図書館・児童館等を対象に、1969年より交通安全教材を贈呈しています。この教材は、道路への急な飛び出しの危険、道路の正しいわたり方について、ひよこをモチーフにしたキャラクター「クック」を用い、わかり易く説明しています。交通安全絵本の贈呈は、累計で1億冊を超えています。



- 交通安全絵本の贈呈／全国の幼稚園・保育所の新入園児を対象に約265万部(2006年度)
- 交通安全紙芝居の贈呈／全国の幼稚園・保育園及び図書館・児童館を対象に約4.7万部(2006年度)

<海外>

■アジア「ホワイトロードキャンペーン」

タイトヨタは1988年より、子供向け交通安全啓発の一環として、「ホワイトロード」という名称の交通安全キャンペーンを発足。地元で人気なマスコットを活用し、子供達に、親しみやすい形で交通安全を呼びかけています。2004年には、タイの中心地に交通公園を開設。地域の子供達を父兄と伴に招待し、楽しみながら交通安全を学べる施設・プログラムを展開しています。



■トヨタセーフティスクール

地域交通安全活動の一環として1975年より実施している幼児向け交通安全教室で、幼稚園・保育園の園児をトヨタの施設に招き、横断歩道の正しいわたり方などを実技指導する内容で、参加者は累計で21万人を超えています。



■欧州26ヶ国「交通安全」

2004年より欧州26ヶ国の赤十字による子供向け交通安全、救命応急手当教育キャンペーンを支援しています。子供たちの死亡・負傷事故件数の減少を目的とし、これまで約75万人の小学生が、交通安全や事故に遭った時の応急手当について学んでいます。



■交通安全イベント

2006年度より大型商業施設等における交通安全イベントを開始しました。ショッピングやレジャーを目的に来場される大勢のお客様を対象に、様々な交通安全メニューを実体験していただくもので、2006年度は、愛知県を中心に10箇所で開催しました。インストラクターが運転する車両に同乗し、正しい運転姿勢の重要性やシートベルトの効果や体験するコーナーやチャイルドシートの取付け方、クルマの視界を確認するコーナー、また、飲酒運転防止を訴える疑似体験コーナーも設置しました。



■アメリカ「ティーンズドライバー教育」

米国トヨタ自動車販売(TMS)では、2006年より運転免許を取得して日が浅い16~19歳のドライバーとその親を対象とした講義と実技による交通安全教育プログラムを実施。ドライバーは運転中に起こりうる危険や運転技術などを学び、親たちは10代の若者ドライバーの親としての責任や指導の仕方などについて学んでいます。

同プログラムは、カリフォルニアやワシントンDCなど全米8つの大都市で開催され、これまでに計4,000名が参加しています。



【芸術】

「文化の育成」「裾野の拡大」「地域文化の活性化」「自動車文化・モノづくり文化継承」を重点とした活動を展開。

<芸術文化活動>

■トヨタコミュニティコンサート

音楽を通じた地域文化の振興を目的に、トヨタと全国のトヨタ販売会社グループが連携して、1981年より各地のアマチュアオーケストラを支援しています。企画段階から本番当日までオーケストラとトヨタが共同で実施する「市民参加型コンサート」や、生演奏を聴く機会の少ない方々のもとへの「移動・訪問コンサート」、オーケストラの自主公演をトヨタが部分的に支援し生演奏を聴く機会の少ない方々を招待する「招待コンサート」があります。2007年度末までに開催回数1,100回を超え、延べ90万人のお客様が鑑賞。



■トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン

クラシック音楽の普及を目的にウィーンフィルの首席奏者らを中心に特別編成された室内オーケストラによるコンサートを全国各地で開催。名古屋フィルハーモニー交響楽団や日本の若手ソリストなどが共演し音楽交流も図っています。2007年度は、トヨタ創立70周年記念イベントとして全国5都市6公演を行い、同時に次代を担う青少年の育成を目的とした特別プログラム(公開リハーサルや訪問コンサートなど)を実施。2000年より過去5回・41公演を開催し、約8万人のお客様が鑑賞。



■トヨタコレオグラフィアワード

芸術文化支援活動の一環として、日本では評価の定まらない舞踊業界の底上げと環境整備・活性化を目的に、次代を担う振付家の発掘と育成を目指したコンテンポラリーダンスの顕彰事業であり「世田谷パブリックシアター」(東京)と連携して開催しています。年1回、一般公募の中から選考された8名が同シアターで作品を上演し、審査により受賞者(ファイナリスト)を決定。受賞者には作品発表の場の提供やその制作費の一部が賞金として授与されます。2001年より毎年開催、2006年度は186件の応募があり、審査会には約900名のお客様が鑑賞。



■トヨタミュージックライブラリー

「トヨタコミュニティコンサート」で使用したオーケストラ用の楽譜をスクールオーケストラ、市民オーケストラ等、さまざまな市民の皆様にご利用いただくことを目的に1986年に開設。スタンダードナンバーをはじめ交響曲から宗教曲まで250冊を取り扱っており、専用ホームページから取扱楽曲の検索、貸し出し状況の確認並びに予約ができ最長6ヶ月の無料貸出しを実施しています。 <http://www.toyota-music.com/>

■ネットTAM

トヨタが(社)企業メセナ協議会と連携して運営するアートマネジメントに関する総合情報サイトです。1996年から2004年まで全国各地で開催された「トヨタアートマネジメント講座」のアーカイブのほか、アート関連就職情報を掲載したキャリアバンク等アートマネジメントに関するさまざまな情報を掲載しています。同時に2006年度は「アートマネジメントフォーラム2006」を開催。情報サイトは2004年9月の開設より延アクセス件数60万件。 <http://www.nettam.jp>



<自動車文化・モノづくり文化継承>

■トヨタ博物館

世界中から収集したクラシックカー約140台を常設展示しています。車両はオリジナルを基本とし、動態保存が最大の特徴。学芸員による日頃の調査・研究の成果は年数回の企画展で発表しています。また、年1回のクラシックカー・フェスティバルをはじめ工作教室、試乗会などのさまざまなイベントも開催しています。



- ・完成：平成元年4月
- ・来場者：228,966名(平成18年度実績)
- ・展示内容：19世紀末のガソリン自動車誕生から100年間の歩みを実車によって体系的に展示。
- ・所在地：〒480-1131 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41番100号(TEL 0561-63-5151)
- ・開館時間：9:30~17:00まで(但し、入館は16:30まで) 月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始休館

■産業技術記念館

トヨタグループ発祥の地である旧豊田紡織本社工場跡に残されていた当時の建物を生かして建設。「研究と創造の精神」と「モノづくりの大切さ」を広く社会にお伝えする事を目的に設立した文化施設です。トヨタグループの歴史とともに、繊維機械と自動車技術の変遷を本物の機械の実演や解説映像でわかりやすく紹介しています。



- ・完成：平成6年6月(トヨタグループ13社が共同して設立)
- ・来場者：225,287人(平成18年度実績)
- ・所在地：〒451-0051 名古屋市西区則武新町4-1-35 (TEL 052-551-6115)
- ・開館時間：9:30~17:00(但し、入館は16:30まで) 月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始休館



## 【共生社会】

災害救援や福祉団体への援助、全国の事業所周辺での各種行事の支援、地域とのコミュニケーション等、地域社会との共生を目指し、幅広く活動を実施。

### <国内>

#### ■災害救援活動の支援

国内外の甚大な自然災害に対し、トヨタは現地事業体と連携しながら、赤十字等を通じて義捐金の拠出や車両等の物資支援等を実施しています。海外では2005年10月に発生したパキスタン大地震、2006年5月に発生したジャワ島中部地震に対して義捐金および物資を提供、国内では2005年1月新潟中越地震時に新潟県災害対策本部に対し、ストーブ900台、車両の貸出し等を実施しています。

#### ■ロビーコンサート

東京本社近隣の福祉施設や住民の方約400名を無料招待し、東京本社ビル1Fロビーにて1995年より年に2回(夏・冬)実施。社員ボランティアを中心に地域のご協力を得て手作りのコンサートをこれまで24回開催しています。また、来場の皆様より使用済み切手や書き損じハガキを収集し、当社ボランティアセンターを通じてタイ・ラオスの学費支援や知的ハンディを持つ人の社会啓発、福祉施設の建設維持金に役立っています。



### <海外>

#### ■フィリピン「メディカル・アウトリーチ」

フィリピン・トヨタは、トヨタモーターフィリピン財団を通じて、「メディカル・アウトリーチ」と名づけた年1回の定期医療サービスを、地元の病院や製薬会社の協力を得て、同社の工場が立地するサンタローサ市と、パラナケ市で実施しています。この活動は医療への関心を高める役割を果たし、対象地区での医療サービスの向上に大きく寄与しています。



#### ■チェコ「サイクリングロードの整備」

中・東欧では自動車用道路整備交通網が急速に拡大し、人や自動車が安心して通行できる道路整備が急務となっています。2004年より「トヨタ・ブジョー・シトロエン・オートモービル(TPCA)」では、工場があるコリン市と周辺の村々を結ぶサイクリングロードを整備しています。

また、同社では、地域活性化活動として、観光地の環境整備に向けたプロジェクトへの参画・支援をしており、廃線となっていた狭軌鉄道を復元するプロジェクト等を行っています。

## 【ボランティア】

### <国内>

#### ■トヨタボランティアセンター

従業員とその家族、OB・OGが明るく・楽しく・安心してボランティア活動に参加できるように、またその活動のサポートを目的に、ボランティア活動の事務局として1993年に設置。ボランティア活動への理解を深める機関誌の発行、地域から寄せられるボランティア活動メニューの紹介・自主企画イベント等を行っています。また、全工場・事業所にも同センターの支援窓口を設け、社員のボランティア活動の支援をしながら、地域との関わりを深めています。

更に、自然災害発生時に被災者・被災地の自立復興支援をボランティア活動としてタイムリーに行うことを目的に、「トヨタグループ災害Vネット」を2003年に発足。トヨタ関連企業14社(2006年9月現在)で構成し、定期的な研修などを行っています。



### <海外>

#### ■中国「植林ボランティア」

2006年に社会貢献推進部、バイオ・緑化事業部、TMCI\*が協力し、日・中トヨタ従業員合同参加の植林ボランティアツアーを企画。森林伐採や環境汚染などで砂漠化が進む地域に少しでも多くの緑を取り戻すお手伝いを、と集まったボランティアは20名。現地事業体ボランティアと一緒に植林活動を行いました。今後も継続的に支援をしていく予定です。



\*トヨタ自動車(中国)投資有限公司

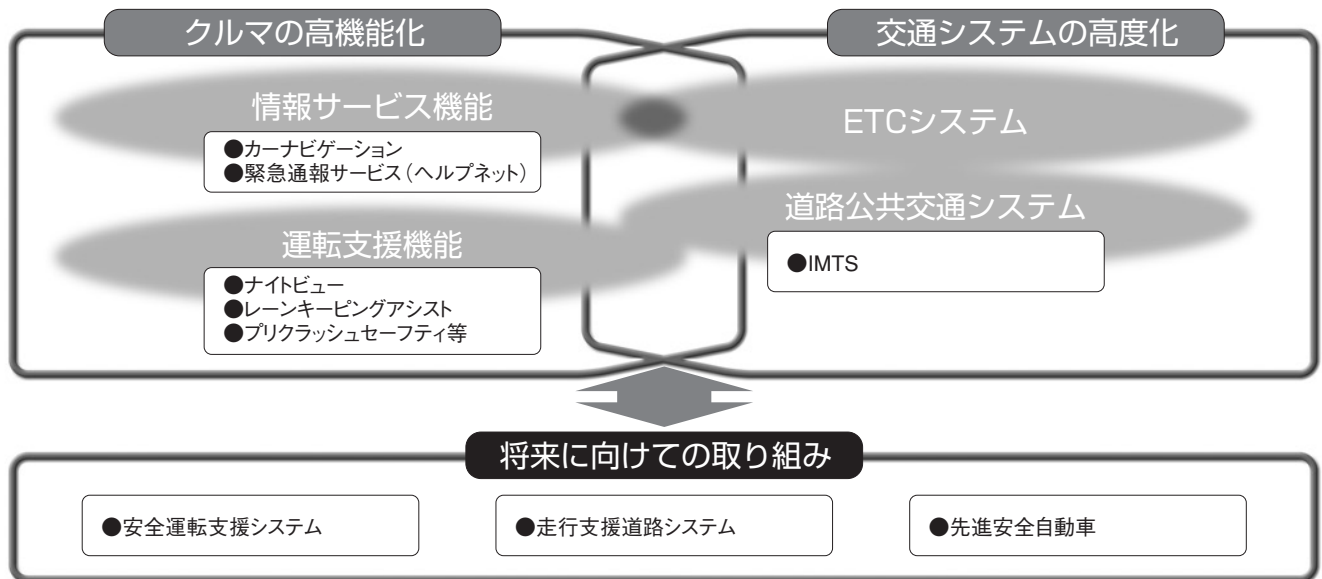
## 【関連団体】

#### ■トヨタ財団

トヨタ自動車が、人間のより一層の幸せを目指し、将来の福祉社会の発展に資することを期して設立した助成財団。世界的視野にたち、長期的かつ幅広く社会活動に寄与するため、生活・自然環境、社会福祉、教育文化等の多領域にわたり、研究並びに事業を助成。

注)トヨタ財団概要はP.50「関内文化施設等」をご参照下さい。

トヨタは、クルマ自体の魅力とクルマを利用することのうれしさを高める「クルマの高機能化」と、人・モノの移動の円滑化・効率化や安全な交通環境を総合的に実現していく「交通システムの高度化」に幅広く取り組んでいます。

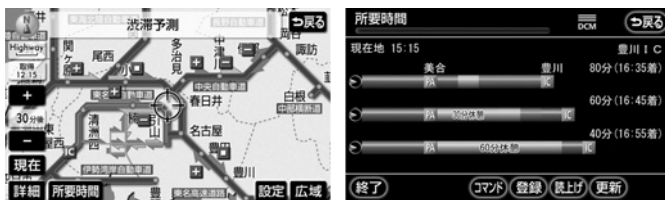


## クルマの高機能化

情報サービス機能・運転支援機能

### カーナビゲーション

トヨタは、従来よりカーナビゲーションの高度化を進めており、VICSが1996年にサービス開始された当初から対応車載器を提供しています。2005年からはこれらVICSによる最新の交通情報に加え、過去の統計データから総合的に今後の道路状況を予測し、渋滞を回避したルートを案内したり、予測渋滞情報を画面に表示する機能を実用化しました。



渋滞予測

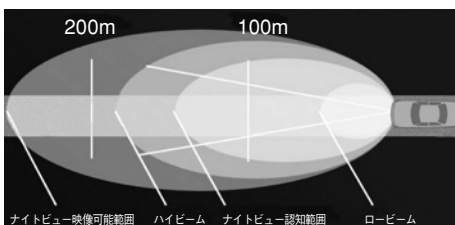
所要時間予測

### ナイトビュー

夜間走行時のドライバーの視覚をサポートするシステムです。ヘッドランプの照射範囲内外の見えにくい歩行者や道路状況などをよりクリアーに表示し、広範囲の視界が得られます。



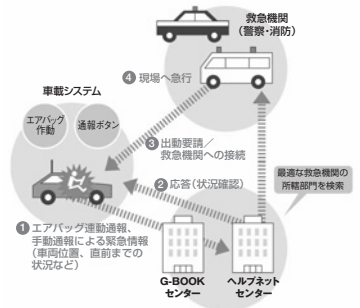
ナイトビュー映像



ナイトビュー映像可能範囲 ハイビーム ナイトビュー認知範囲 ロービーム

### 緊急通報サービス(ヘルプネット)

交通事故や急病発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターを通じ、車の位置や車両の情報等、救急救助活動に必要な情報を迅速に110番/119番等に伝達するシステムです。このサービスに対応する車載器を2000年に他社に先駆けて商品化し、設定車種を順次拡大してきました。さらに2005年には次世代テレマティクスサービス「G-BOOK ALPHA」を商品化し、基本サービスの一つとして、手動通報タイプのほか一部の車両には、エアバック連動の自動通報タイプが標準装備されています。



### レーンキーピングアシスト

高速道路等の運転時に前方道路の白線(黄線)をカメラで認識し、電動パワーステアリングを制御することで、車線に沿った走行をしやすくようにドライバーのステアリング操作を支援します。

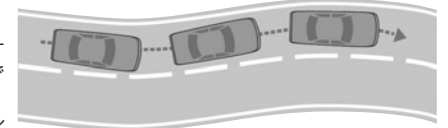
#### ●車線逸脱警報機能

逸脱を予想した場合、ブザーとディスプレイ表示、短時間の小さい操舵力により、ドライバーに注意を喚起するとともに、車線逸脱をしにくくします。



#### ●車線維持支援機能

車線の中央付近を走行しやすいように常に小さい操舵力で支援します。(レーダークルーズコントロール作動中)



注)レーンキーピングアシストは、車線内自動走行を実現したものではありません。必ずドライバー自らがステアリング操作を行ってください。

# 交通システムの高度化

## ETC (Electronic Toll Collection System)

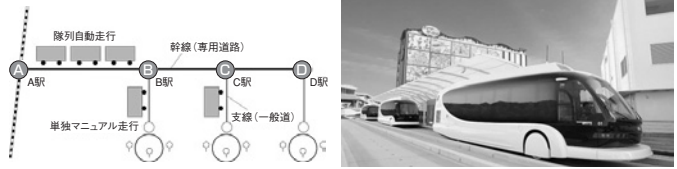
クルマが有料道路の料金所を通過する際、ゲートと車載器の間で通信を行うことにより、ETCカード等で自動的に料金決済を行うシステムです。料金所を通過する際の所要時間の短縮により、料金所付近の交通渋滞が緩和され、排出ガスの低減や省燃費といった効果も期待されます。トヨタはお客様のニーズに合わせた車載器の提供を行うと共に、インフラ側のシステムについても構想段階から参画し、実用化に貢献してきました。また、ETCに使われているETC車載器を活用した駐車場入庫管理等も実用化に向けた開発を行っています。



汎用3ビームタイプETC車載器 インパネ収納型ビルトインタイプETCユニット ミラー一体型タイプETC車載器

## IMTS (Intelligent Multimode Transit System)

鉄道とバスの長所を結合させた新しい中距離・中量輸送システムです。幹線部は専用道路を隊列を組んで自動走行し、一般道路では単独で手動運転することで、都心部から郊外の面的領域を乗り換えることなく直結することが可能となります。また、移動需要の変動に合わせたフレキシブルな運行を実現すると共に、建設費や維持費も大幅に軽減することができます。車両には、CNG\*エンジンやノンステップ低床方式を採用するなど、人と環境に優しい特長も備えています。2005年日本国際博覧会協会「愛・地球博」では会場内の移動手段として、先進デザイン車両のIMTSが運行され、約180万人の方が利用しました。



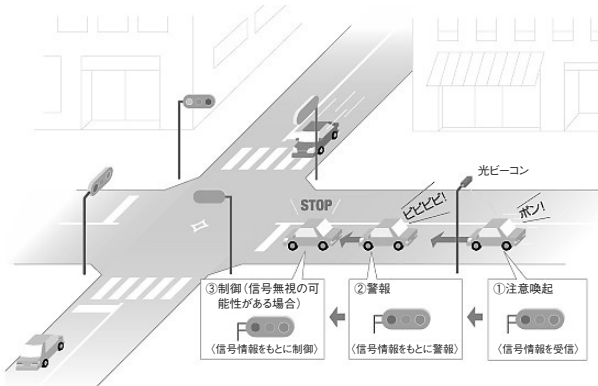
愛・地球博用IMTS隊列走行  
\*CNG: Compressed Natural Gas (圧縮天然ガス)

# 将来に向けての取り組み

## 主な研究・実証実験

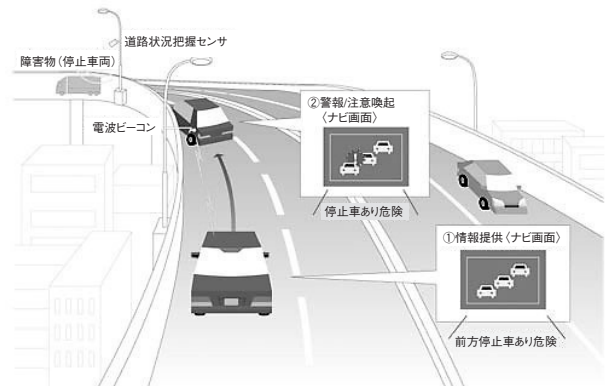
### DSSS (Driving Safety Support Systems) 安全運転支援システム

車両の自律システムでは対応困難な見通し外の事象や交通管制情報(信号・標識等)を、交通インフラから車両に伝達し、ドライバーの安全運転を支援するシステムで、1997年から警察庁を中心に研究開発が進められています。トヨタは2005年からUTMS協会のDSSS作業部会に参画し、システムの研究開発・実験を行っています。



### AHS (Advanced Cruise-Assist Highway Systems) 走行支援道路システム

道路とクルマが連携し、センサや路車間通信などのITSテクノロジーを駆使して交通事故や渋滞の削減を目指すシステムで、1996年設立の技術研究組合にて研究開発が進められています。トヨタでは、研究開発への参加とともに、2005年からのスマートウェイ次世代道路サービス共同研究に参加し、実用化に向けた開発を進めています。



### ASV (Advanced Safety Vehicle) 先進安全自動車

自動車のエレクトロニクス技術により、クルマの安全性を格段に高めるため、1991年から国土交通省を中心に自動車メーカーが連携して推進しているプロジェクトです。トヨタは、ASV技術の商品化を促進するとともに、2005年のASV公開実験に参加し、「情報交換型運転支援システム(車車間通信)」の技術開発を中心に積極的に取り組んでいます。



情報交換型運転支援システムの機能検証実験



# ウェルキャブ

トヨタは「すべての方に快適な移動の自由をご提供する」ことを目指し、自立や介護をサポートする車両の開発・普及に積極的に取り組んでいます。

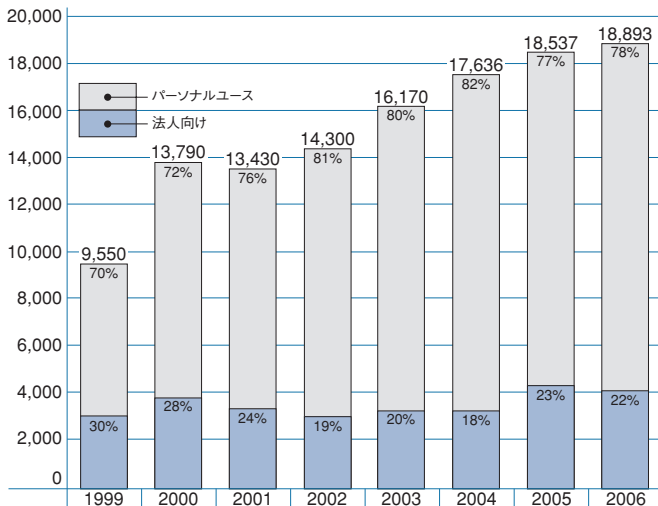
## ■ラインアップ(34車種67タイプ)

フレンドマチック車/ フレンドマチック 取付用専用車	プリウス <sup>①</sup> ② プレミオ <sup>②</sup> アリオン <sup>①</sup> カルディナ <sup>①</sup> ②	カローラ <sup>③</sup> カローラ フィールダー <sup>③</sup> ラウム <sup>④</sup> イスト <sup>④</sup>	ヴィッツ <sup>⑤</sup> シエンタ <sup>③</sup> ⑤ ポルテ <sup>①</sup> ② ラクティス <sup>③</sup> ⑤	
助手席回転 スライドシート車	プリウス <sup>①</sup> ② プレミオ <sup>②</sup> アリオン <sup>①</sup> カローラ <sup>③</sup>	カローラスパシオ <sup>③</sup> カローラ フィールダー <sup>③</sup> イスト <sup>④</sup> ヴィッツ <sup>⑤</sup>	シエンタ <sup>③</sup> ⑤ ラウム <sup>④</sup> ラクティス <sup>③</sup> ⑤	
全自動助手席回転 スライドシート車	プログレ <sup>②</sup> クラウン ロイヤル <sup>①</sup> プレビス <sup>①</sup>			
後席回転スライドシート車	ラウム <sup>④</sup>			
サイドアクセス車	ポルテ <sup>①</sup> ②			
助手席リフト アップシート車	カローラ スパシオ <sup>③</sup> ラウム <sup>④</sup> イスト <sup>④</sup> ヴィッツ <sup>⑤</sup> アルファード <sup>G</sup> ⑥/ <sup>V</sup> ⑦ エスティマ <sup>T</sup> ⑧/⑨	イブサム <sup>②</sup> ⑤ ウィッシュ <sup>⑤</sup> ヴォクシー <sup>⑤</sup> ノア <sup>⑥</sup> シエンタ <sup>③</sup> アイシス <sup>⑧</sup>	ポルテ <sup>①</sup> ② パッソ <sup>③</sup> ラクティス <sup>③</sup> ⑤	
サイドリフト アップシート車	アルファード <sup>G</sup> ⑥/ <sup>V</sup> ⑦ エスティマ <sup>T</sup> ⑧/⑨ ヴォクシー <sup>⑤</sup> アルファードハイブリッド <sup>②</sup> ⑦	ノア <sup>⑥</sup> アイシス <sup>⑧</sup> エスティマハイブリッド <sup>T</sup> ⑧		
車いす仕様車	アルファード <sup>G</sup> ⑥/ <sup>V</sup> ⑦ ハイエース <sup>②</sup> レジアスエース <sup>⑤</sup> ヴォクシー <sup>⑤</sup>	ノア <sup>⑥</sup> タウンエースバン <sup>③</sup> ライトエースバン <sup>⑤</sup> コースター <sup>T</sup>	シエンタ <sup>③</sup> ラクティス <sup>③</sup> ⑤	
後席回転シート仕様	クラウン コンフォート <sup>T</sup> コンフォート <sup>②</sup>			

注) 2007年3月末現在 取り扱い店 ①:トヨタ店 ②:トヨペット店 ③:カローラ店 ④:ネット店 (一部地区で取り扱いが異なる場合がある)

## ■ウェルキャブ販売台数の推移

(単位:台)



## ■ウェルキャブ総合展示場「トヨタハートフルプラザ」来場者数

「トヨタハートフルプラザ」では、常時8台～10台のウェルキャブ車を展示し、「実車を見たい」「使い勝手を確かめたい」といったお客様の要望にお応えするとともに、専任スタッフが一人ひとりのニーズに合わせたカスタマイズなどを含めたコンサルティングを行い、お体の不自由な方、ご高齢の方のモビリティライフ向上に向けた取り組みを進めています。

	来場者数 (オープン～2006年12月)	2006年 来場者数	オープン
札幌	約 7,440人	2,121人	2003年 9月
仙台	約 3,750人	2,703人	2005年 10月
千葉	約 18,880人	1,729人	2001年 7月
千葉中央	約 4,540人	1,470人	2003年 6月
東京	約 50,930人	4,144人	1998年 7月
名古屋	約 22,720人	4,425人	2002年 9月
神戸	約 34,610人	3,898人	1998年 10月
広島	約 6,970人	882人	2000年 10月
福岡	約 19,260人	2,677人	1999年 11月

※ 2007年1月よりハートフルプラザ横浜オープン

## トヨタ ハートフルプラザ

- 札幌 〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒1条7-2-19 ☎011-611-8739
- 仙台 〒981-3125 仙台市泉区みずほ台3-5 ☎022-776-8739
- 千葉 〒261-8585 千葉市美浜区稲毛海岸4-5-1 ☎043-241-1488
- 千葉中央 〒260-0032 千葉市中央区登戸2-2-7 ☎043-302-8111
- 東京 〒168-0081 東京都杉並区宮前1-20-22 モデリスタ東京2階 ☎03-3332-3811
- 横浜 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町33 ウェンズビル2F ☎045-662-9691

- 名古屋 〒452-0932 愛知県清須市朝日弥生1 ☎052-400-8739
- 神戸 〒650-0023 神戸市中央区栄町通7-1-3 ☎078-366-1616
- 広島 〒733-0841 広島市西区井口明神1-16-1  
アルパーク西棟4階トヨタモータリア内 ☎082-501-1222
- 福岡 〒816-0092 福岡市博多区東那珂2-1-55 モデリスタ福岡内 ☎092-477-6187

その他の常設展示場および詳しい情報についてはホームページをご覧ください。 URL) <http://toyota.jp/welcab/> の「常設展示場」へ。

## モータースポーツ

トヨタはモータースポーツ活動を通して、クルマの持つ「楽しさ、夢」を追求し、クルマの限りない可能性を世界中の人々に感じていただきたいと思います。その活動の柱は、F1、米国のNASCAR、そして日本のSUPER GT、フォーミュラ・ニッポンというトップカテゴリーへの参戦です。またトップドライバーの育成、ワンメイクレースの開催、富士スピードウェイの活用などモータースポーツの基盤を支える活動を行っています。

### ■フォーミュラ・ワン世界選手権 (F1)



・2002年シーズンより、「パナソニック・トヨタ・レーシング」として参戦。



・2007年シーズンは、新型F1カー「トヨタTF107」を投入。ドライバーはラルフ・シューマッハー、ヤルノ・トゥルーリの布陣で臨む。

### ■NASCAR



・2004年より、クラフツマン・トラック・シリーズにタンドラで参戦。2006年はマニファクチャラー・ドライバー(トッド・ボダイノ／Germain Racing)の両タイトルを獲得。  
・2007年からは、トヨタ カムリでネクステル・カップ、ブッシュ・シリーズにも参戦。

### ■TDP



・「世界および日本のトップカテゴリーにおいて活躍できるレーシングドライバーの育成」を目的に、才能ある人材を発掘し、継続的なステップアップを支援する育成プログラムとしてTDP(トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム)を実施。将来を期待される若手ドライバー11名が参画(写真はTDPドライバーとして、今季はGP2に参戦、ウィリアムズF1 チームテストドライバーも務める中嶋一貴選手)。

### ■SUPER GT



・日本のモータースポーツのトップカテゴリーに、トヨタテクノクラフト(株)を通じて、参戦チームを支援(写真は2006年 レクサスSC430)。

### ■富士スピードウェイ



・「モータースポーツの振興」「若者への情報発信」「安全運転教育の推進」を3つの柱とした改修を実施し、2005年4月にリニューアルオープン。  
・2007年9月には『どこまでも美しく、いつまでも感動を! F1日本グランプリ in 富士』を基本テーマに「2007 FIA F1世界選手権 フジテレビジョン日本グランプリレース」を開催予定。



GAZOO (ガズー) は、1998年クルマのビジュアル情報ネットワークとして、インターネットを使った情報提供サービスを開始しました。

1999年にはインターネットショッピングモール「ガズー商店街」を開設しEコマースへ進出。

2000年にはマルチメディアキオスク端末「E-TOWER」を開発し、コンビニ等への提供を開始、同年GAZOO事業を強力に推進するために、デジタルメディアサービス(株)を設立します。

2002年には、GAZOOモビリティサービスとして車載端末向け情報サービス「G-BOOK」を開始し、テレマティクス分野に事業を拡大。2005年には新世紀テレマティクス「G-BOOK ALPHA」、レクサス向け「G-Link」のサービスをスタートし、2007年5月にはより進化した新サービス「G-BOOKmX」を開始します。

2004年には、最先端のCRMネットワークシステム「e-CRB」※1をタイで発表し、現在ではタイ、豪州、中国でe-CRBの導入がスタートしています。

今後も、これまで培った技術・情報・ノウハウやインフラを活かし、世界中のお客様とより密接で長期的な信頼関係を構築すべく、グローバルに取り組んでいきます。

※1：evolutionally Customer Relationship Building



インターネットサイト「GAZOO.com」

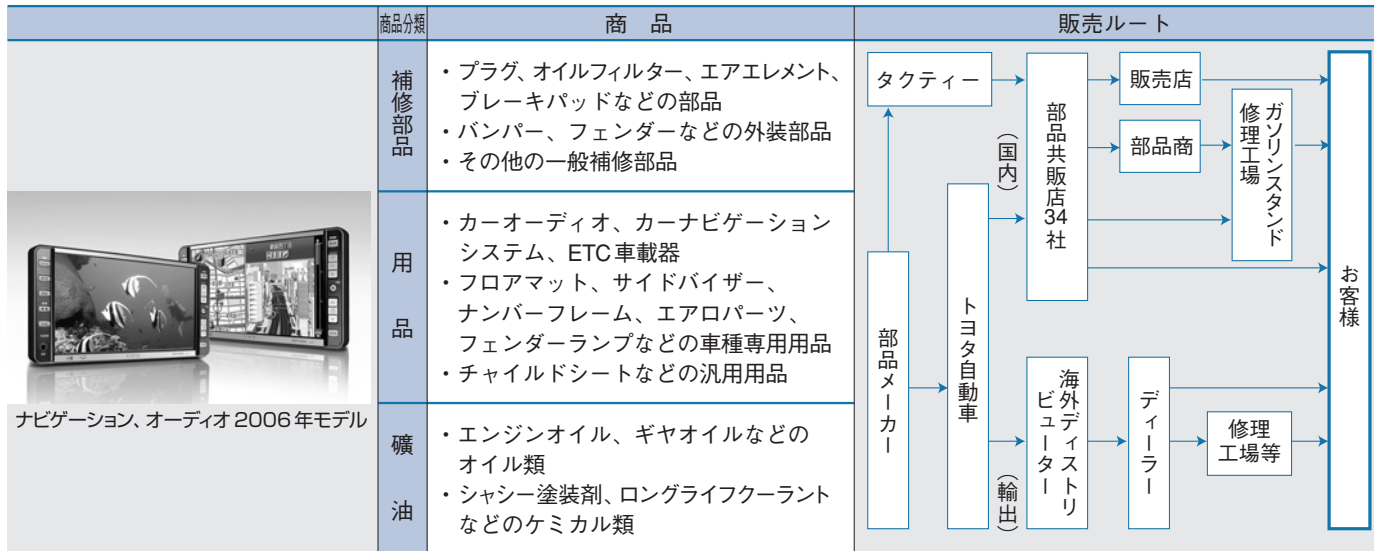


車載端末向け情報サービス「G-BOOKmX」

## 自動車部品

トヨタの部品・用品販売は、修理、整備に必要な補修部品、カーアクセサリ用品、オイル類を中心に販売。また、国内だけでなく海外においてもサービス体制を整え、お客様のニーズに迅速に対応できるようにしています。

### ■事業内容



注) 2007年2月現在。

### ■トヨタ部品・用品販売の推移

(単位：億円)

	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
国内	3,989	3,711	3,630	3,697	3,741	3,623	3,783	4,132	4,305	4,584
海外※	1,867	1,900	1,676	1,577	1,749	1,983	1,882	2,000	2,220	2,531

※日本からの輸出分のみ

### ■トヨタ部品・用品の売上の構成(2006年)

(単位：億円)

	補修部品	用品	礦油	合計
国内	2,373(51.8)	1,916(41.8)	295(6.4)	4,584(100.0)
海外※	2,466(97.4)	65(2.6)	—	2,531(100.0)

注) ( )内は構成比率(%)。

※日本からの輸出分のみ

## トヨタレンタリース

トヨタ自動車をフランチャイザーとしたトヨタレンタリース店 63 社を国内に展開し、2006 年（9 月末時点）のトヨタレンタリースのレンタカー保有台数は、9.3 万台（前年比 107%）、カーリース保有台数は 42.5 万台（同 107%）と、年々着実に拡大しています。

■国内のレンタカー、カーリースの保有台数推移（各年 9 月末時点）

●レンタカー

（単位：台）

	総数	トヨタレンタリース
2006	368,303	93,024
2005	342,129	87,173
2004	314,666	79,675
2003	299,956	75,812
2002	288,075	68,759
2001	287,503	67,952
2000	271,332	62,335
1999	261,100	57,949
1998	255,149	55,393
1997	255,023	54,233

●カーリース

（単位：台）

	総数	トヨタレンタリース
2006	2,790,751	425,356
2005	2,778,993	398,212
2004	2,635,874	366,401
2003	2,499,004	338,989
2002	2,399,571	320,865
2001	2,315,271	307,356
2000	2,229,053	287,509
1999	2,130,293	276,107
1998	2,056,274	266,638
1997	1,930,882	256,957

■レンタカー予約の窓口


**トヨタレンタカー**

**0070-8000-10000**
無料  
 オープン時間 8:00~20:00 (年中無休) ※一部つながらない電話・回線があります。


**ホームページ** [www.toyota.co.jp/rent/](http://www.toyota.co.jp/rent/)  
**トヨタレンタカータイプ** [EZweb・i-mode・Yahoo! ケータイからの予約は <http://rent.toyota.co.jp/>]

## U-Car（中古車）

2006 年の U-Car（中古車）市場〈除軽〉は 501 万台、前年比 96% でした。新車市場と比較すると、U-Car 市場は 14 年連続で新車台数を上回りました。

■2006 年の U-Car 市場（新車と比較）

	台数（除軽）	前年比
U-Car 登録	5,004,863	96.0%
新車登録	3,718,038	94.6%

■トピックス

1) 仕入れ

●トヨタ買取りネットワーク「T-UP」の展開

2000 年 4 月より、お客様のニーズにお応えして幅広いサービスを提供するトヨタ買取りネットワーク「T-UP」を営業しております。電話やインターネットからも無料お試し査定をご利用頂けます。 ※2006 年 12 月末現在 450 店舗。

2) 流通

●トヨタ・オートオークション「TAA」

TAA は CAA（中古車オートオークションの運営）と業務提携を実施したことに伴い、現車会場が CAA と合わせて 10 会場となり、インターネットを活用した相互入札を開始。2007 年 1 月には TAA 広島会場を開設。2006 年は TAA/CAA 合計で 111 万台（前年比 107%）を出品致しました。（業界第 2 位）

3) 小売

●U-Car 検索システム GazooUVIS

店舗やインターネットから毎日更新される約 5 万台の在庫を検索でき、欲しい車を選べる GazooUVIS 導入店舗が拡大中。


●大規模小売店舗「カーロツ」の展開

最大 400 台展示、サービス工場も併設した「カーロツ」。2006 年 12 月末現在、15 店舗で併せて毎月約 20,000 人のお客様に來場して頂いております。（2006 年には新たに 4 店舗オープン致しました）

# 住宅事業

トヨタは1975年から住宅事業への取り組みを開始。以来、「日本の住まいを本気でよくしたい」を企業理念に、丈夫で高品質な家を追求し続けています。現在、戸建住宅では鉄骨ユニット工法、鉄骨軸組工法、スチールハウス工法（SW）の3工法を手がけ、豊富な商品を取りそろえています。2004年1月、営業機能を担うトヨタホーム株式会社が営業を開始。“Sincerely for You”をブランドビジョンに、お客様に生涯にわたりご満足いただけるよう『安全・安心』にこだわった住まいづくりを進めています。

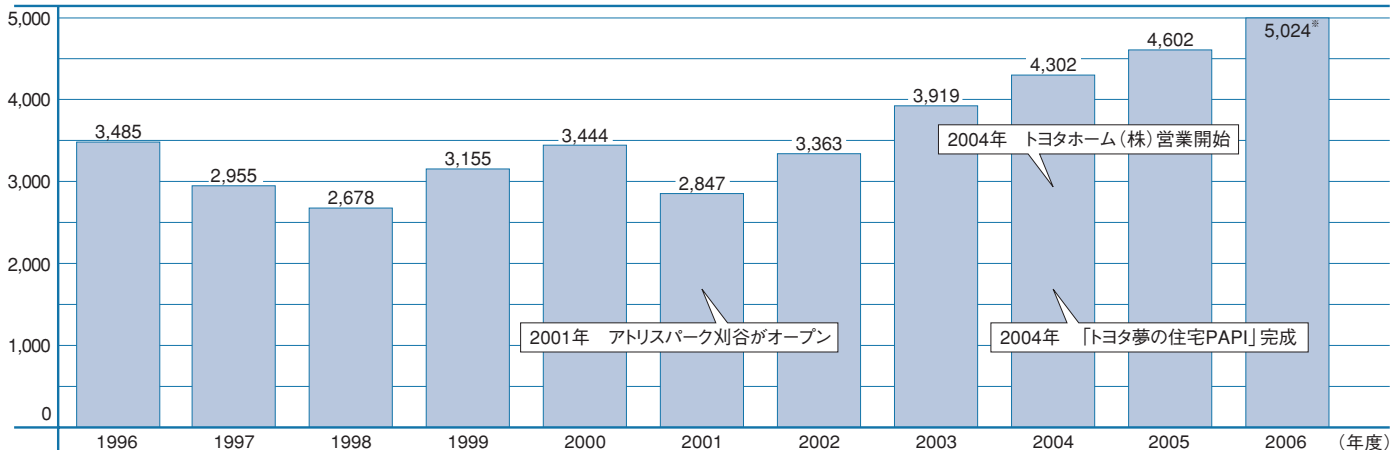
## ■事業内容

	商品分類	商品	販売ルート
	鉄骨ユニット工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シンセ AⅢ</li> <li>●シンセ AⅡ</li> <li>●シンセ・レゾン</li> <li>●シンセ・カーダ</li> <li>●シンセ・アヴェンティノ</li> <li>●シンセ・ヴァイトロワ</li> <li>●シンセ・スマートステージ ミュウ</li> <li>●シンセ・ピアナ</li> </ul>	
	鉄骨軸組工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エスパシオ EF</li> <li>●エスパシオ EF3</li> <li>●エスパシオ GX</li> <li>●エスパシオ EFアーバンウィンド</li> <li>●エスパシオ Mezzo</li> </ul>	
	トヨタSW工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Vie α</li> <li>●Vie α K2</li> </ul>	

注) 2007年1月現在。写真はシンセ・レゾン

## ■トヨタホームの販売戸数の推移

(単位:戸)



注) 2007年1月現在。  
※トヨタ自動車全体の住宅販売戸数(含む子会社)5,800戸

## ■主要事業所

名称	事業内容・生産品目	完成年月	従業員数
春日井事業所	トヨタホームの研究開発及び生産	1987. 4	298人
栃木事業所	トヨタホームの生産	1989. 8	72
山梨事業所	トヨタホームの生産	1991.10	56

注) 2006年3月現在。

## ■街づくり

美しい景観、街ぐるみの安全、自然環境との調和——トヨタは未来につながる街づくりを、中部、関東、関西を中心に全国で展開しています。愛知県岡崎市で進めている住宅団地「リバーサイドヒルズさくら台」は、自然との共生、住民のコミュニケーション確保のために、既存の公園を充実させました。また、監視カメラ、警備員巡回等、きめ細かい配慮で安全・安心な街とし、電線の地中化やまちづくり協定により美しい景観を実現するとともに、環境保護の観点から、エコレンガを積極的に採用、人に優しい街づくりを進めています。



## ■3年連続でグッドデザイン賞を受賞

トヨタホームの「エスパシオ Mezzo」が2006年度グッドデザイン賞を受賞しました。シンプルなボックス型の外観を保ちながら、様々な敷地形状や法規制、そして防犯にも対応するデザインが特徴です。04年度の「シンセ・カーダ」、[MEZZO]2商品と「アトリスパーク」、05年度の「夢の住宅PAPI」に続いて、3年連続での受賞となりました。06年度の「高通風網戸」を含め、トヨタホームの受賞はこれで6件となりました。

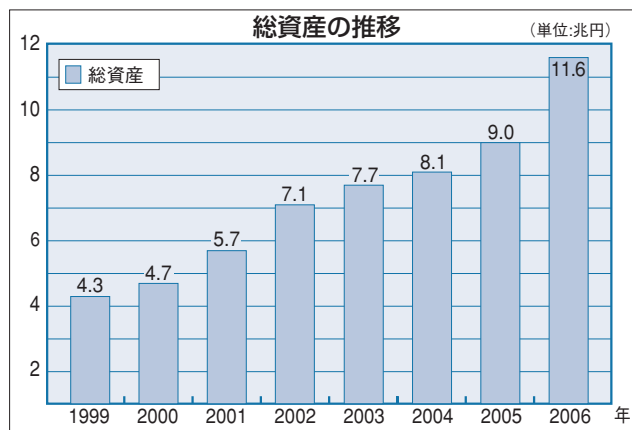


# 金融事業

トヨタは、金融事業の競争力強化と意思決定の迅速化を図るため、内外の金融子会社を傘下におく統括会社トヨタファイナンシャルサービス株式会社(以下TFS)を2000年7月に設立。TFSグループは個人のお客さまを中心に総合的な金融サービスの提供を目指しています。

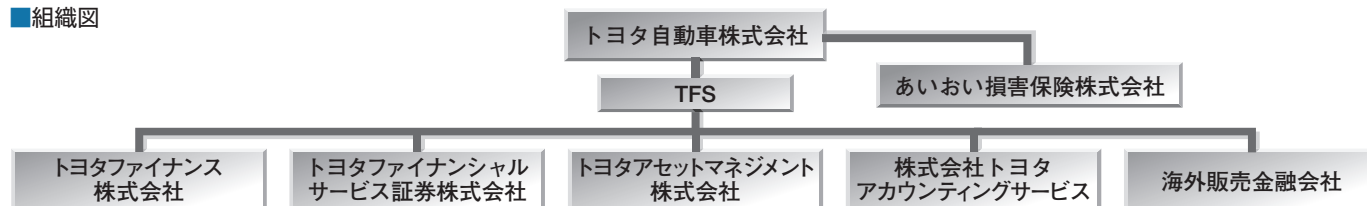
## ■特徴

- TFSグループのミッション  
トヨタのお客さまに健全な金融サービスを提供し、豊かな生活に貢献し、トヨタファンの拡大を目指しています。
- 日本企業で最高の格付け  
スタンダード&プアーズ社、ムーディーズ社より最高ランク格付「AAA」「Aaa」を取得。
- グローバルな販売金融ネットワーク  
トヨタ車市場の90%をカバー。世界32ヶ国・地域におよぶグローバルな販売金融ネットワークを展開し、クレジットカード会員を含め、1,000万人以上のお客さまにサービスをご提供しています。
- お客様の生活に密着した総合金融サービス  
年齢とともに変化するお客さまのニーズに対応し、結婚、出産、進学、自動車や住宅の購入などのあらゆるライフ・イベントをサポートするための商品・サービスをご提供し続けます。



注) 2004年からは米国会計基準。

## ■組織図



## ■グループ会社案内

会社名	設立	資本金(単位:億円)	従業員数
トヨタファイナンシャルサービス株式会社	2000年7月	785.2	65
トヨタファイナンス株式会社	1988年11月	165	1,439
トヨタファイナンシャルサービス証券株式会社	2000年7月	75	138
トヨタアセットマネジメント株式会社	1990年2月	6	45
株式会社トヨタアカウンティングサービス	1999年7月	1	54
あいおい損害保険株式会社	1918年6月	1,000	8,684

注) 2006年3月現在。

## ■主なグローバルネットワーク

国/地域	会社名	設立※2	従業員数	
アメリカ	U.S.A.	Toyota Motor Credit Corporation (TMCC)	1982年10月	2,940 <sup>*1</sup>
	カナダ	Toyota Credit Canada Inc. (TCCI)	1990年2月	114
	ブラジル	Banco Toyota do Brasil S.A. (BTB)	1999年1月	78
	アルゼンチン	Toyota Compania Financiera de Argentina S.A. (TCFA)	2004年11月	29
	メキシコ	Toyota Financial Services Mexico S.A. de C.V. (TSM)	2001年10月	55
	ベネズエラ	Toyota Service de Venezuela, C.A. (TSV)	2001年10月	37
ヨーロッパ/アフリカ	イギリス	Toyota Financial Services (U.K.) Plc (TFSUK)	1988年11月	153
	ドイツ	Toyota Kreditbank GmbH/Toyota Leasing GmbH (TKG)	1988年4月	187
	フランス	Toyota France Financement (TFSF)	1997年12月	75
	スウェーデン	Toyota Financial Services Sweden (TFSSW)	2000年3月	20
	ノルウェー	Toyota Financial Services Norway (TFNS)	1997年7月	23
	イタリア	Toyota Financial Services Italy (TFSI)	1997年7月	85
	チェコ	Toyota Financial Services Czech s.r.o (TFSCZ)	2000年5月	17
	南アフリカ	Toyota Financial Services South Africa (Pty) Ltd. (TFSSA)	2000年4月	62
	フィンランド	Toyota Finance Finland Oy (TFF)	1995年8月	25
	ポーランド	Toyota Bank Polska S. A. (TBP)	2000年3月	38
	デンマーク	Toyota Financial Services Denmark A/S (TFSDK)	2002年3月	7
アジア/オセアニア	ハンガリー	Toyota Financial Services Hungary Rt. (TFSH)	2002年7月	10
	スペイン	Toyota Financial Services Espana (TFSES)	2003年4月	30
	オーストラリア	Toyota Finance Australia Ltd. (TFA)	1982年6月	341
	ニュージーランド	Toyota Finance New Zealand Ltd. (TFNZ)	1989年7月	55
	タイ	Toyota Leasing (Thailand) Co., Ltd. (TLT)	1993年10月	581
	マレーシア	UMW Toyota Capital Sdn. Bhd. (UMWTC)	2001年12月	127
	フィリピン	Toyota Financial Services Philippines Corporation (TFSPH)	2002年8月	63
	中国	Toyota Motor Finance (China) Company Limited (TMFCN)	2005年1月	68

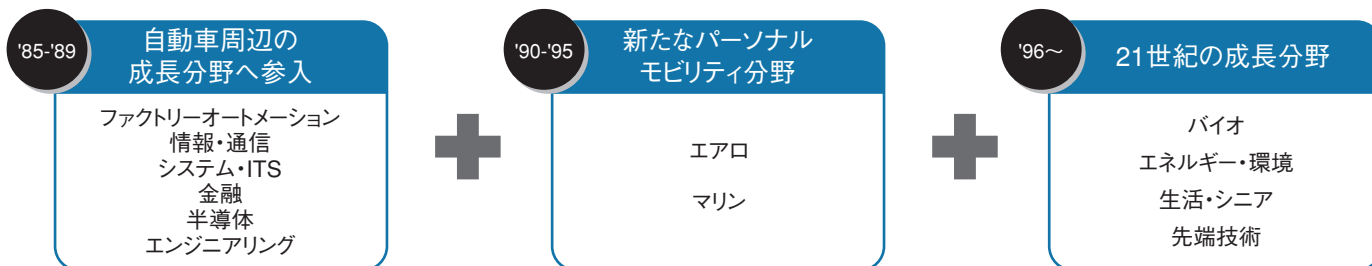
注) 2006年3月現在。 ※1 プエルトリコを含む。 ※2 一部会社については出資時期。



## 新規事業

クルマに次ぐ第二事業として、また、社会に豊かな生活を提供できる企業となるために、トヨタは様々な事業展開を推進してきました。これまでのトヨタの新規事業への取り組みは3つのフェーズに分けることができます。第1期は、1985年から1989年の「90年代プロジェクト」にあたります。●ファクトリーオートメーション(トヨタL&F) ●情報・通信 (KDDIなど) ●システム・ITS ●金融 ●半導体 ●エンジニアリング と、「自動車周辺の成長分野」へ参入しました。1989年には、事業開発部を設け、第2期となる1990年から1995年は、「新たなパーソナルモビリティ分野」に取り組み、●エアロ ●マリン分野に参入しました。現在は3期目にあたり、●バイオ ●エネルギー・環境 ●生活・シニア ●先端技術分野といった、「21世紀の成長分野」へと、更なる事業開発の拡大を進めています。

### ●新規事業への取り組み



### ■主な新規事業会社の概要

会社名	事業概要	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金
オーストラリアン アフォレストेशन(株)	○紙パルプ用樹木の植林事業 ○豪州にて三井物産、日本製紙と提携し植林	1998	90	995万AU\$
(株)トヨタフローリテック	○花卉の生産・販売事業 ○多数の遺伝子資源や需要先を抱え、安定した事業基盤を持つハクサン(本社:愛知県日進市)と連携し市場参入 ・トヨタの植物バイオ技術の発展と、バイオ事業の基盤拡大 ・青森県むつ小川原工業地帯のトヨタ社有地(5ha)の有効活用	1999	50	1億円
(株)トヨタ バイオ インドネシア	○サツマイモを原料とした飼料製造 ○食品用途の展開	2001	90	19,312千US\$
トヨターフガーデン(株)	○屋上緑化、壁面緑化、外構緑化の企画・設計・施工 ○チェリーセイジ(環境改善樹木)、省管理型コウライ芝(TM9)など、トヨタ自動車開発の新品種生産・販売	2001	70	5,500万円
(株)トヨタ タービン アンド システム	○ガスタービンエンジン、ガスエンジン、ディーゼル等を利用したコージェネレーションシステム、防災用発電装置等の製造・販売	1998	100	4億9千万円
(株)グッドライフデザイン	○地域の医療機関・介護福祉施設の経営改善と相互連携をサポートする事業 ○患者・地域住民向けに介護支援サービスその他の健康・シニア生活サービスを提供する事業	2002	51	2億6千万円

会社名		事業概要	設立年	トヨタ出資比率(%)	資本金
マリン	蒲郡海洋開発(株) (ラグーナ蒲郡)	○海洋レジャーを主体とした複合マリンリゾート施設「ラグーナ蒲郡」の経営及び土地の分譲	1991	19.9	130億4,700万円
	長崎サンセットマリーナ(株)	○マリーナ事業 ・モーターボート・ヨット等の舟艇保管業務及びメンテナンス業務 ・舟艇及び船舶部品用品等の販売、レンタル ・マリンクラブの運営、マリンライフ事業の経営、各種教室開講 ・マリーナ施設管理受託業務 ・長崎出島ハーバーの運営受託業務	1993	76.9	1億4千万円
エアロ	朝日航洋(株)	○航空機運航、測量・地図情報事業	1955	97.4	31億9,250万円
	エアフライトジャパン(株)	○固定翼操縦士訓練、航空機受託整備、飛行場管理運営、航空撮影、フライングクラブ運営等	1992	75	4億円
新素材	(株)アドマテックス	○酸化セラミックス粉(シリカ、アルミナ、複合酸化物)の製造・販売	1990	53.4	3億520万円
エンジニアリング	サンリツ オートメイション(株)	○工業規格VME、CompactPCIの組込み型ボードPCの開発・販売 ○ETC、ERPの車線サーバシステムを始めとするITS関連製品の開発 ○トヨタ自動車各工場の塗装、組立ラインへ約3,500台の端末コンピュータシステムを納入	1971	30	1億3,260万円
	ラティス・テクノロジー(株)	○超軽量3DフォーマットXVLを利用した3D変換、表示、編集ツール群の開発・販売 ○XVLを利用したネットワーク3Dに関わるソリューション構築	1997	27.9	6億8,875万円
	(株)トヨタケーラム	○CAD/CAM、技術・技能伝承ツールの開発・販売・保守	1993	51	7億円
起業家	(株)カーテックフジ	○トヨタ自動車のブレーキ関係各種業務請負他、車検整備・钣金塗装、新車(ダイハツ)中古車(全メーカー)の販売、タイヤ販売	1996	13.3	2千万円
	(株)メディアクリック	○カーオーディオ&ナビ向け楽曲情報提供サービス ○放送局内業務のデジタル化を推進するシステム構築サポート ○マスメディアの情報を基に関連するECサイトへ消費者を案内するサービスを行うポータルサイト運営	2001	40	1億円

注) 2007年4月現在



# 国内文化施設等

## トヨタ財団

設立	1974.10(昭和49年)	基金規模	350億円
活動内容	トヨタ自動車が、人間のより一層の幸せを目指し、将来の福祉社会の発展に資することを期して設立した助成財団。世界的視野にたち、長期的かつ幅広く社会活動に寄与するため、生活・自然環境、社会福祉、教育文化等の多領域にわたり、研究並びに事業を助成。		
所在地	〒163-0437 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階(TEL 03-3344-1701)		
会長	豊田達郎	理事長	遠山敦子

(注)2007年4月現在

## 豊田工業大学

開学	1981.4(昭和56年)	大学院設置	1984.4(昭和59年)
設置法人	学校法人 トヨタ学園		
理事長	豊田達郎	学長	生嶋 明
建学の精神等	建学の理念は「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」(豊田佐吉遺訓)。広く産業界から実務を経験した社会人を、1993年(平成5年)からは一般学生も受け入れ、設立当初から徹底した少人数の「塾的大学」として、21世紀社会が求める豊かな人間性と創造性あふれる技術者・開発者の育成を目指す。		
所在地	〒468-0034 名古屋市天白区久方2丁目12-1(TEL 052-802-1111)		
設置学部	工学部(入学定員80名)		
設置大学院	大学院工学研究科 修士課程(入学定員24名)／博士後期課程(入学定員12名)		
付置機関	半導体センター、総合情報センター、先端フロンテクノロジー研究センター、超高効率光起電力変換共同研究推進センター、宇宙ロボティクス研究センター、未来情報記録材料共同研究推進センター、ナノ格子新技術開発研究センター、TTI at Chicago(大学院大学)		

(注)2007年4月現在

## 展示館

	<b>トヨタ鞍ヶ池記念館</b>
	完成 1974.9(昭和49年)
	来場者 55,892人(平成18年実績)
	展示内容 豊田喜一郎とその仲間たちの大なる夢、情熱の日々…。創業期の歩みとモノづくりのスピリッツを紹介。
	所在地 〒471-0001 豊田市池田町南250番地(TEL 0565-88-8811)
開館時間 9:30～16:30、月曜休館(祝日の場合は翌日)春期・夏期・年末年始の会社連休も休館	
	<b>トヨタ会館</b>
	完成 1977.11(昭和52年)
	来場者 442,000人(平成18年実績)
	展示内容 「環境」「安全」「ITS」に対する取り組みを中心にトヨタのクルマづくりを分かりやすく紹介。
	所在地 トヨタ自動車(株) 本社地区内(TEL 0565-29-3355)
開館時間 9:30～17:00、原則として日曜日及び春・夏・冬の会社連休日休館	
	<b>アムラックス東京</b>
	完成 1990.9(平成2年)
	来場者 1,672,196人(平成18年実績)
	展示内容 トヨタ車を紹介するショールームとしての機能のほか、トヨタの新技术、環境や安全への取り組みなどを紹介。
	所在地 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-3-5 トヨタ自動車池袋ビル(TEL 03-5391-5900)
開館時間 (2～4F)11:00～19:00、(B1～1F)11:00～21:00、月曜(祝祭日の場合翌日は休館)	
	<b>メガウェーブ</b>
	完成 1999.3(平成11年)
	来場者 5,678,900人(平成18年実績)
	展示内容 3つのテーマ館と3つのドライブコース。クルマのさまざまな楽しさを「見て、乗って、感じる」体験型クルマのテーマ施設。
	所在地 〒135-0064 東京都江東区青海1丁目パレットタウン(TEL 03-3599-0808)
開館時間 11:00～21:00、不定休	

(注)2007年2月現在

# History of TOYOTA

## トヨタの歩み

トヨタ自動車の創業者・豊田喜一郎は1894年(明治27年)に生まれました。自動織機の発明家として歴史に名を残す豊田佐吉の、「研究と創造」の精神を受け継いだ息子の喜一郎は、当時の日本ではまだ未知の分野であった自動車づくりに生涯をかけ、苦心の末、1935年(昭和10年)にA1型試作車を完成。トヨタ自動車の歴史はこうして始まりました。そして、1999年(平成11年)10月、トヨタは、おかげさまで国内生産累計1億台を達成しました。



豊田佐吉



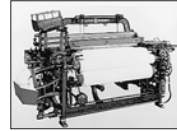
豊田喜一郎

# 1867

慶応3年～

### 事業展開／工場・施設展開

- '867年(慶応3年)
  - 豊田佐吉 誕生
- '890年(明治23年)
  - 豊田佐吉「豊田式木製人力織機」完成
- '894年(明治27年)
  - 豊田喜一郎 誕生
- '924年(大正13年)
  - 豊田佐吉「無停止杼換式 豊田自動織機(G型)」完成
- '29年(昭和4年)
  - 豊田喜一郎 自動車事情視察などのため欧米へ出張
  - 自動織機の特許を英国のプラット社に譲渡
- '30年(昭和5年)
  - 豊田喜一郎 小型ガソリンエンジンの研究を開始
- '33年(昭和8年)
  - (株)豊田自動織機製作所に自動車部を設置
- '35年(昭和10年)
  - 日の出モータース(株) 営業開始 (現・愛知トヨタ(株))
- '36年(昭和11年)
  - トヨタマーク制定
- '37年(昭和12年)
  - トヨタ自動車工業(株) 設立
- '38年(昭和13年)
  - 拳母工場操業開始 (現・本社工場)
  - 「ジャストインタイム」方式 本格的スタート



無停止杼換式 豊田自動織機(G型)



拳母工場



拳母工場生産ライン

# 1940

昭和15年～24年

- '40年(昭和15年)
  - 豊田製鋼(株) 設立 (現・愛知製鋼(株))
  - (財)豊田理化学研究所設立
- '41年(昭和16年)
  - 豊田工機(株) 設立
- '43年(昭和18年)
  - 東海飛行機(株) 創立 (現・アイシン精機(株))
- '45年(昭和20年)
  - トヨタ車体工業(株) 設立 (現・トヨタ車体(株))
- '46年(昭和21年)
  - 関東電気自動車製造(株) 設立 (現・関東自動車工業(株))
- '48年(昭和23年)
  - 日新通商(株) 設立 (現・豊田通商(株))
- '49年(昭和24年)
  - 名古屋ゴム(株) 設立 (現・豊田合成(株))
  - 日本電装(株) 設立 (現・(株)デンソー)

### 新車発表／生産・販売・輸出実績

- '35年(昭和10年)
  - A1型試作乗用車完成
  - G1型トラック完成
- '36年(昭和11年)
  - トヨタAA型乗用車、AB型フェートン、GA型トラック発表
- '38年(昭和13年)
  - GB型トラック生産開始



A1型試作乗用車



G1型トラック

- '41年(昭和16年)
  - AE型乗用車生産開始
- '42年(昭和17年)
  - KB型トラック生産開始
- '43年(昭和18年)
  - AC型乗用車、KC型トラック生産開始
- '47年(昭和22年)
  - BM型トラック、SB型小型トラック、SA型小型乗用車生産開始
- '49年(昭和24年)
  - SD型小型乗用車生産開始



トヨタAA型乗用車



SB型小型トラック



急行列車と競争するSA型小型乗用車

- '36年(昭和11年)
  - トヨタ車(G1型トラック) 初輸出



- '47年(昭和22年)
  - 国内生産累計10万台達成



# 1950

昭和25年～34年

## 事業展開／工場・施設展開

- '50年(昭和25年)
  - 経営危機／労働争議・人員整理
  - トヨタ自動車販売(株)設立
  - 民成紡績(株)設立(現・豊田紡織(株))
- '51年(昭和26年)
  - 創意くふう提案制度発足
- '53年(昭和28年)
  - 東和不動産(株)設立
  - 会社代表標語「よい品よい考」制定
- '54年(昭和29年)
  - 技術本館(テクニカルセンター)完成
- '56年(昭和31年)
  - トヨベツト店営業開始
  - 本社テストコース完成
- '57年(昭和32年)
  - 米国トヨタ自動車販売(株)設立
- '58年(昭和33年)
  - トヨタ・ド・ブラジルS.A.社(ブラジルトヨタ)操業開始
- '59年(昭和34年)
  - 元町工場操業開始



標語制定



米国トヨタ自動車販売



元町工場

# 1960

昭和35年～44年

- '60年(昭和35年)
  - 新本館(現・事務本館)完成
  - (株)豊田中央研究所設立
- '61年(昭和36年)
  - パブリカ店営業開始(現・トヨタカラオラ店)
  - TQCの全社的導入決定
  - 春日工場完成(現・春日センター)
- '62年(昭和37年)
  - 「労使宣言」に調印
  - トヨタ・モーター・タイランド社設立
- '65年(昭和40年)
  - デミング賞実施賞受賞
  - 上郷工場操業開始
- '66年(昭和41年)
  - 高岡工場操業開始
  - 日野自動車工業(株)と業務提携
  - 東富士工場の自動車性能試験場完成
- '67年(昭和42年)
  - トヨタオート店営業開始(現・ネットトヨタ)
  - ダイハツ工業(株)と業務提携
- '68年(昭和43年)
  - 三好工場操業開始



トヨタ本社新本館



労使宣言 調印式



デミング賞実施賞



東富士自動車性能試験場

# 1970

昭和45年～54年

- '70年(昭和45年)
  - 第1回日本品質管理賞受賞
  - 堤工場操業開始
- '73年(昭和48年)
  - 明知工場操業開始
  - キャルティ・デザインリサーチ設立
- '74年(昭和49年)
  - トヨタ鞍ヶ池記念館完成
  - トヨタ財団設立
  - 日進研修センター完成
- '75年(昭和50年)
  - 下山工場操業開始
  - 住宅事業に参入
- '77年(昭和52年)
  - トヨタテクニカルセンターU.S.A設立
  - トヨタ会館完成
- '78年(昭和53年)
  - 衣浦工場操業開始
- '79年(昭和54年)
  - 田原工場操業開始



日本品質管理賞受賞



日進研修センター



田原工場

## 新車発表／生産・販売・輸出実績

- '51年(昭和26年)
  - BX型トラック、BJ型トヨタジープ発表(現・ランドクルーザー)
  - SF型小型乗用車生産開始
- '52年(昭和27年)
  - SG型小型トラック生産開始
- '53年(昭和28年)
  - RH型トヨベツト・スーパー、RK型小型トラック発表
- '54年(昭和29年)
  - SKB型小型トラック発表(現・トヨエース)
- '55年(昭和30年)
  - トヨベツト・クラウン、トヨベツト・マスター、クラウン・デラックス発表
- '56年(昭和31年)
  - RK52型小型トラック発表(現・ダイナ)
- '57年(昭和32年)
  - DA60型ディーゼルトラック、トヨベツト・コロナ発表



トヨベツト・クラウン

- '61年(昭和36年)
  - パブリカ発表
- '63年(昭和38年)
  - RK170B型ライトバス発表(現・コースター)
- '64年(昭和39年)
  - クラウン・エイト、FA100型・DA100型大型トラック発表
- '65年(昭和40年)
  - トヨタスポーツ800発表
- '66年(昭和41年)
  - カラオラ発表
- '67年(昭和42年)
  - トヨタ2000GT、ハイエース、ミニエース発表
- '68年(昭和43年)
  - ハイラックス、カローラスプリンター、コロナマークII発表



パブリカ



カローラ



トヨタ2000GT スピードトライアル

- '70年(昭和45年)
  - カリナ、セリカ、ライトエース発表
- '73年(昭和48年)
  - パブリカスターレット発表
- '76年(昭和51年)
  - タウンエース発表
  - チェイサー発表
- '78年(昭和53年)
  - セリカXX発表(現・スーブラ)
  - ターセル、コルサ発表



セリカ

- '57年(昭和32年)
  - 国産乗用車対米輸出第1号(クラウン)



- '62年(昭和37年)
  - 国内生産累計100万台達成
- '69年(昭和44年)
  - 輸出累計100万台達成
  - 年間国内販売100万台達成



- '72年(昭和47年)
  - 国内生産累計1,000万台達成
- '75年(昭和50年)
  - 輸出累計500万台達成
- '79年(昭和54年)
  - 輸出累計1,000万台達成





# 1980

昭和55年～64年(平成元年)

- '80年(昭和55年)
  - トヨタビスタ店営業開始
- '81年(昭和56年)
  - 豊田工業大学開学
- '82年(昭和57年)
  - トヨタ自動車工業(株)、トヨタ自動車販売(株)合併  
新社名トヨタ自動車(株)
- '84年(昭和59年)
  - 米国でのトヨタ・GM合弁会社(NUMMI)生産開始
  - 士別試験場完成
- '85年(昭和60年)
  - 飛鳥センター完成
- '86年(昭和61年)
  - 貞宝工場操業開始
- '87年(昭和62年)
  - 春日井事業所操業開始
  - トヨタ記念病院完成
  - 欧州テクニカルセンター設立
- '88年(昭和63年)
  - TMM(現・TMMK)生産開始
- '89年(平成元年)
  - 広瀬工場操業開始
  - 栃木事業所操業開始
  - トヨタ博物館完成
  - 米国レクサス店設立
  - 東京デザインセンター設立



工販合併



NUMMI



TMM工場納入式



レクサス店

# 1990

平成2年～11年

- '90年(平成2年)
  - アムラックスオープン
  - TMME設立
- '91年(平成3年)
  - 山梨事業所操業開始
- '92年(平成4年)
  - 「トヨタ基本理念」発表
  - 「トヨタ地球環境憲章」制定
  - TMUK生産開始
  - VW・Audi車販売店舗DUOオープン
  - トヨタ自動車北海道(株)操業開始
  - トヨタ自動車九州(株)操業開始
- '94年(平成6年)
  - 産業技術記念館オープン
- '96年(平成8年)
  - (株)コンボン研究所設立
- '98年(平成10年)
  - トヨタオート店 社名をネットトヨタに変更
  - TMMI/TMMWV操業開始
  - 天津トヨタ自動車エンジン有限会社操業開始
  - トヨタ自動車東北(株)操業開始
- '99年(平成11年)
  - MEGA WEB(メガウェブ)オープン
  - ニューヨーク・ロンドン株式上場
  - トヨタ・キルロスカ・モーター社操業開始



TMUK全景



フランス工場建設発表



天津エンジン工場  
操業開始

# 2000

平成12年～

- '00年(平成12年)
  - 金融統括会社「トヨタファイナンシャルサービス株式会社」設立
  - 四川トヨタ自動車有限会社生産開始
- '01年(平成13年)
  - TMMF生産開始
  - TMMAL設立
- '02年(平成14年)
  - F1参戦
  - TPCA設立
  - TMMP生産開始
  - TMMBC設立
  - TKAP設立
  - 天津トヨタ自動車有限会社生産開始
  - TMIP設立
- '03年(平成15年)
  - 「トヨタホーム(株)」を設立
  - TMMTX設立
  - 一汽トヨタ自動車販売有限会社を設立
- '04年(平成16年)
  - 广汽トヨタエンジン有限会社(GTE)設立
  - トヨタ・一汽(天津)金型有限会社(TFTD)設立
  - 一汽トヨタ(長春)エンジン有限会社(FTCE)設立
  - 廣州トヨタ自動車有限会社(GTMC)設立
- '05年(平成17年)
  - TPCAで「ブジョー107」「トヨタアイゴ」「シトロエンC1」の共同生産を開始
  - TMMR設立
  - レクサス全国で開業
- '06年(平成18年)
  - TEMA設立

- '80年(昭和55年)
  - セリカ・カムリ(現・カムリ)、クレスト発表
- '81年(昭和56年)
  - ソアラ発表
- '82年(昭和57年)
  - ビスタ、カローラII、スプリンターカブリ、マスターエース・サーフ発表
- '84年(昭和59年)
  - ハイラックスサーフ、MR2発表
- '89年(平成元年)
  - デリボーイ、セルシオ発表



ソアラ



セルシオ

- '90年(平成2年)
  - セラ、エスティマ発表
- '91年(平成3年)
  - サイノス、ウインダム、アリスト発表
- '92年(平成4年)
  - セブター、カルディナ発表
- '94年(平成6年)
  - カレン、RAV4L、RAV4J発表
- '95年(平成7年)
  - アパロン、グランビア、トヨタキャバリエ、クラウン・コンフォート発表
- '96年(平成8年)
  - メガクルーザー、イブサム発表
- '97年(平成9年)
  - ハイエースレジアス(現・レジアス)、ラウム、プリウス、ハリアー発表
- '98年(平成10年)
  - プログレ、ガイア、ナディア、デュエット、アルテッツァ発表
- '99年(平成11年)
  - ヴィッツ、キャミ、ブラッツ、ファンカーゴ、MR-S発表



プリウス



ヴィッツ

- '00年(平成12年)
  - WILL Vi、bB、プロナード、オーバ、スーパーキー、クルーガーV発表
- '01年(平成13年)
  - アレックス、アリオン、ヴォクシー、WILL VS、プレビス、ヴェロッサ発表
- '02年(平成14年)
  - イスト、アルファード、プロボックス、サクシード、ヴォルツ、WILLサイファ発表
  - 「トヨタFCHV」限定販売
- '03年(平成15年)
  - ウィッシュ、シエンタ、アベンシス発表
- '04年(平成16年)
  - パッソ、ボルテ、アイシス、マークX発表
- '05年(平成17年)
  - ラクティス、ベルタ発表
  - GS430、SC430、IS350/250発表
  - ハリアーハイブリッド、クルーガーハイブリッド発表
- '06年(平成18年)
  - ラッシュ発表
  - GS450h、LS460発表
  - カローラアクシオン、オーリス、ブレイド発表

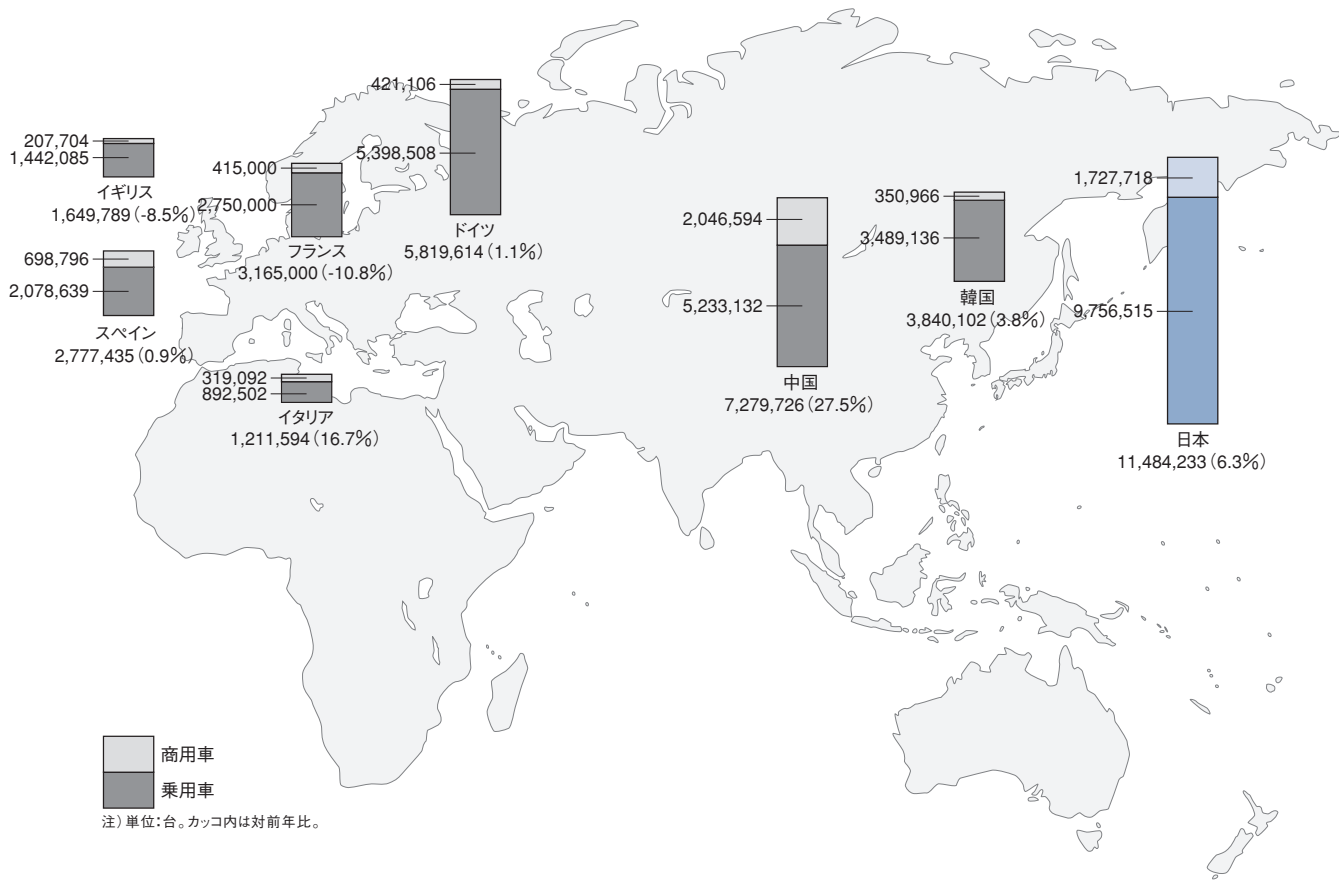
- '85年(昭和60年)
  - 輸出累計2,000万台達成
- '86年(昭和61年)
  - 国内生産累計5,000万台達成
- '88年(昭和63年)
  - 年間国内販売200万台達成



- '94年(平成6年)
  - 年間海外生産100万台達成
- '99年(平成11年)
  - 国内生産累計1億台達成
  - 年間海外販売300万台達成



- '02年(平成14年)
  - 北米生産累計1,000万台達成
  - プリウス販売累計10万台突破
- '05年(平成17年)
  - カムリ販売累計1,000万台突破
- '06年(平成18年)
  - プリウス販売累計50万台突破



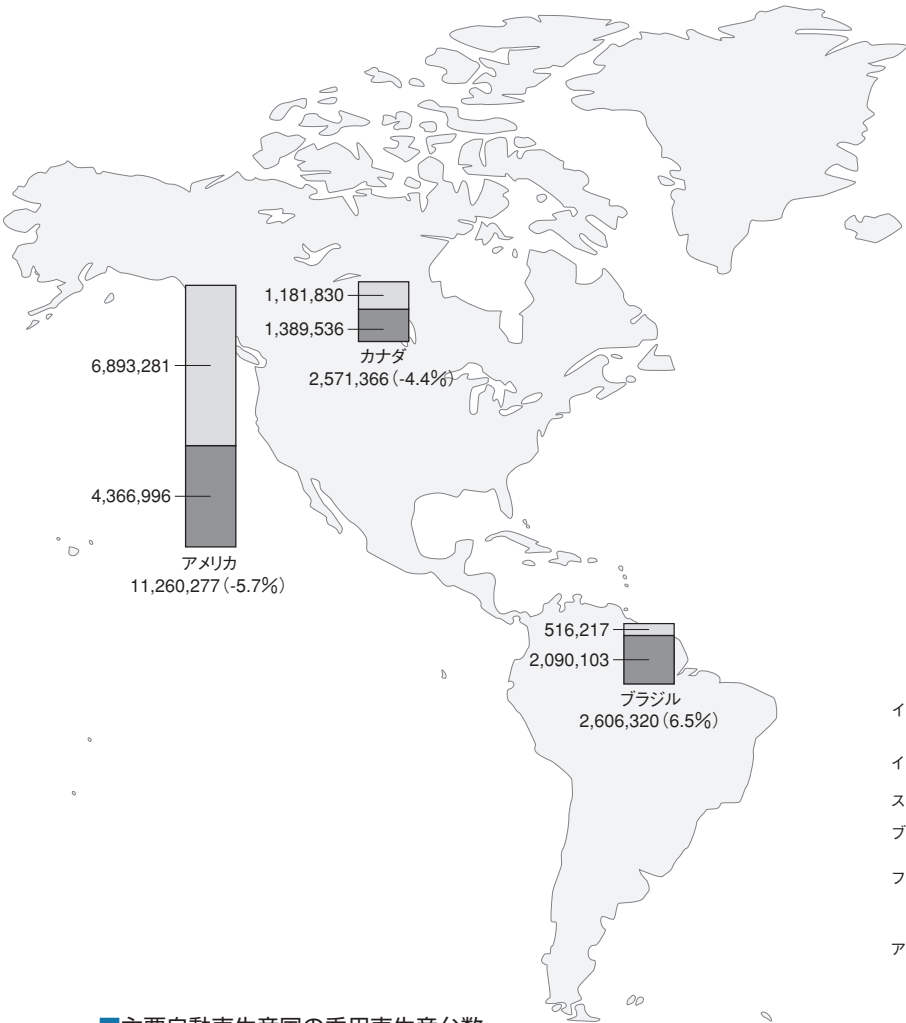
■主要自動車生産国の自動車生産台数

(単位: 千台)

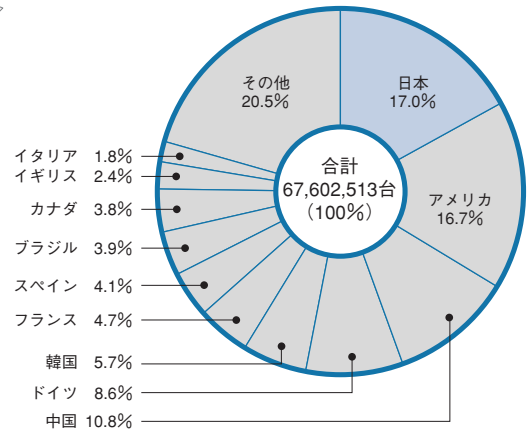


注) 生産台数は2007年3月現在の公表値 (一部推計を含む)。フランスは1998年から生産台数の算出方法を変更 (1997年までさかのぼって修正)。2004年より中国を追加。2006年の「その他」は推計。2006年の自動車生産合計値はVDA (Verband der Automobilindustrie) 推計。

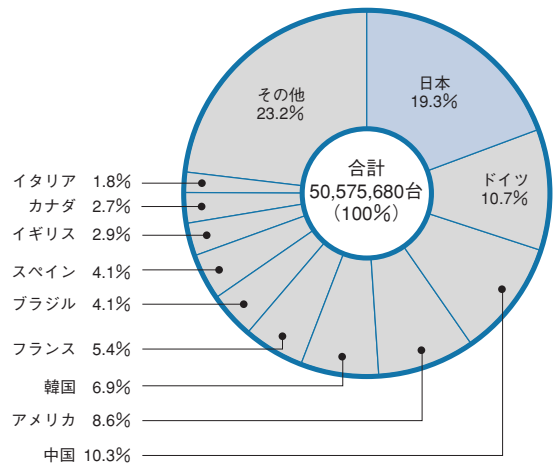
資料: 各国自工会



2006年国別自動車生産（シェア）

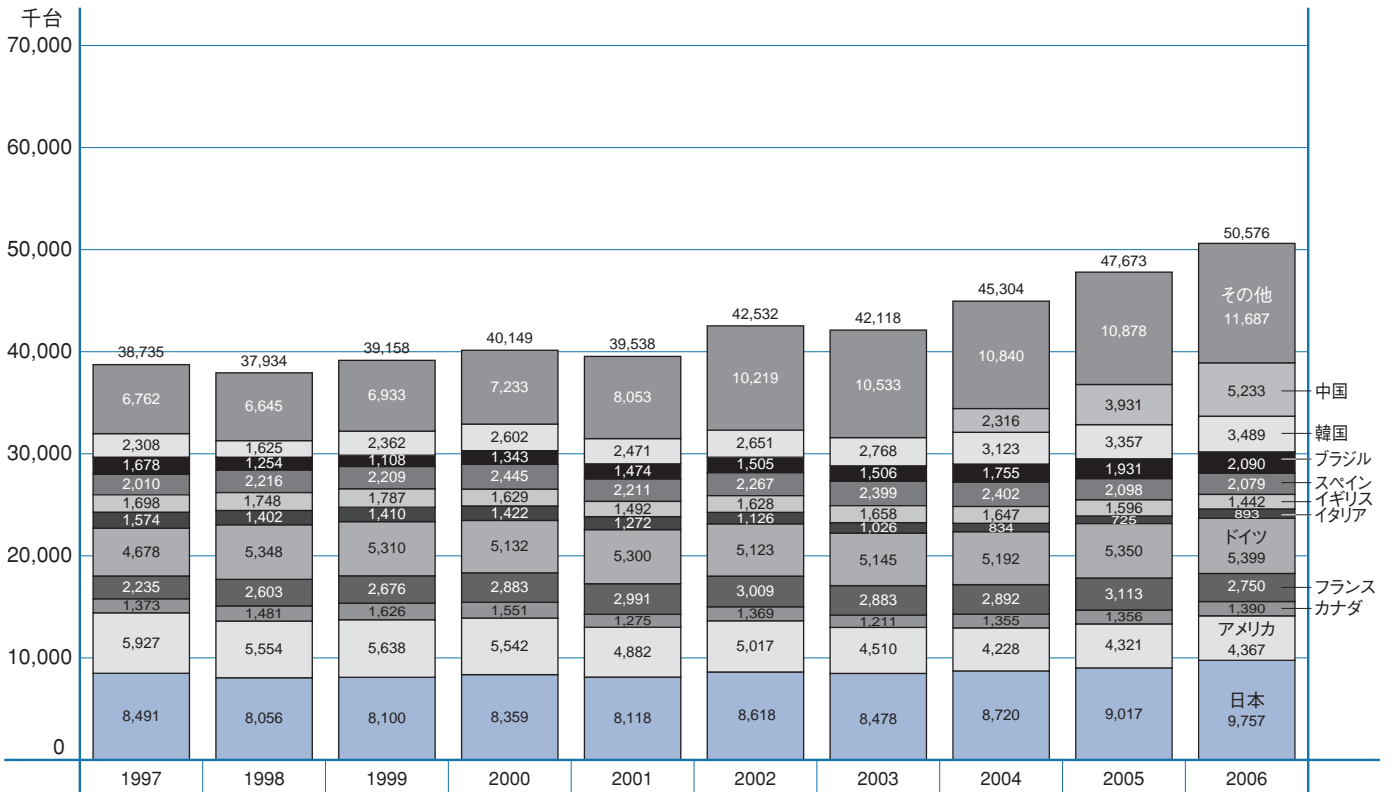


2006年国別乗用車生産（シェア）



■主要自動車生産国の乗用車生産台数

(単位：千台)

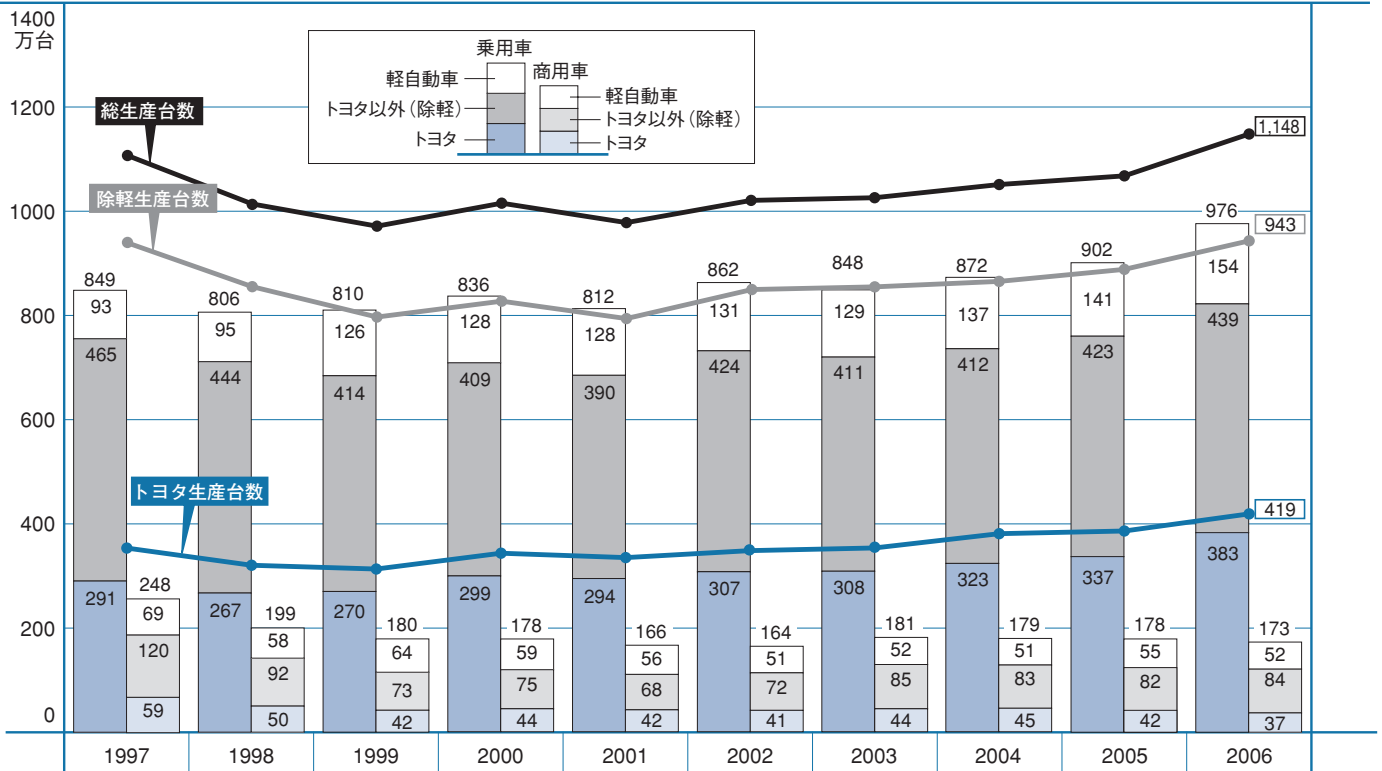


注)生産台数は2007年3月現在の公表値（一部推計を含む）。フランスは1998年から生産台数の算出方法を変更(1997年までさかのぼって修正)。2004年より中国を追加。2006年の「その他」は推計。2006年の乗用車生産合計値はVDA(Verband der Automobilindustrie)推計およびWard'sによる。

資料：各国自工会



国内生産台数の推移



注) 四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料: 日本自動車工業会

メーカー別自動車生産台数(含軽) (2006年)

(単位: 台、%)

会社名	総生産台数			乗用車		
	生産台数	前年比 (%)	シェア (%)	生産台数	前年比 (%)	シェア (%)
<b>トヨタ</b>	<b>4,194,188</b>	<b>110.7</b>	<b>36.5</b>	<b>3,826,819</b>	<b>113.4</b>	<b>39.2</b>
<b>ダイハツ</b>	<b>791,291</b>	<b>109.2</b>	<b>6.9</b>	<b>626,942</b>	<b>116.3</b>	<b>6.4</b>
<b>日野</b>	<b>100,122</b>	<b>103.2</b>	<b>0.9</b>	—	—	—
日産	1,234,400	85.1	10.7	1,020,592	83.6	10.5
ホンダ	1,332,866	105.6	11.6	1,277,099	105.3	13.1
スズキ	1,206,805	110.6	10.5	1,038,296	112.7	10.6
マツダ	966,547	111.7	8.4	906,862	112.5	9.3
三菱	758,478	114.1	6.6	657,344	118.3	6.7
富士重	482,283	102.7	4.2	402,561	104.3	4.1
いすゞ	230,807	109.8	2.0	—	—	—
三菱ふそう	141,503	107.0	1.2	—	—	—
日産ディーゼル	42,833	104.3	0.4	—	—	—
その他	2,110	126.6	0.0	—	—	—
合計	11,484,233	106.3	100.0	9,756,515	108.2	100.0

資料: 日本自動車工業会

日本メーカーの海外生産台数の推移

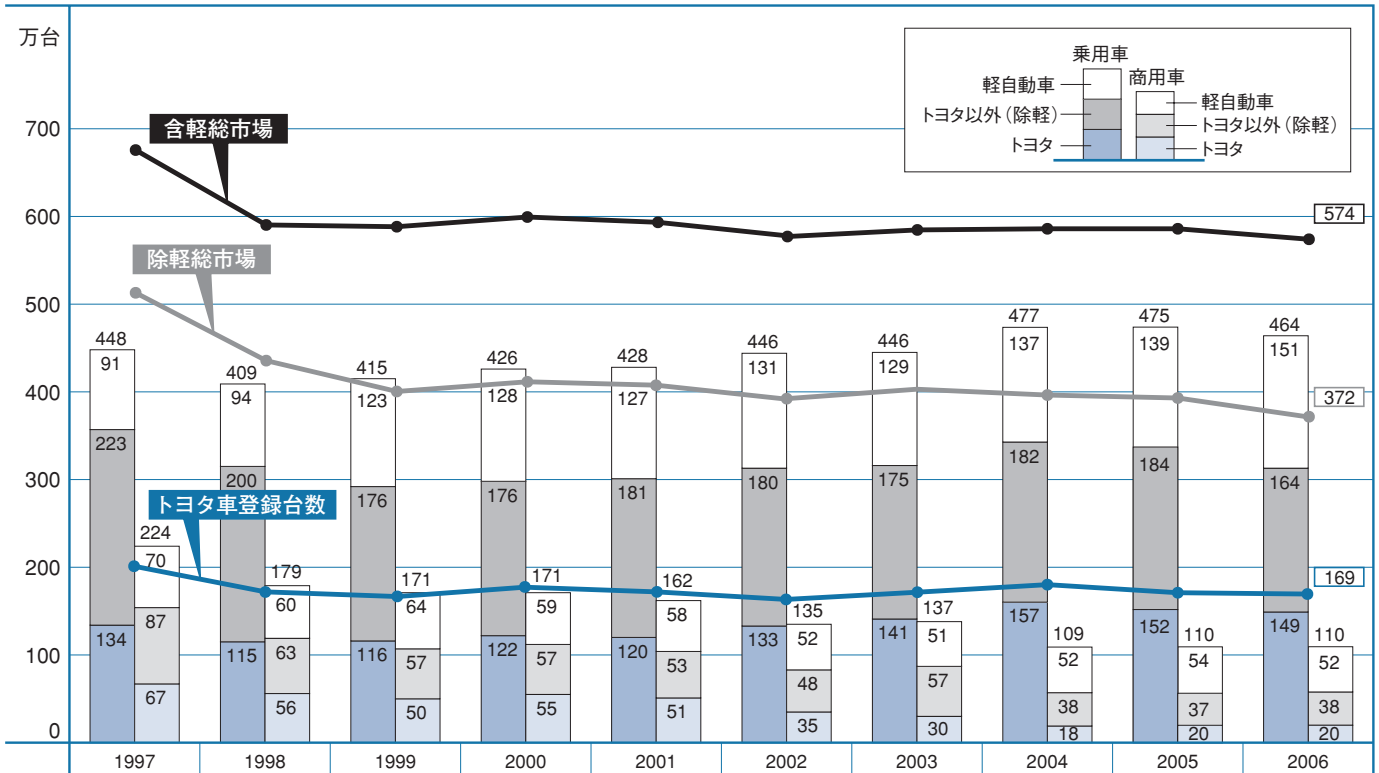
(単位: 千台)

地域	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
北米	2,641	2,665	2,674	2,797	2,992	3,062	3,375	3,487	3,841	4,081
中南米	140	191	260	247	388	408	446	457	535	645
アフリカ	196	182	144	130	146	163	156	163	192	226
ヨーロッパ	738	815	921	929	953	1,038	1,153	1,338	1,455	1,545
アジア	1,951	2,003	1,221	1,551	1,678	1,873	2,387	3,013	3,650	3,974
オセアニア	118	136	151	126	131	137	135	148	126	135
総数	5,784	5,991	5,371	5,780	6,288	6,680	7,652	8,608	9,798	10,606

注) 他ブランド分を除く。中近東をアジアに含む。四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料: 日本自動車工業会

国内登録・届出台数の推移



注) 四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

メーカー別登録・届出台数(2006年)

(単位: 台、%)

会社名	登録台数(除軽)					登録・届出台数(含軽)				
	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)	乗用車	商用車	合計	前年比(%)	シェア(%)
トヨタ※ <sup>1)</sup>	1,490,791	200,686	1,691,477	98.7	45.5	1,490,791	200,686	1,691,477	98.7	29.5
ダイハツ	21,213	-	21,213	168.7	0.6	481,697	140,787	622,484	103.5	10.8
日野	-	53,952	53,952	98.9	1.5	-	53,952	53,952	98.9	0.9
日産	538,897	93,201	632,098	83.2	17.0	648,411	118,352	766,763	88.5	13.4
ホンダ※	414,875	2,781	417,656	89.4	11.2	649,595	52,696	702,291	98.3	12.2
マツダ	175,998	38,500	214,498	91.3	5.8	219,374	49,778	269,152	93.8	4.7
三菱	71,432	7,320	78,752	95.0	2.1	196,002	67,486	263,488	107.9	4.6
富士重	93,042	-	93,042	85.6	2.5	163,910	81,324	245,234	95.0	4.3
いすゞ	36	91,946	91,982	109.2	2.5	36	91,946	91,982	109.2	1.6
スズキ	79,671	-	79,671	103.0	2.1	543,708	147,325	691,033	99.3	12.0
日産ディーゼル	-	19,754	19,754	92.3	0.5	-	19,754	19,754	92.3	0.3
三菱ふそう	-	71,414	71,414	116.7	1.9	-	71,414	71,414	116.7	1.2
輸入車・その他	248,179	2,199	250,378	100.1	6.7	248,208	2,274	250,482	99.9	4.4
	259,562	2,712	262,274	97.8	7.1	259,591	2,787	262,378	97.7	4.6
合計	3,134,134	581,753	3,715,887	94.6	100.0	4,641,732	1,097,774	5,739,506	98.1	100.0

注) ※海外生産車を含む。1) レクサスブランドを含む。

「輸入車」の上段は輸入車から日本メーカーブランドとして登録されたものを除いた数字、下段は含む数字。

資料: 日本自動車工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合

乗用車系登録車両の国内販売台数ベスト10(2006年)

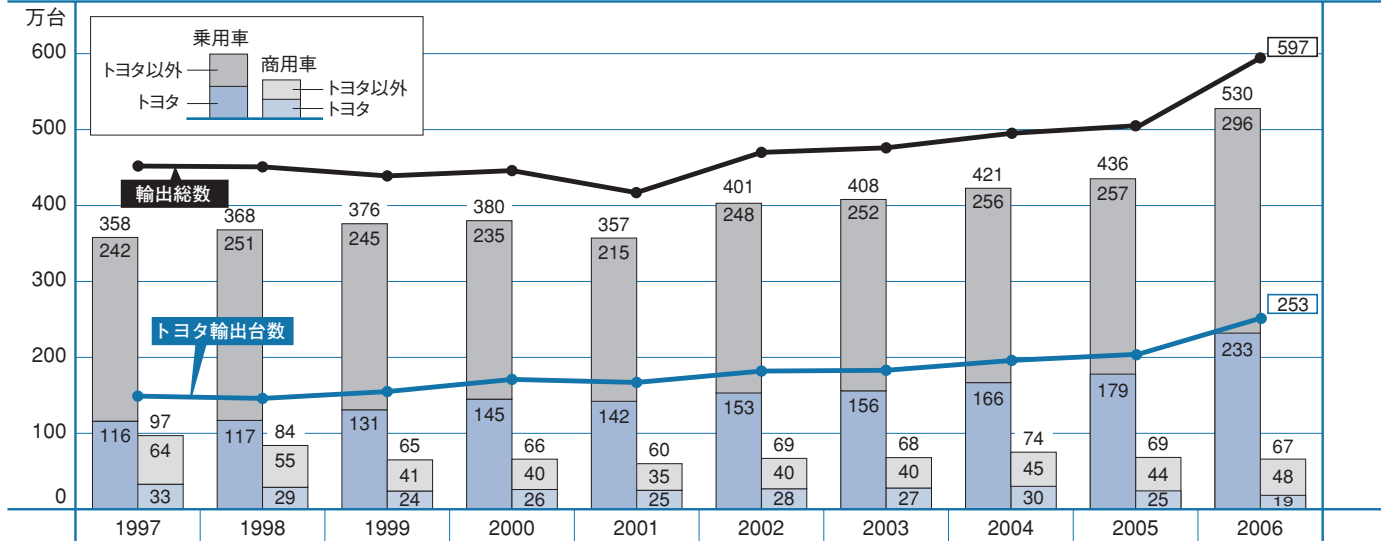
順位	車名	会社名	登録・届出台数	前年比(%)
1	カローラ	トヨタ	143,176	95.6
2	ヴェッツ	トヨタ	117,641	89.2
3	フィット	ホンダ	101,793	80.9
4	エスティマ	トヨタ	95,626	272.4
5	セレナ	日産	80,901	115.6

注) カローラにはカローラスパシオ、カローラランクス、カローラフィールダー、カローラアクシオを含む。輸入車及び軽自動車を除く。

順位	車名	会社名	登録・届出台数	前年比(%)
6	ステップワゴン	ホンダ	78,216	85.3
7	ウィッシュ	トヨタ	78,142	84.9
8	ラクティス	トヨタ	74,975	247.9
9	パッソ	トヨタ	72,099	82.0
10	クラウン	トヨタ	70,833	89.0

資料: 日本自動車販売協会連合会

日本の自動車輸出の推移



注) 四捨五入の結果、内訳の合計は必ずしも総数と一致しない。

資料：日本自動車工業会

日本の自動車輸出相手国ベスト10 (2006年)

(単位：台、%)

順位	相手国	輸出総数		乗用車		商用車	
		輸出台数	前年比	輸出台数	前年比	輸出台数	前年比
1	アメリカ	2,261,552	136.0	2,206,347	135.8	55,205	144.3
2	オーストラリア	387,988	98.8	330,086	97.5	57,902	107.4
3	ロシア	237,888	155.4	235,278	157.2	2,610	76.3
4	カナダ	226,821	118.4	224,998	118.3	1,823	145.8
5	ドイツ	188,260	111.8	187,803	112.3	457	39.3
6	イギリス	174,163	85.1	171,354	87.6	2,809	30.6
7	U.A.E.	142,694	133.8	105,635	132.4	37,059	137.9
8	サウジアラビア	142,619	92.6	95,643	104.1	46,976	75.5
9	イタリア	117,729	119.0	114,891	120.9	2,838	72.5
10	メキシコ	98,614	131.1	81,807	129.5	16,807	139.9

資料：日本自動車工業会

メーカー別自動車輸出台数 (2006年)

(単位：台、%)

会社名	総輸出台数			乗用車		
	輸出台数	前年比	シェア	輸出台数	前年比	シェア
トヨタ	2,529,290	123.8	42.4	2,334,746	130.3	44.1
ダイハツ	134,448	122.4	2.3	116,536	130.2	2.2
日野	48,800	117.2	0.8	—	—	—
日産	646,016	95.4	10.8	508,132	95.2	9.6
マツダ	720,573	118.3	12.1	716,116	118.6	13.5
ホンダ	627,951	120.1	10.5	627,951	120.1	11.9
三菱	406,238	115.2	6.8	390,727	114.9	7.4
スズキ	369,526	133.2	6.2	362,468	136.7	6.8
富士重	238,821	110.7	4.0	238,821	110.7	4.5
いすゞ	142,802	116.3	2.4	—	—	—
三菱ふそう	80,188	132.4	1.3	—	—	—
日産ディーゼル	22,019	111.1	0.4	—	—	—
全メーカー合計	5,966,672	118.1	100.0	5,295,497	121.4	100.0

資料：日本自動車工業会

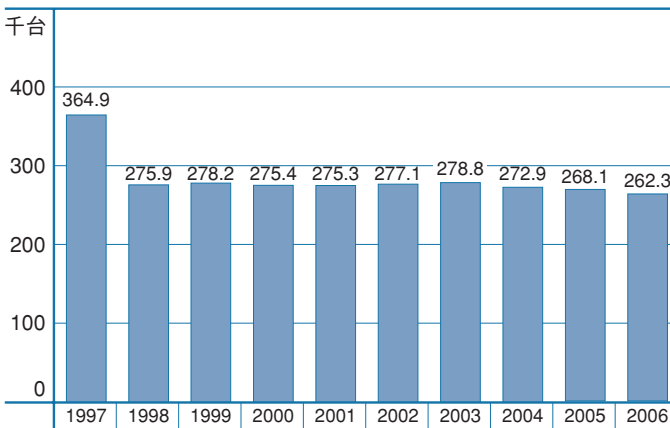
日本の自動車輸出 (2006年)

(単位：台)

輸出台数	地域	北アメリカ	中南米	ヨーロッパ	EU	アフリカ	オセアニア	アジア	中近東
	乗用車		2,431,345	373,072	1,247,256	892,393	178,240	372,635	252,220
商用車		57,028	106,252	58,605	29,444	91,716	69,277	129,341	153,757

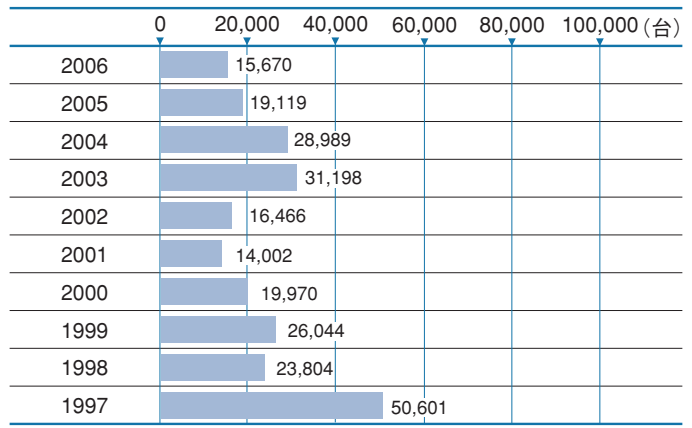
資料：日本自動車工業会

輸入自動車登録台数の推移



資料：日本自動車輸入組合

日本メーカーの海外生産車輸入台数の推移

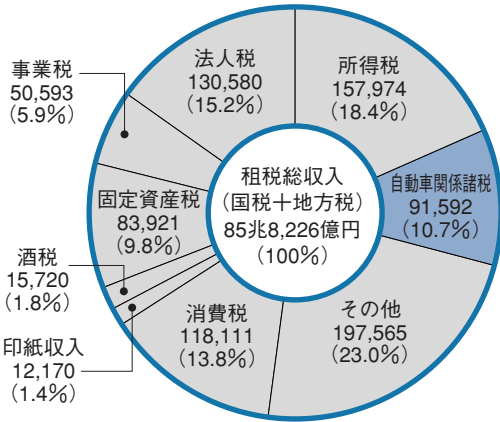


注) 対象メーカーはトヨタ、ホンダ。

資料：日本自動車輸入組合

自動車関係諸税は、1954年の道路特定財源制度導入以降、道路整備の財源として大きな役割を果たしてきました。しかし、これまで増税、新税創設が繰り返された結果、日本の自動車ユーザーは多種多様で国際的にもみても過重な税負担をしています。

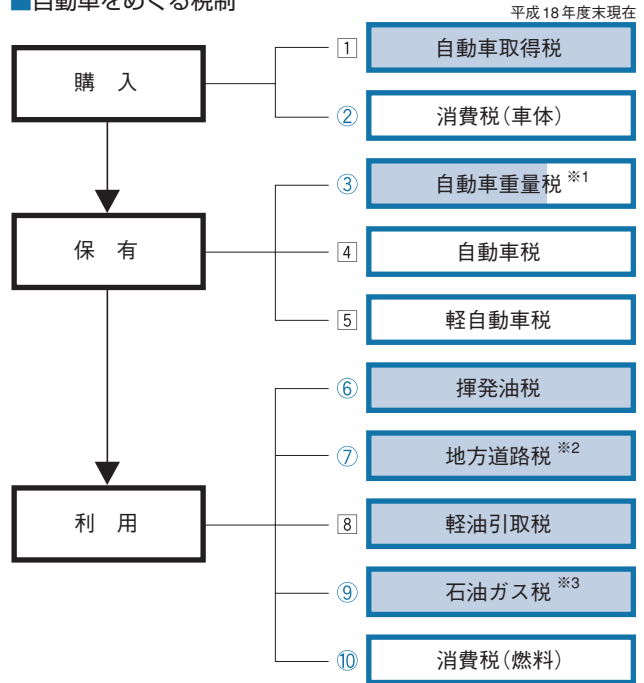
■ 2006年度租税総収入の税目別内訳並びに自動車関係諸税の収収額(当初見積り額)



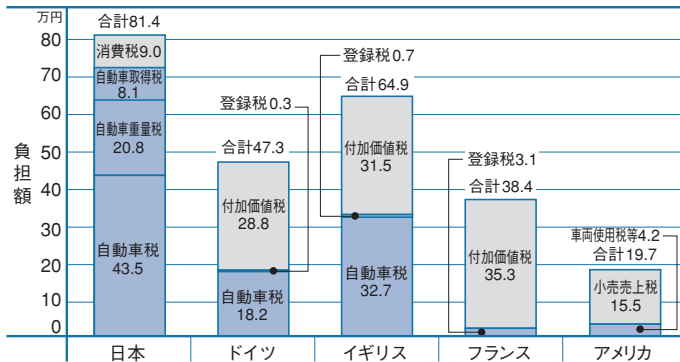
注) 1. 自動車関係諸税の消費税収は自工会推定。  
2. 租税総収入内訳の消費税収は自動車関係諸税に含まれる消費税を除く。  
3. 消費税収には地方消費税収を含む。

資料：財務省、総務省、日本自動車工業会

■ 自動車をめぐる税制



■ 自動車関係諸税(取得・保有段階の車体課税)の国際比較



○ 国税  
□ 地方税  
■ 目的税(道路特定財源)  
□ 普通税(使途の制限なし)

※1. 「自動車重量税」は国税・普通税であるが、収収の1/3(平成15年度から)は地方へ譲与され「自動車重量譲与税」(道路整備特定財源)となり、残りの約8割は道路整備に充当される。  
※2. 「地方道路税」は国税であるが、収収の全額が地方へ譲与され「地方道路譲与税」となる。  
※3. 「石油ガス税」は国税であるが、収収の1/2は地方へ譲与され「石油ガス譲与税」となる。

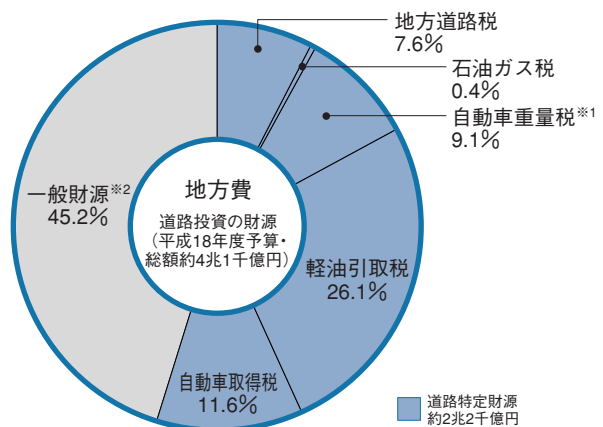
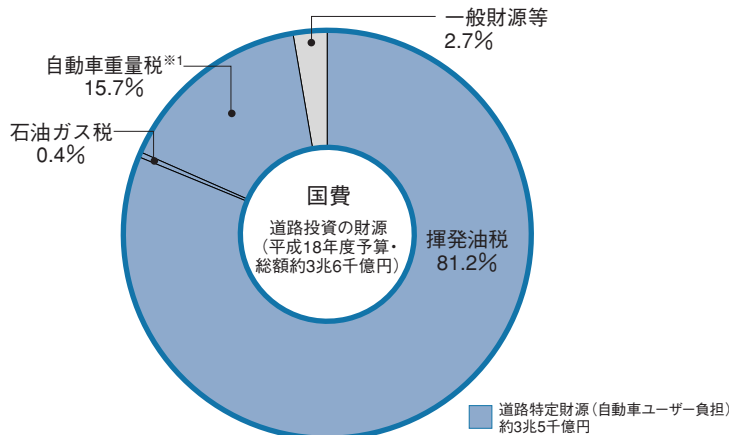
資料：日本自動車工業会

前提条件：(1) 排気量1800cc (2) 車両重量1.5トン未満 (3) 車体価格180万円 (4) 11年間使用(平均寿命) (5) アメリカはニューヨーク市 (6) 為替レートは2005年4月～2006年2月の平均

資料：日本自動車工業会

■ 道路特定財源制度

道路特定財源制度は、受益者負担の考え方を根拠として、自動車ユーザーに対して、道路整備という特定の目的を使い道とすることを前提に、特別の負担を求めている制度のことです。

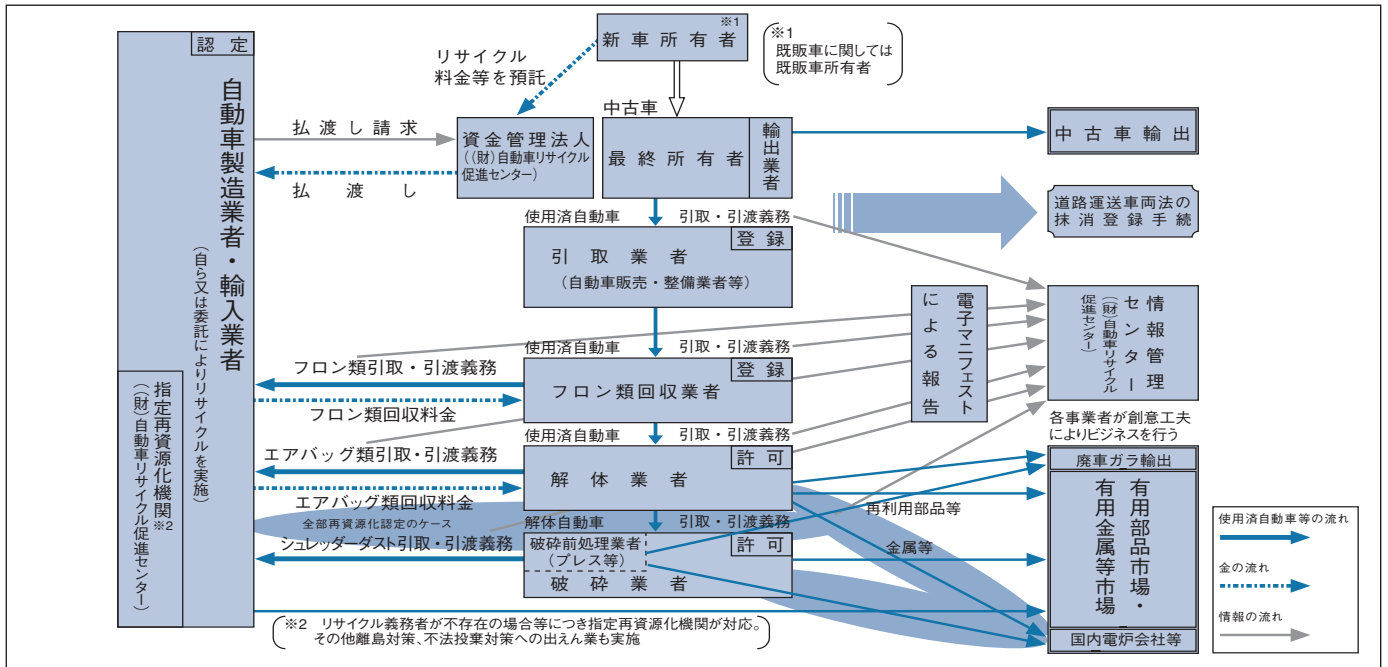


※1 自動車重量税の2/3は国の一般財源(ただし8割は国の道路特定財源)、1/3は地方の道路特定財源。  
※2 一般財源には自動車税、軽自動車税を充当。

資料：国土交通省

国内で発生する使用済み自動車の再利用は資源保護の観点からも重要な課題となっており、2005年1月から自動車リサイクル法が完全施行され、自動車メーカーは、使用済み自動車から発生するフロン類、エアバッグ類、シュレッターダストを引き取り、リサイクル・適正処理を行っています。

■リサイクル法概念図

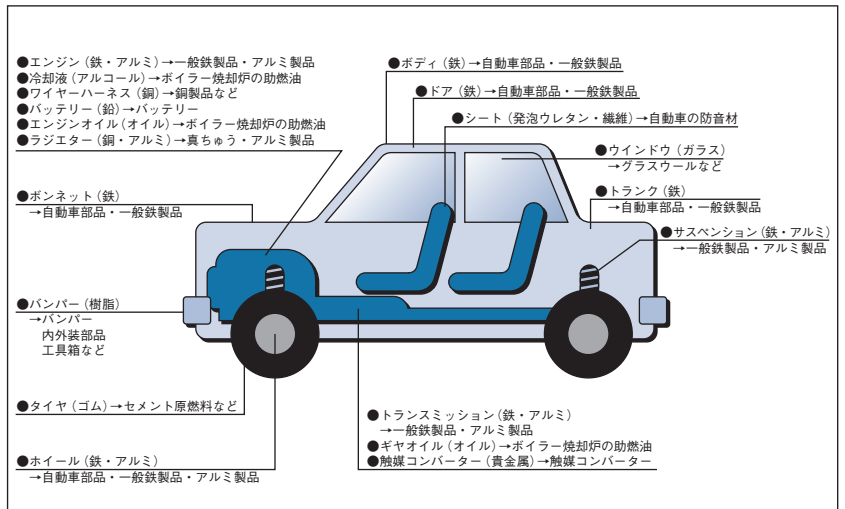


■日本自動車工業会における削減物質削減目標

削減物質	四輪車(自動車リサイクル法対象車両)の目標
鉛	2006年1月以降：10分の1以下(96年比) ただし大型商用車(バスを含む)は4分の1以下とする。 (1)削減の基準は、従来通り、1996年の1台当たりの鉛使用量代表値である1,850gとする。従って、2006年の10分の1以下は185g以下とする。 (2)バッテリーは除く。
水銀	自動車リサイクル法施行時点以降：以下を除き使用禁止 <交通安全上必要な部品の極微量使用を除外とする> ・ナビゲーション等の液晶ディスプレイ ・コンベクションランプ ・ディスチャージヘッドランプ ・室内蛍光灯 ・除外部品(極微量に含有)も、代替技術の積極的な開発を行う。
六価クロム	2008年1月以降：使用禁止 ・ボルト等の安全部分で長期使用のための防錆処理に含有。
カドミウム	2007年1月以降：使用禁止 ・電気、電子部品(ICチップ等)で、極微量に含有。

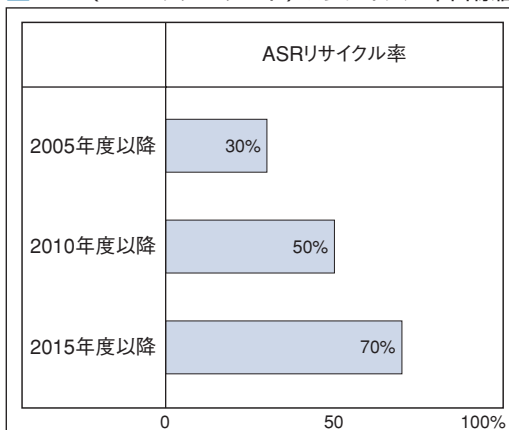
資料：日本自動車工業会

■使用済み自動車のリサイクル用途



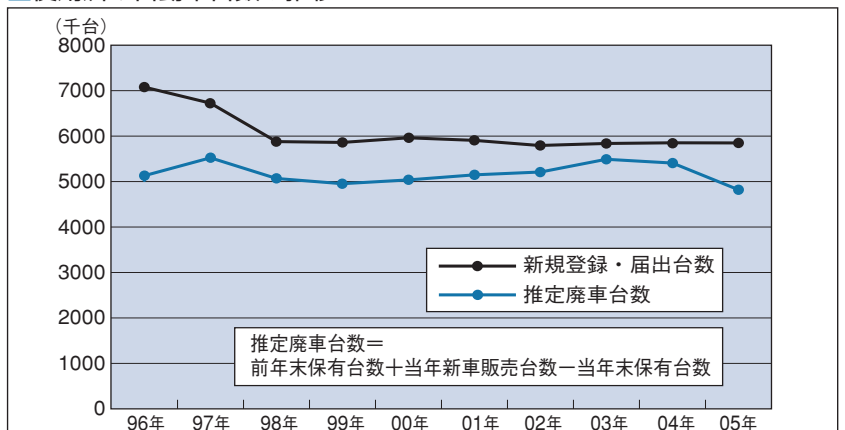
資料：日本自動車工業会

■ASR(シュレッターダスト)のリサイクル率目標値



資料：経済産業省、環境省

■使用済み自動車台数の推移



資料：日本自動車工業会

スピードはひかえめに。  
シートベルトやチャイルドシートを忘れずに。

# TOYOTA

**トヨタ自動車株式会社**  
**[www.toyota.co.jp](http://www.toyota.co.jp)**

発行:トヨタ自動車株式会社 広報部 発行年月:2007年4月  
お問い合わせは 東京本社/広報部 Tel(03)3817-7111(代)



森林資源保護のため再生紙を使用いたしました。  
Printed In Japan